

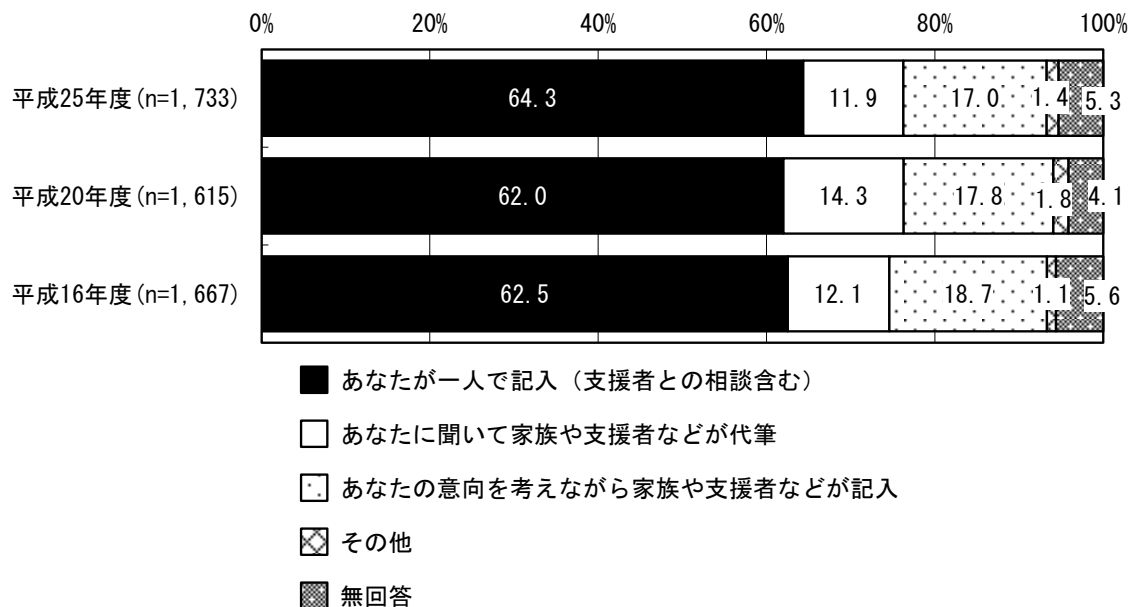
第3章 調査結果の分析

第3章 調査結果の分析

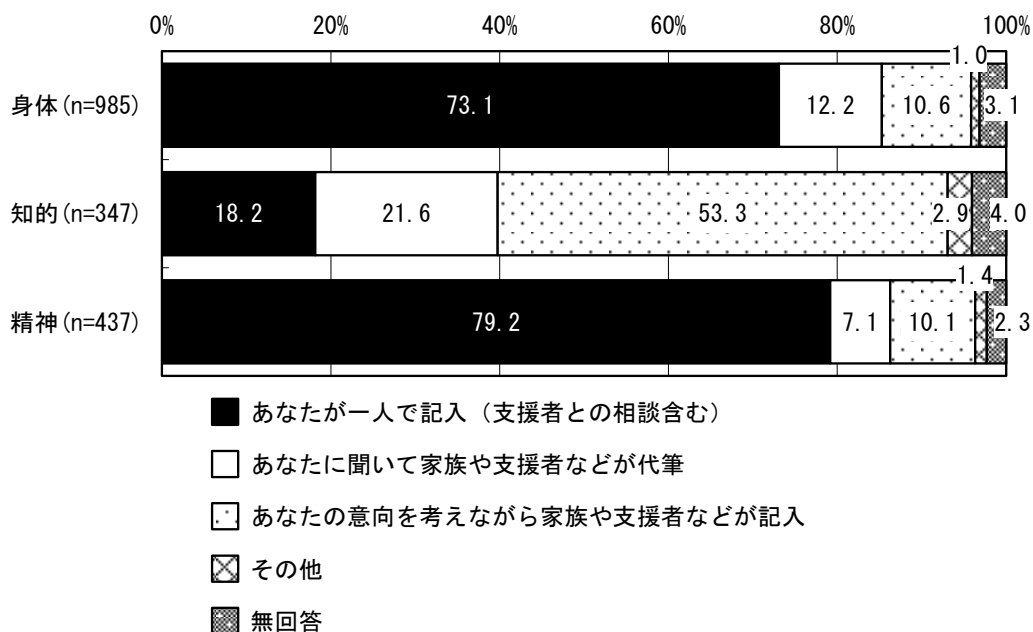
【1. 基本的事項】

問1 調査票のご記入は主にどなたですか。(〇は1つ)

(経年比較)

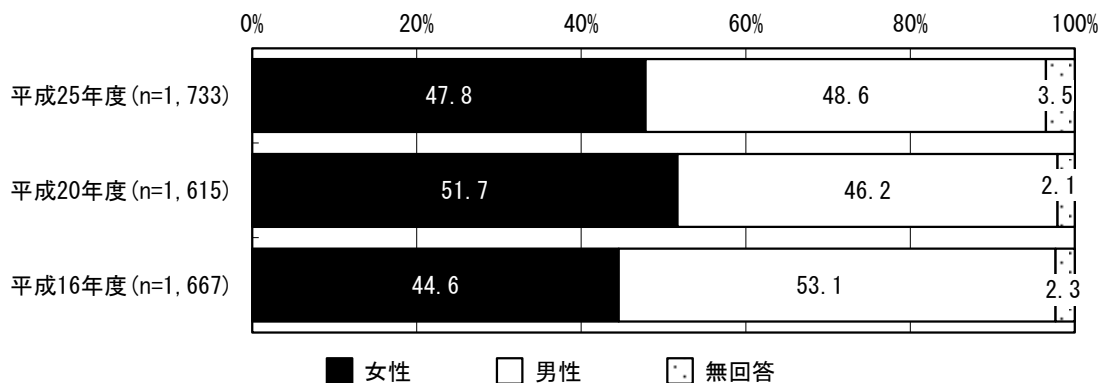


(平成25年度障害別)

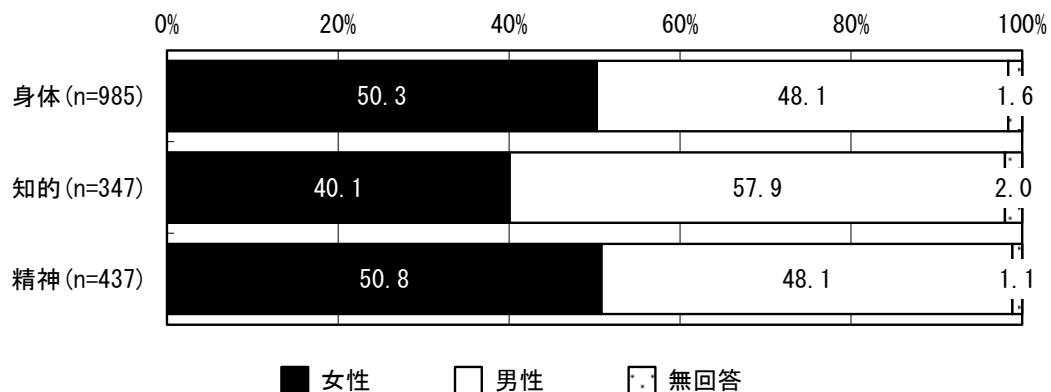


問2 あなたの性別をお答え下さい。(○は1つ)

(経年比較)

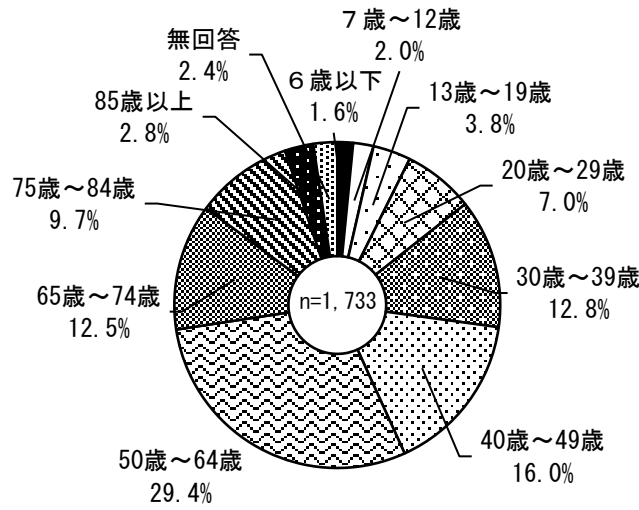


(平成 25 年度障害別)

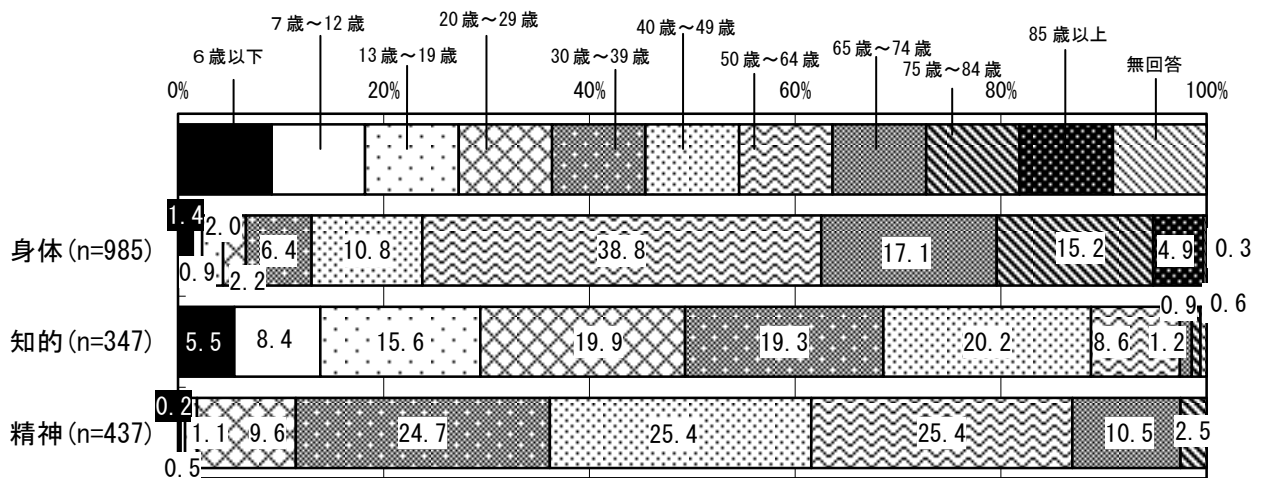


問3 あなたの年齢（平成25年11月1日現在）をお答え下さい。（○は1つ）

（全体の傾向）

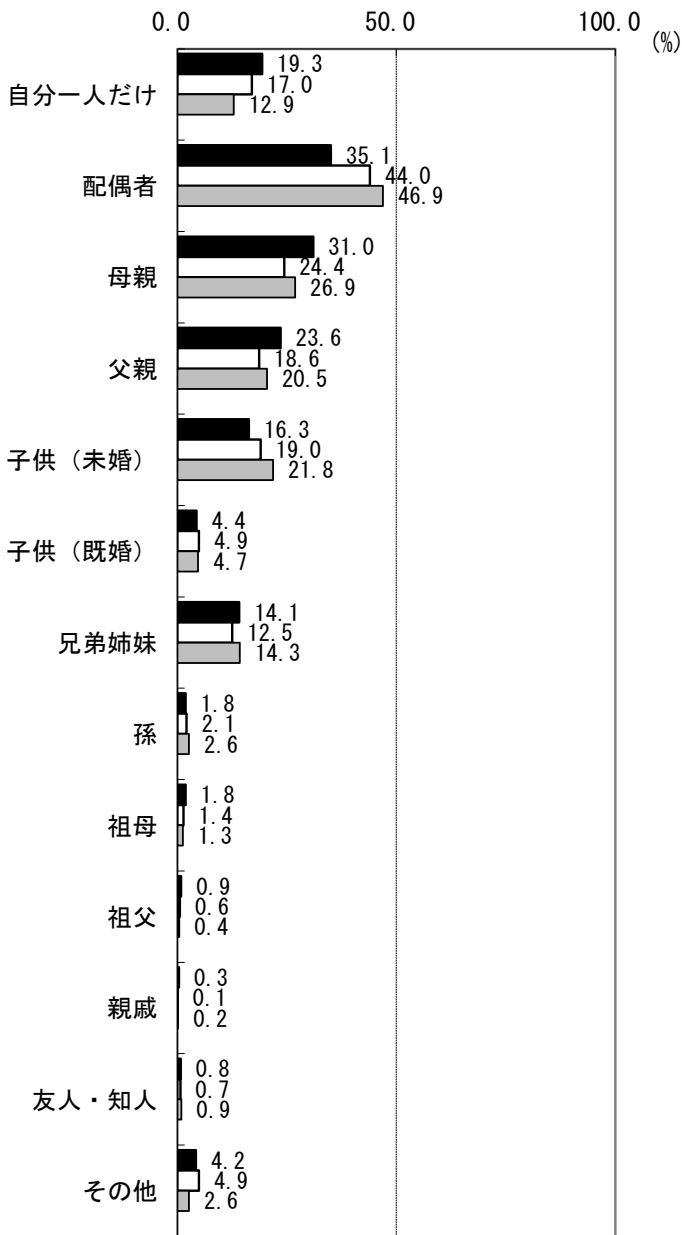


（平成25年度障害別）

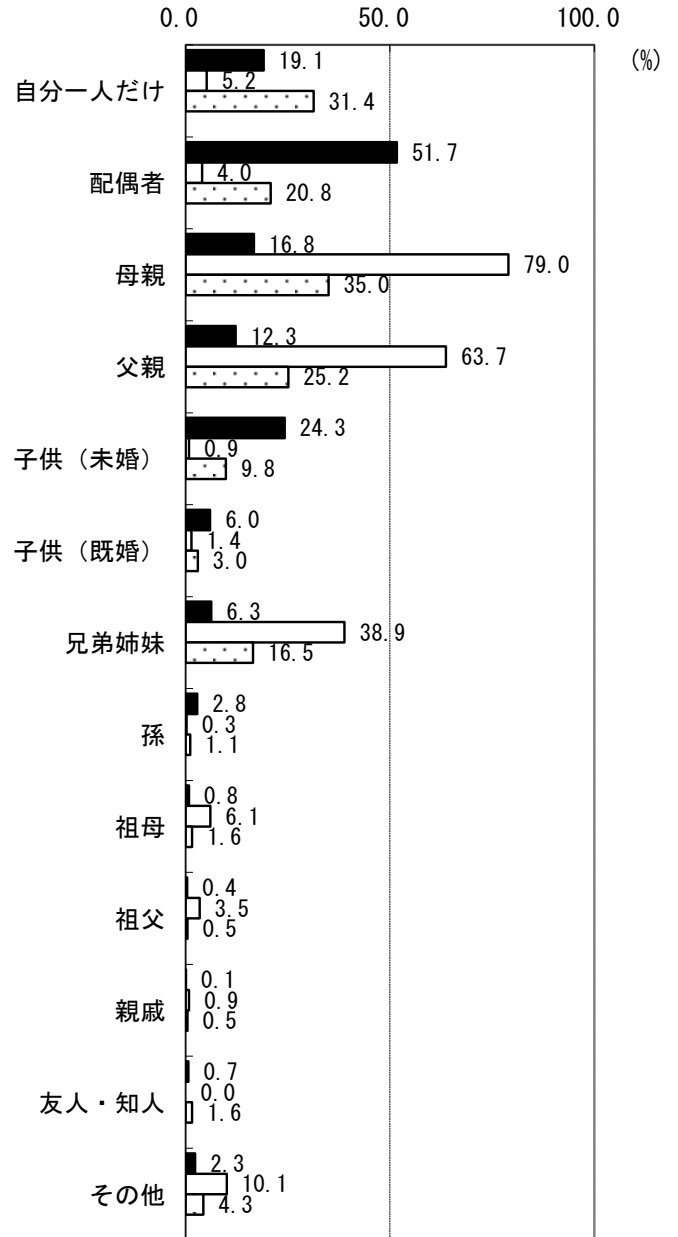


問4 あなたは誰と一緒に暮らしていますか。(〇はいくつでも)

(経年比較)



(平成25年度障害別)

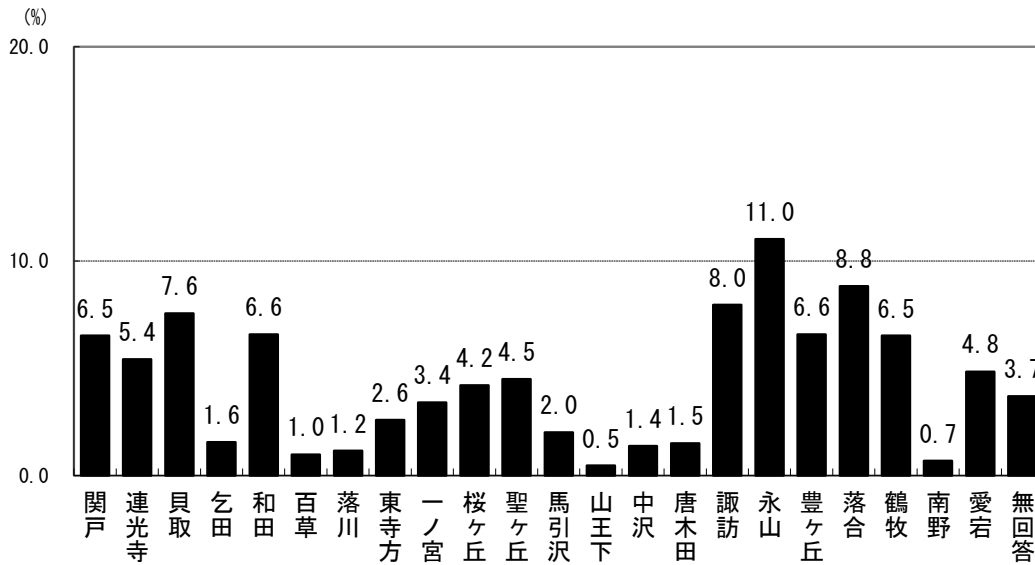


平成25年度 (n=1,733)
 平成20年度 (n=1,615)
 平成16年度 (n=1,667)

身体 (n=985)
 知的 (n=347)
 精神 (n=437)

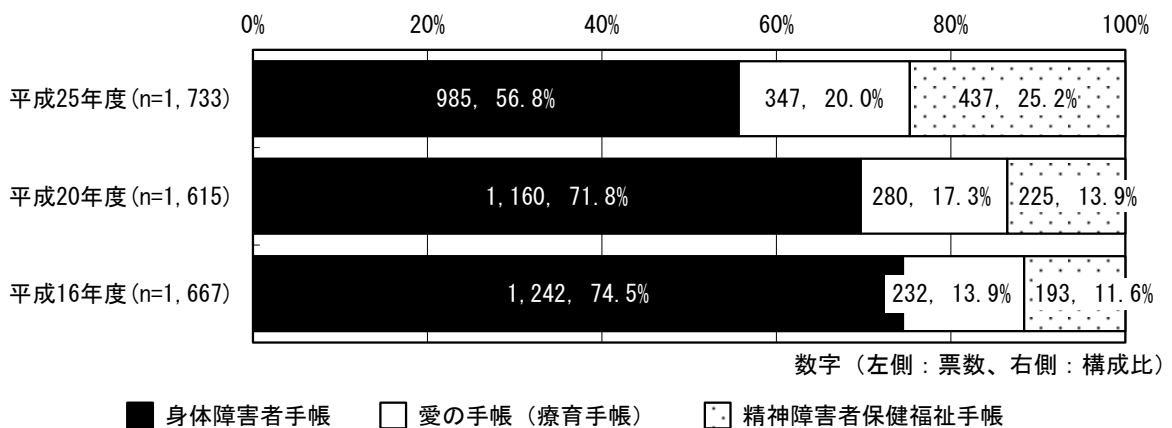
問5 あなたは多摩市のどちらにお住まいですか。(〇は1つ)

(全体の傾向)



問6 あなたのお持ちの障害者手帳の種類は何ですか。複数の手帳をお持ちの方は、主な障害の手帳に◎をつけてください。(〇はいくつでも)

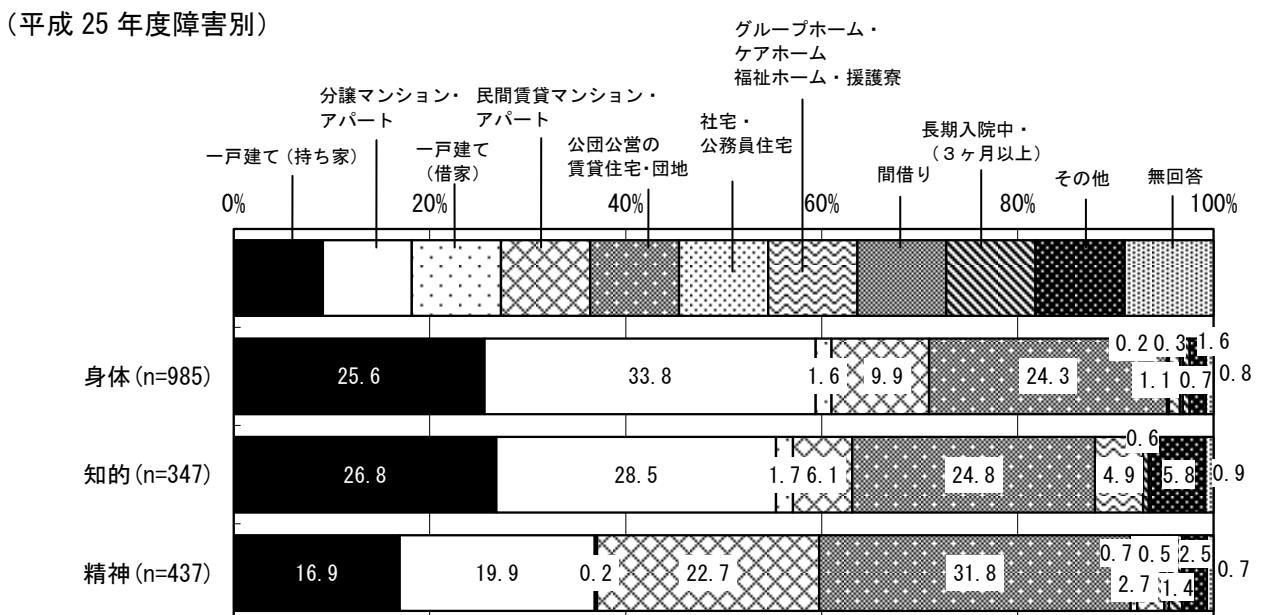
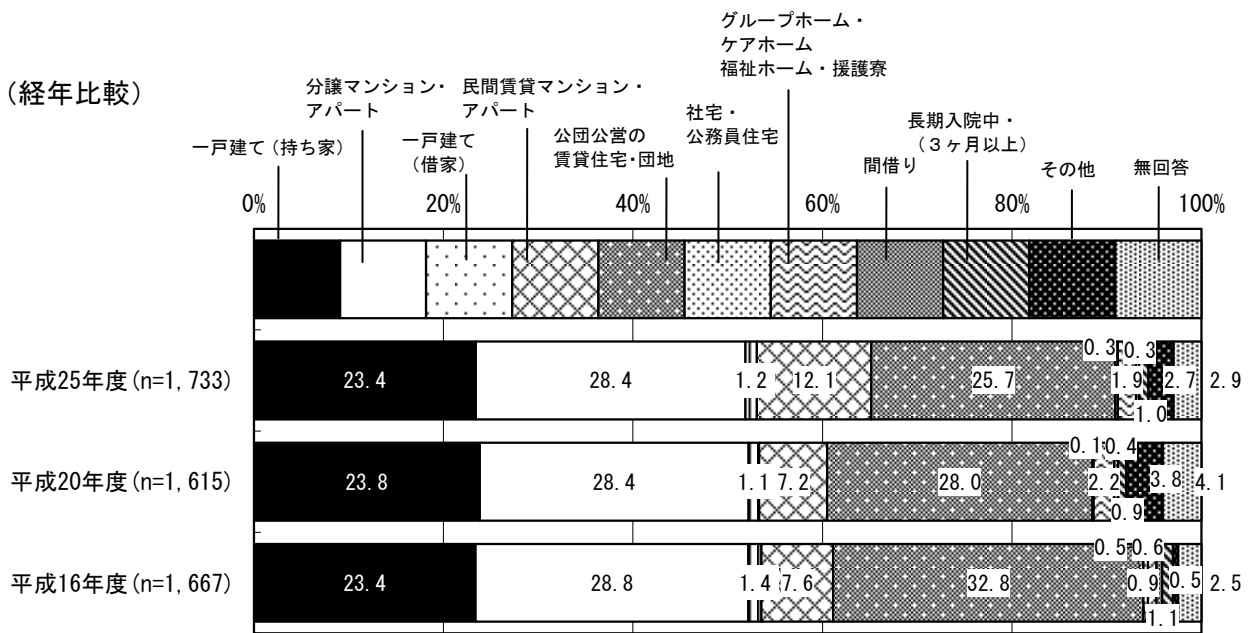
(経年比較)



【2. 住宅状況】

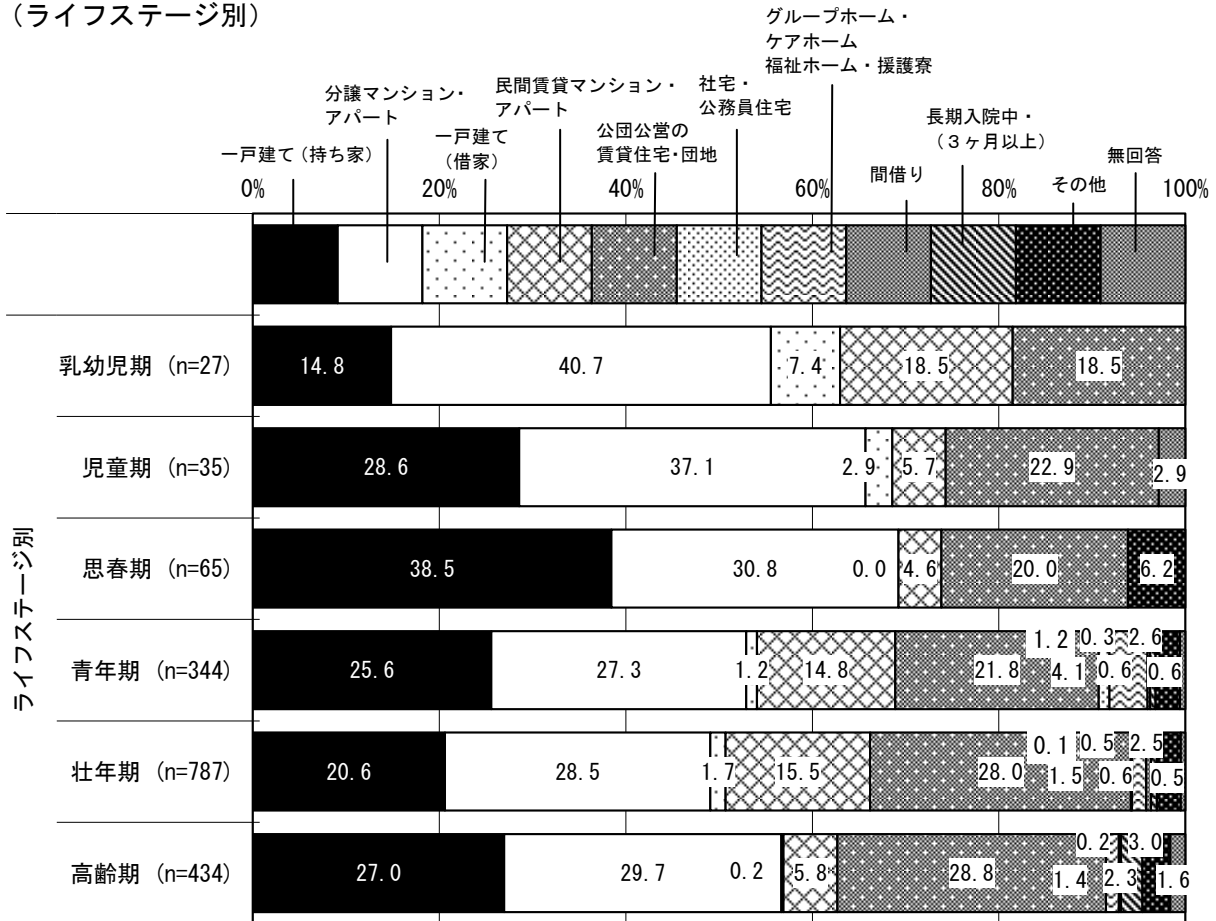
問7 あなたのお住まいは、次のうちどれですか。親と同居している場合は、その住まいについてお答え下さい。(〇は1つ)

- ・全体では「分譲マンション・アパート」が28.4%と最も多く、次いで「公団公営の賃貸住宅・団地」となっている。
- ・前回と比較すると「民間賃貸マンション・アパート」の割合が増加している。
- ・障害別にみると「身体」「知的」では「分譲マンション・アパート」が最も多く、次いで「一戸建て(持ち家)」となっている。
- ・「精神」では「公団公営の賃貸住宅・団地」が31.8%と最も多く、次いで「民間賃貸マンション・アパート」となっている。



・ライフステージ別にみると、「思春期」においては「一戸建て（持ち家）」が38.5%と最も多く、それ以外のライフステージでは「分譲マンション・アパート」が最も多い。

(ライフステージ別)



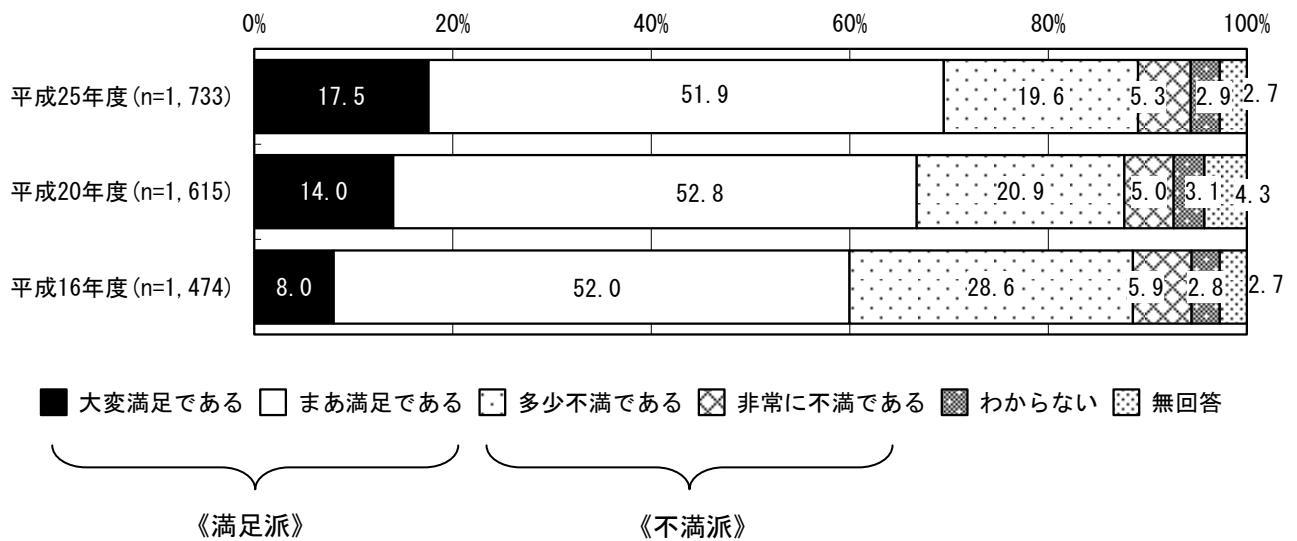
※ライフステージ

区分	年齢
乳幼児期	6歳以下
児童期	7歳～12歳
思春期	13歳～19歳
青年期	20歳～39歳
壮年期	40歳～64歳
高齢期	65歳以上

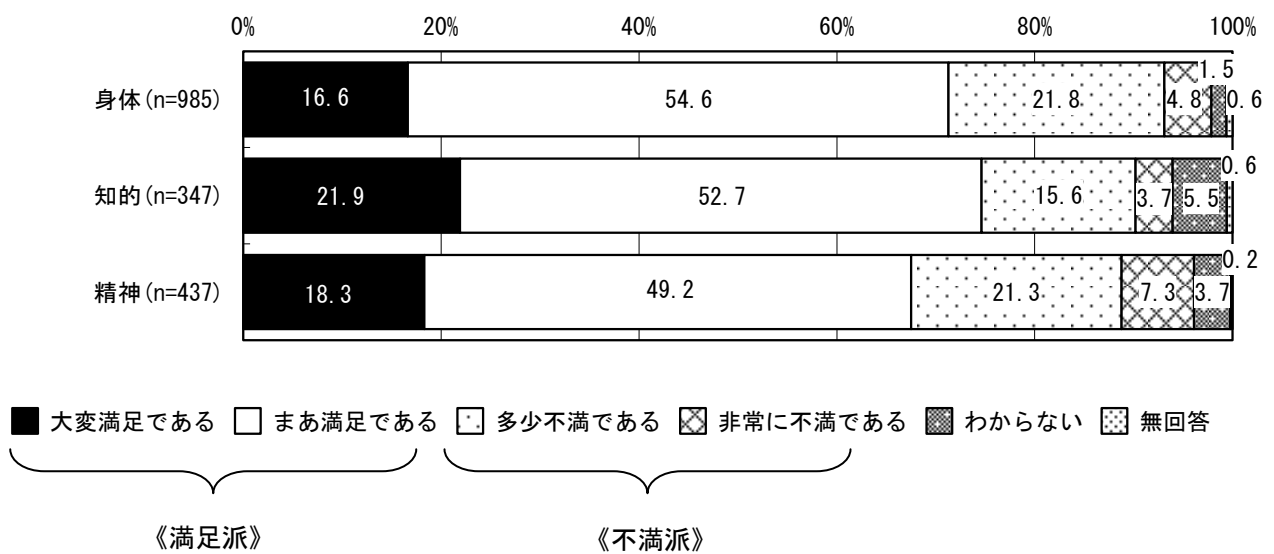
問8 あなたのお住まいの住み心地はいかがですか。(〇は1つ)

- ・全体では「まあ満足である」が51.9%と最も多く、「大変満足である」の17.5%と合わせると7割弱の人が満足していると答えている。
- ・前回までと比較すると「大変満足である」「まあ満足である」の割合が増加している。
- ・障害別にみると、全ての障害で「大変満足である」「まあ満足である」をあわせた《満足派》が6割以上となっている。

(経年比較)

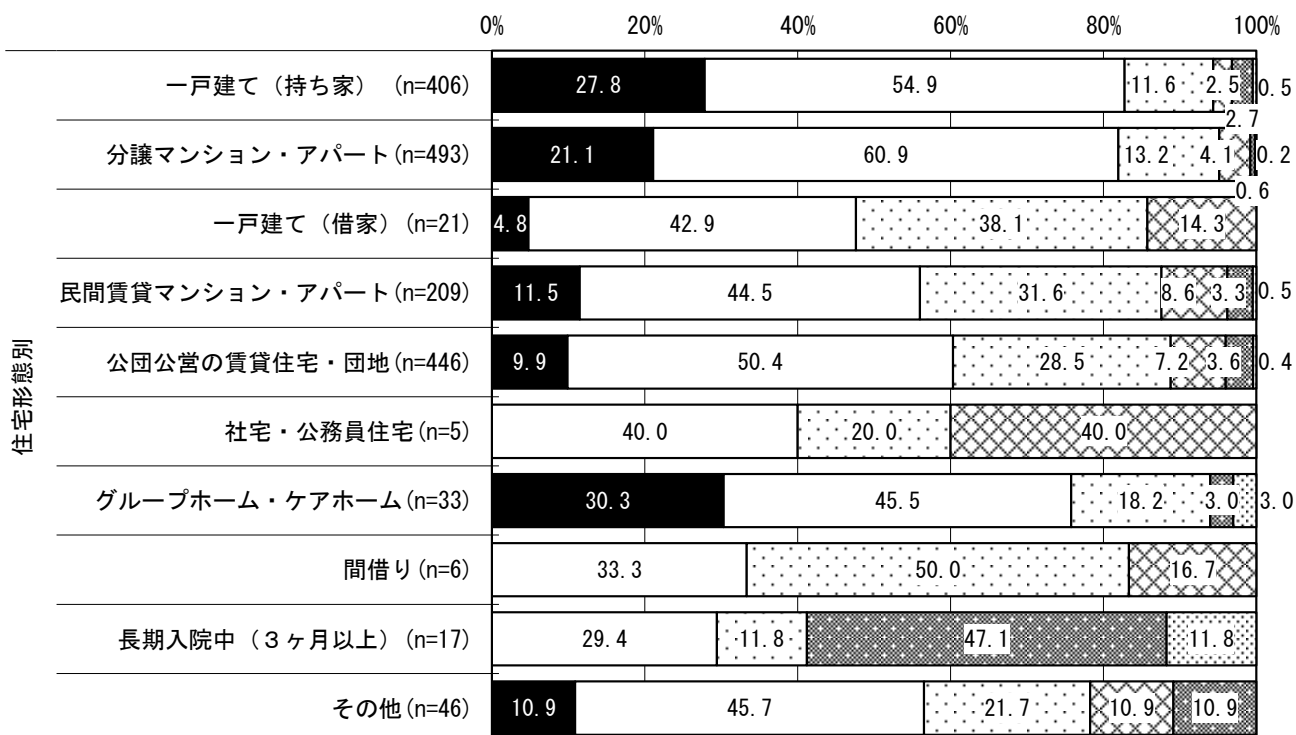


(平成25年度障害別)



・住居形態別でみると、《満足派》は「一戸建て（持ち家）」が8割強と最も多く、次いで「分譲マンション・アパート」、「グループホーム・ケアホーム」となっている。

(住居形態別)



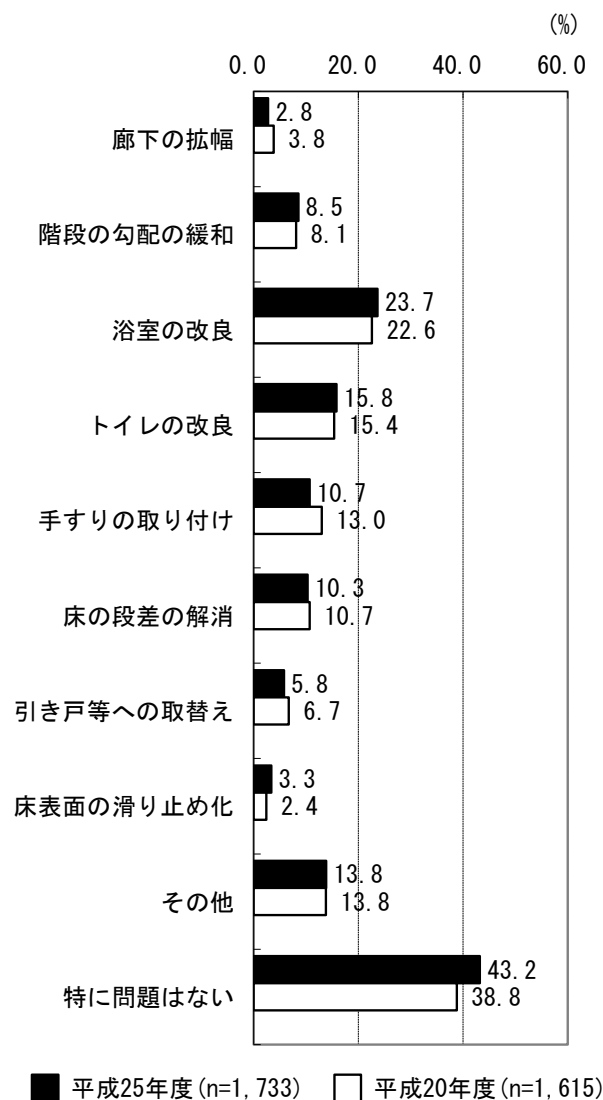
大変満足である
 まあ満足である
 多少不満である
 非常に不満である
 わからない
 無回答

《満足派》
《不満派》

問9 あなたのお住まいで今後改善したいと思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

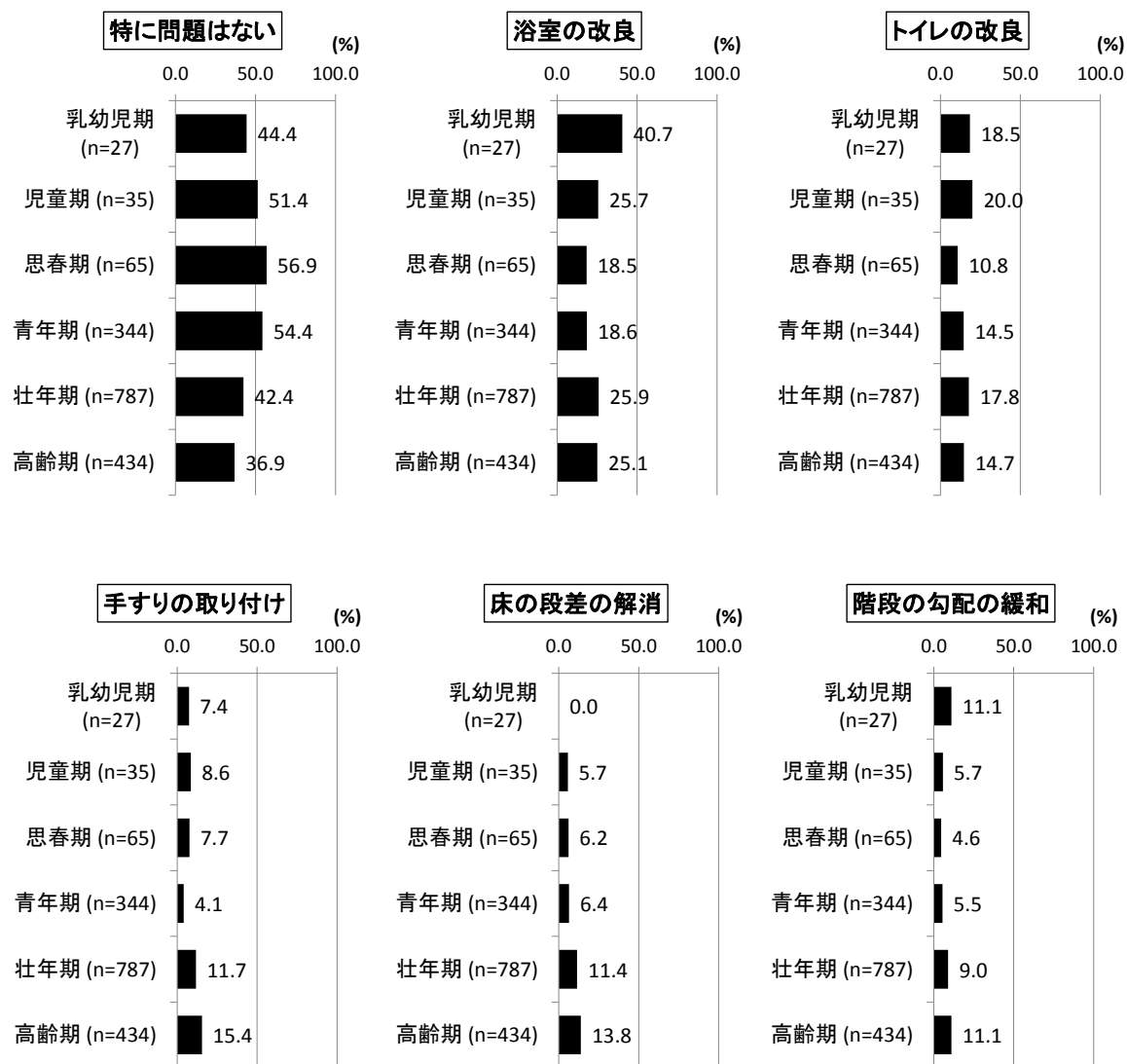
- ・全体では「特に問題はない」が43.2%と最も多く、次いで「浴室の改良」が23.7%、「トイレの改良」が15.8%となっている。

(経年比較)



- ・すべてのライフステージにおいて「特に問題はない」が最も多くなっている。「浴室の改良」は「特に問題はない」を除いた項目の中で最も多い。
- ・全てのライフステージにおいて、「トイレの改良」は1割以上を占めている。
- ・「床の段差の解消」はライフステージが進むにつれ増加している。

(ライフステージ別、上位6項目)



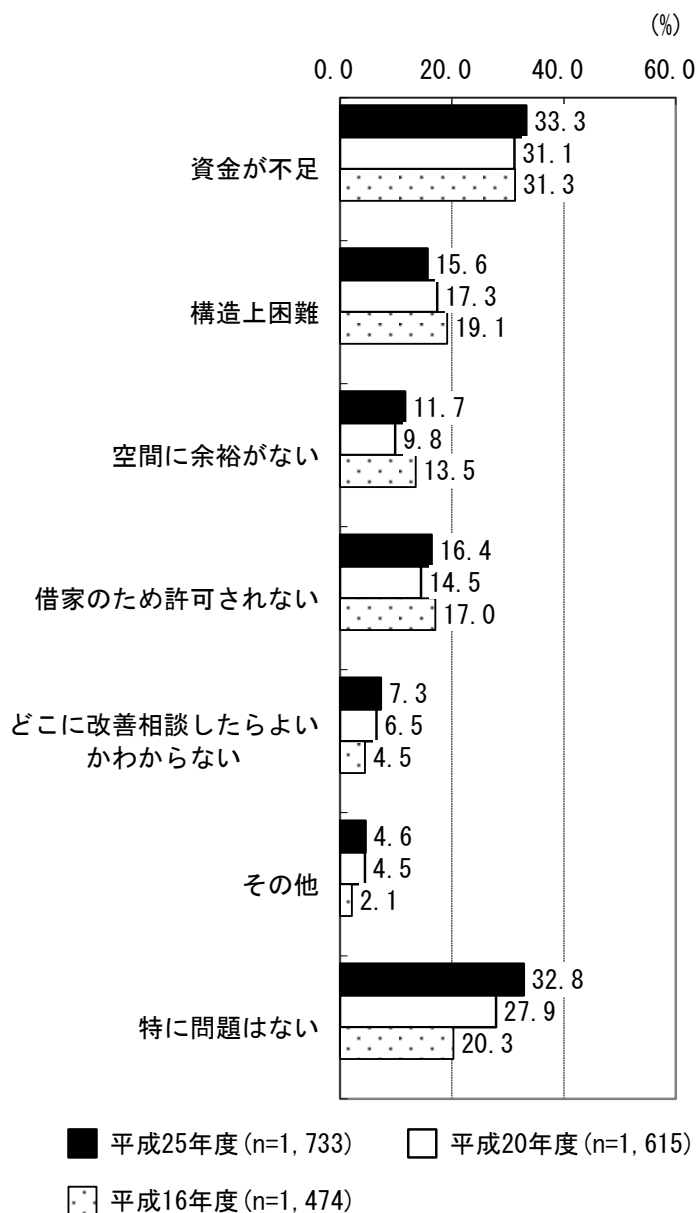
※ライフステージ

区分	年齢
乳幼児期	6歳以下
児童期	7歳～12歳
思春期	13歳～19歳
青年期	20歳～39歳
壮年期	40歳～64歳
高齢期	65歳以上

問10 お住まいを改善する場合、どのような問題点がありますか。(〇はいくつでも)

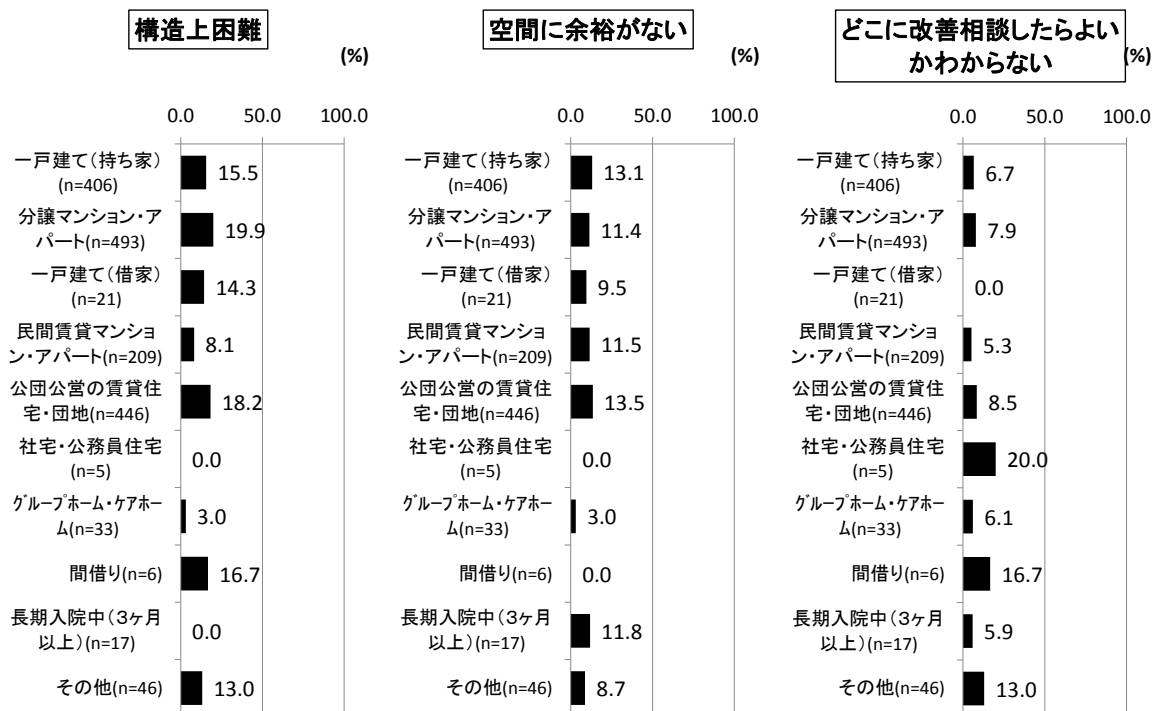
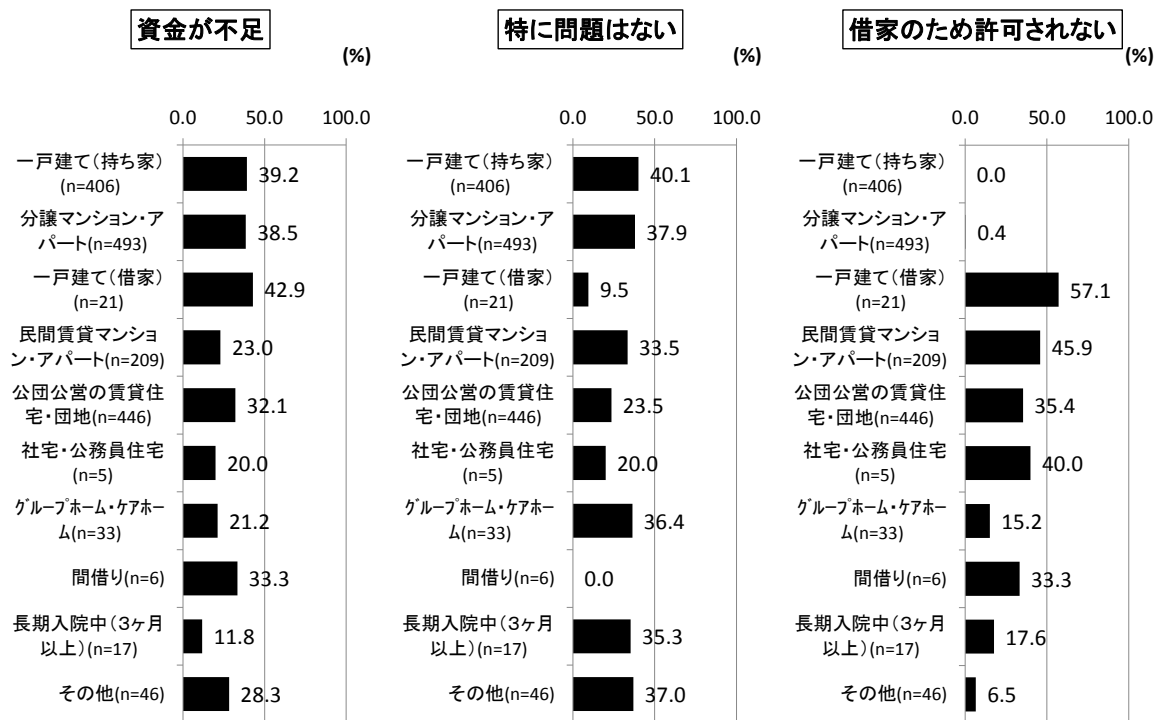
- ・全体では「資金が不足」が33.3%と最も多く、次いで「特に問題はない」が32.8%となっている。
- ・前回までと比較すると「特に問題はない」「どこに改善相談したらよいかわからない」の割合は増加傾向にある。

(経年比較)



- ・住居形態別でみると「資金が不足」は全ての住居形態において1割以上となっている。
- ・「一戸建て（借家）」においては「借家のため許可されない」が57.1%で最も多くなっており、「民間賃貸マンション・アパート」においても45.9%と最も多い。

(住居形態別)

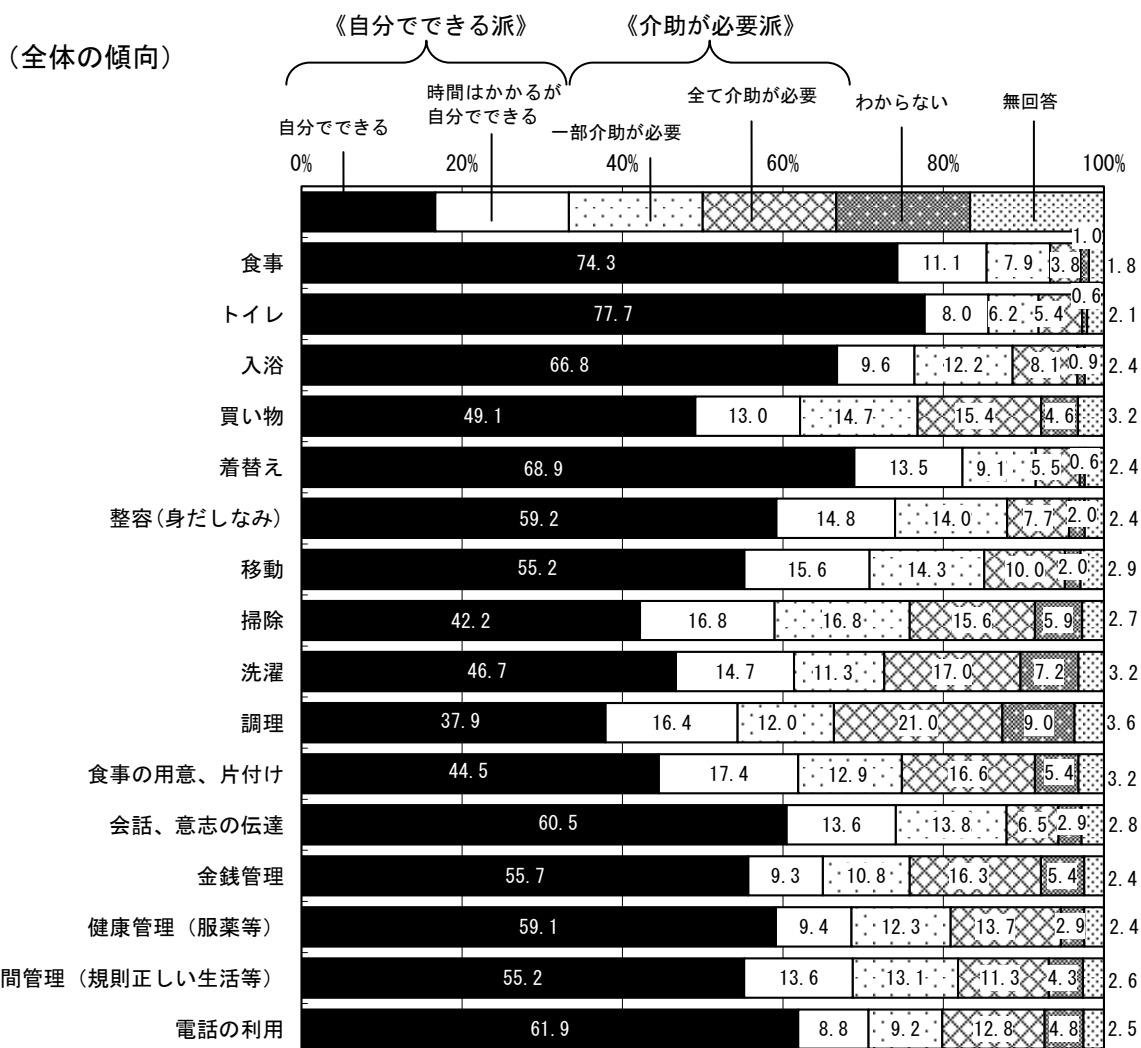


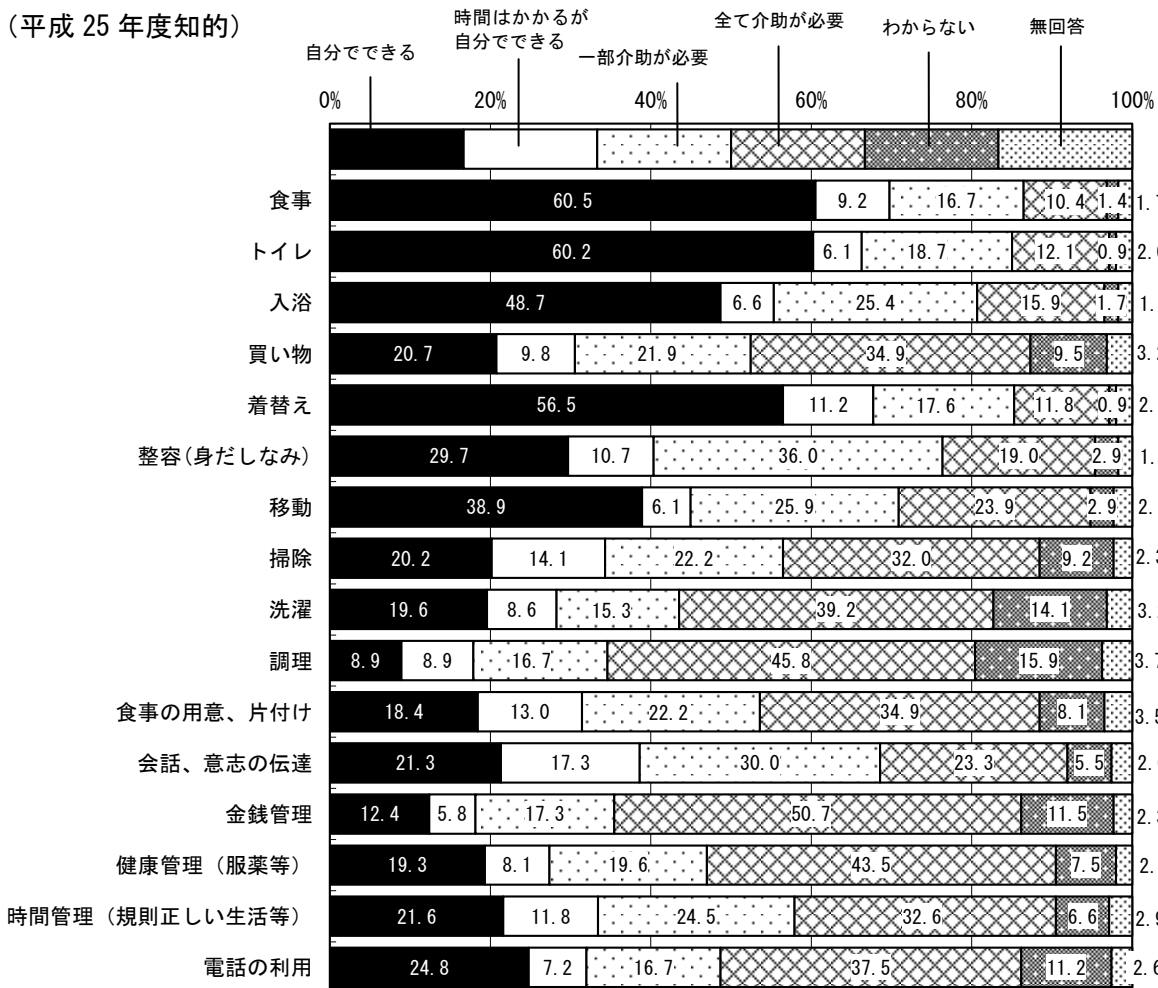
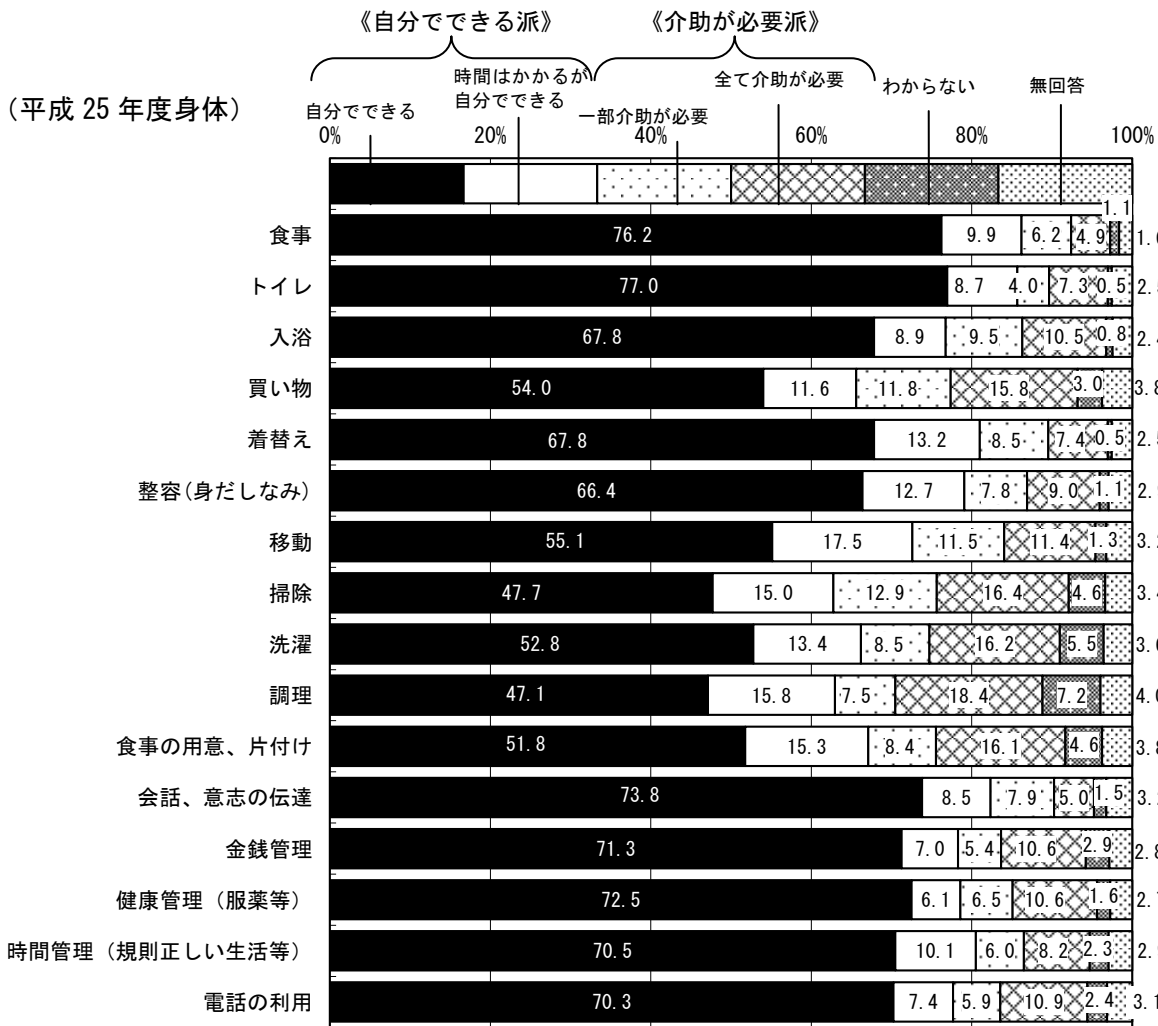
【3. 日常生活】

問11 次の①～⑯の日常生活について、あなたがどの程度介助が必要かお答え下さい。障害を補うための補装具（義肢、義眼、義歯、眼鏡、補聴器、白杖等）や機器（車いす、移動リフト、歩行器等）を使用している方は、使用した状態を想定してお答え下さい。

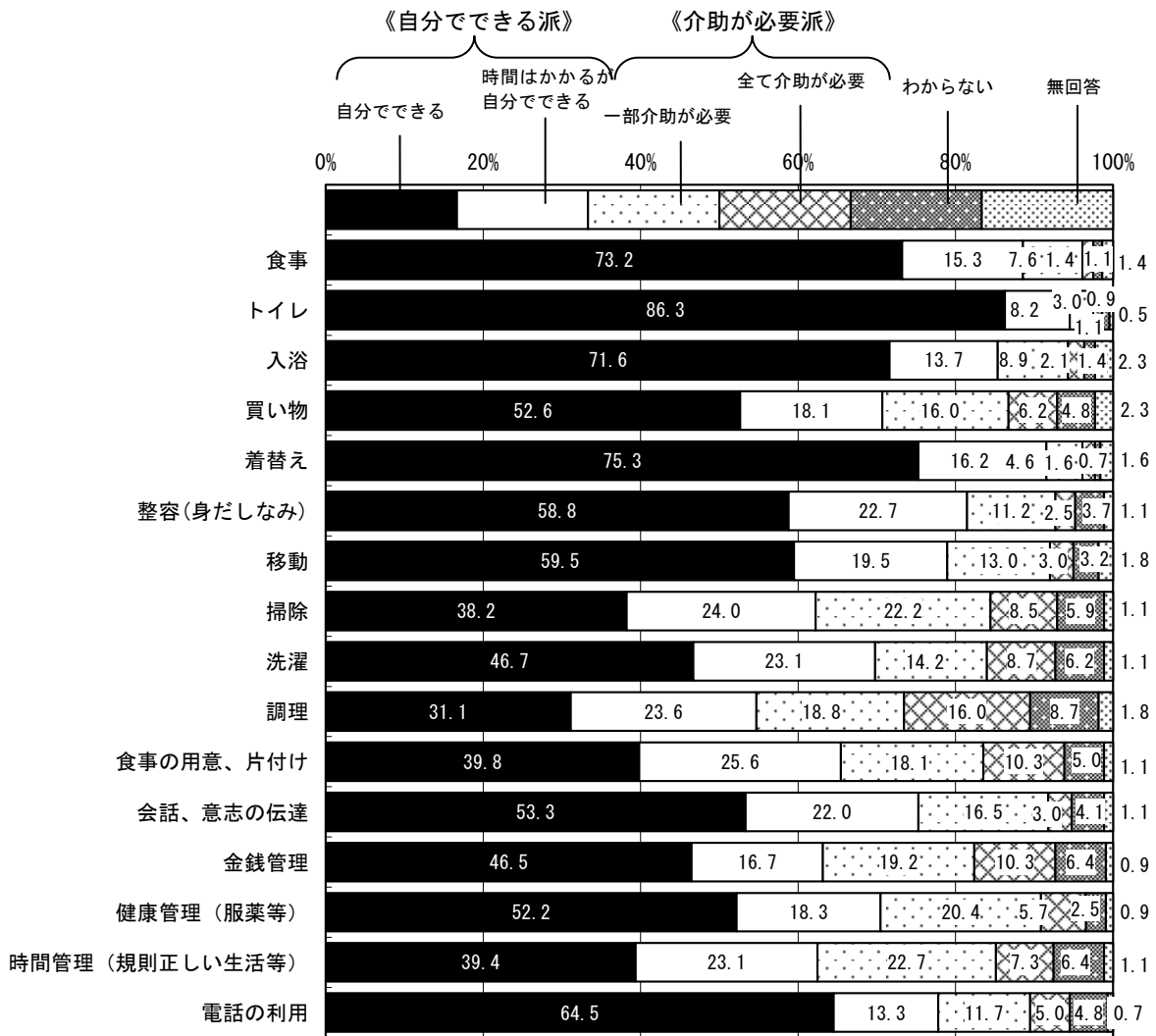
一般成人の一人暮らしを想定した設問になっています。児童や要介護の高齢者の方など、回答が困難な項目については、「わからない」に○を付けてください。（○は1～5のうち1つ）

- ・全体では、「トイレ」、「食事」については「自分でできる」の割合がそれぞれ7割以上を占めている。
- ・「全て介助が必要」が多いのは、「調理」21.0%、「洗濯」17.0%、「食事の用意、片付け」16.6%の順となっている。
- ・障害別でみると「身体」では全ての項目で《自分でできる派》が6割以上を占めている。《介助が必要派》は「掃除」が29.3%と最も高く、次いで「買い物」が27.6%を占めている。
- ・「知的」では《自分でできる派》が他の障害に比べて少なく、「食事」「トイレ」「入浴」「着替え」以外の項目では5割未満となっている。また「全て介助が必要」は「金銭管理」が50.7%で最も高い。
- ・「精神」では「調理」以外の項目で《自分でできる派》が6割以上を占めている。《介助が必要派》は「調理」が34.8%と最も高く、次いで「掃除」が30.7%を占めている。





(平成 25 年度精神)

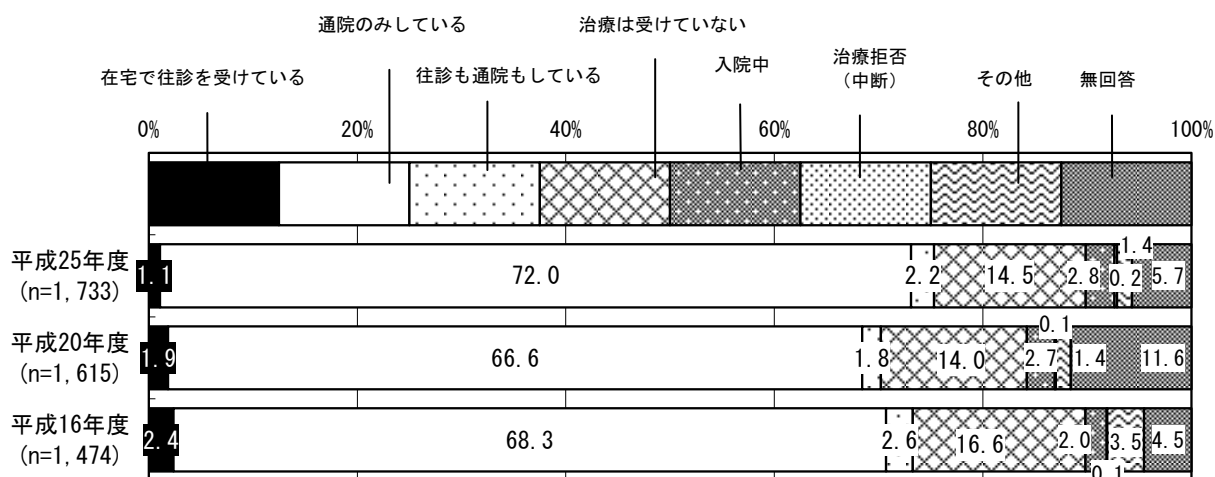


【4. 医療の状況】

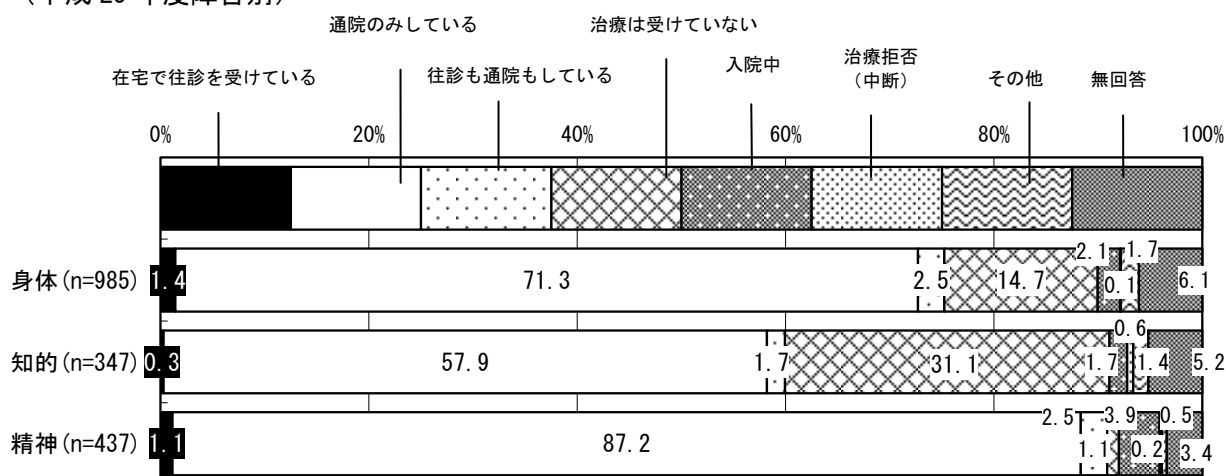
問 12-1 あなたは、通年、医師の治療を受けていますか。(機能回復訓練は除く) (○は1つ)

- ・全体では「通院のみしている」が72.0%と最も多くなっている。
- ・前回までと比較すると、ほぼ同じ傾向にあり「通院のみしている」が継続して最も多くなっている。
- ・障害別でみると、全ての障害で「通院のみしている」が5割以上で最も多い。
- ・「知的」では「治療は受けていない」が31.1%で、他の障害に比べて割合が高くなっている。
- ・「精神」では「通院のみしている」が87.2%で他の障害に比べて高く、「治療は受けていない」は1.1%で割合が低くなっている。

(経年比較)

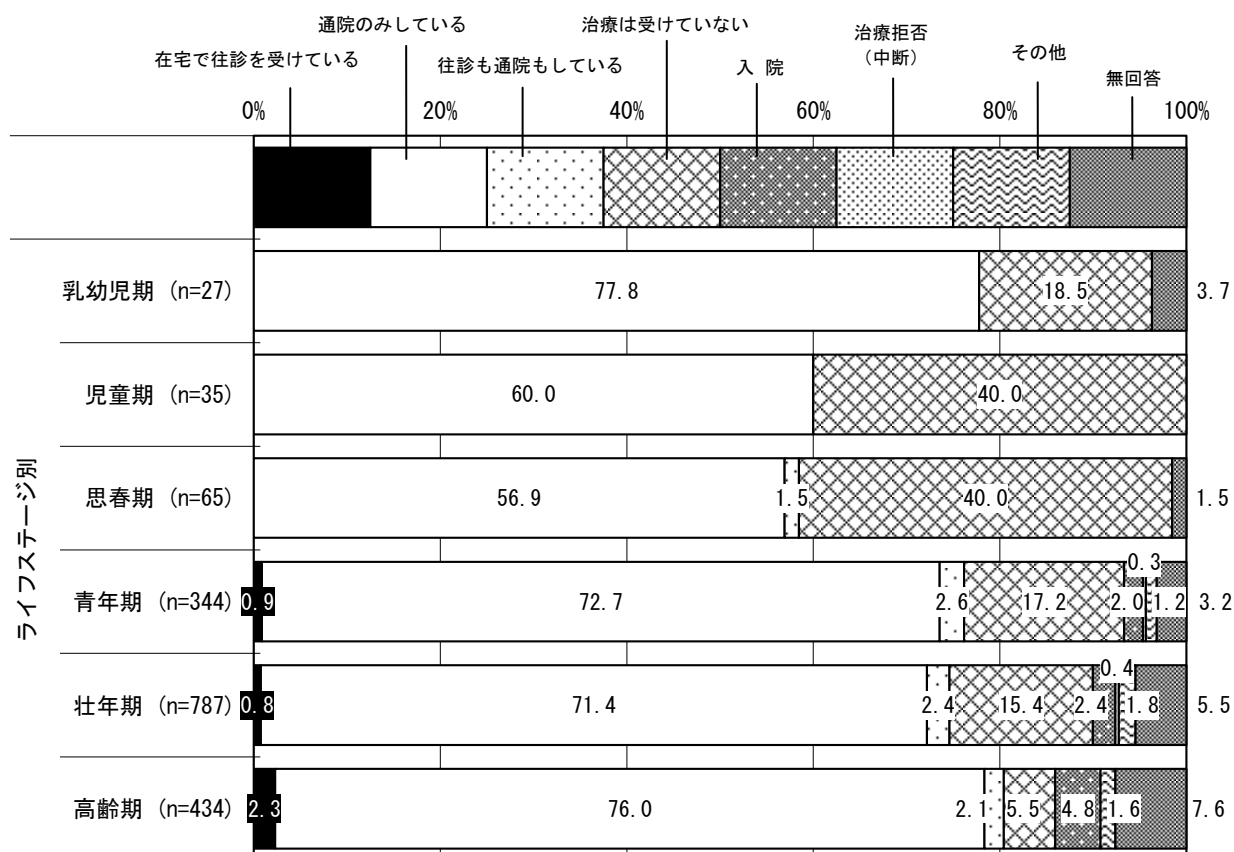


(平成25年度障害別)



- ・ライフステージ別でみると「通院のみしている」は「乳幼児期」「青年期」「壮年期」「高齢期」でそれぞれ7割以上を占めている。また最も少ない「思春期」においても56.9%となっている。
- ・「治療は受けていない」は「児童期」「思春期」が40.0%と最も高く、「高齢期」を除く他のライフステージでも1割台半ば以上となっている。

(ライフステージ別)



※ライフステージ

区分	年齢
乳幼児期	6歳以下
児童期	7歳～12歳
思春期	13歳～19歳
青年期	20歳～39歳
壮年期	40歳～64歳
高齢期	65歳以上

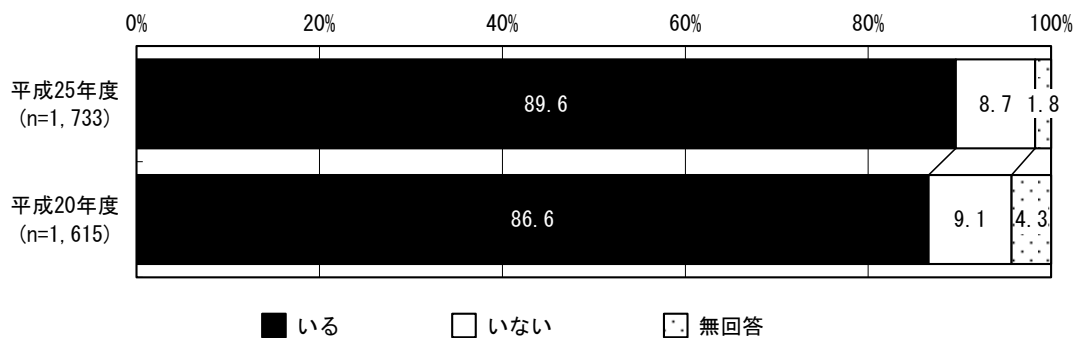
《問 12-1 で 1～3 をお答えの方におたずねします。》

問 12-2 医師の治療を受ける中で、あなたの身体状況をよく知っている、「かかりつけ医」はいますか。

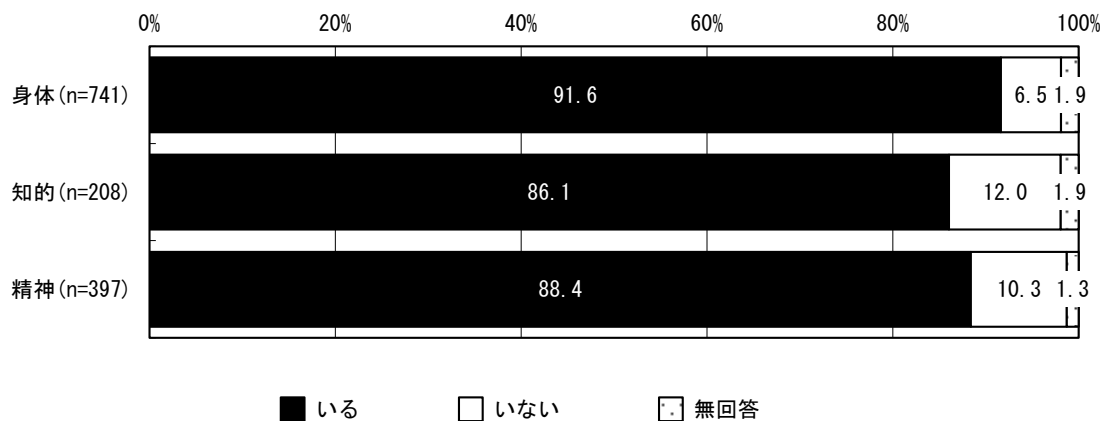
(○は1つ)

- ・全体ではかかりつけ医について「いる」が9割弱となっている。
- ・障害別でみると、全ての障害で「いる」が8割以上を占めている。

(経年比較)



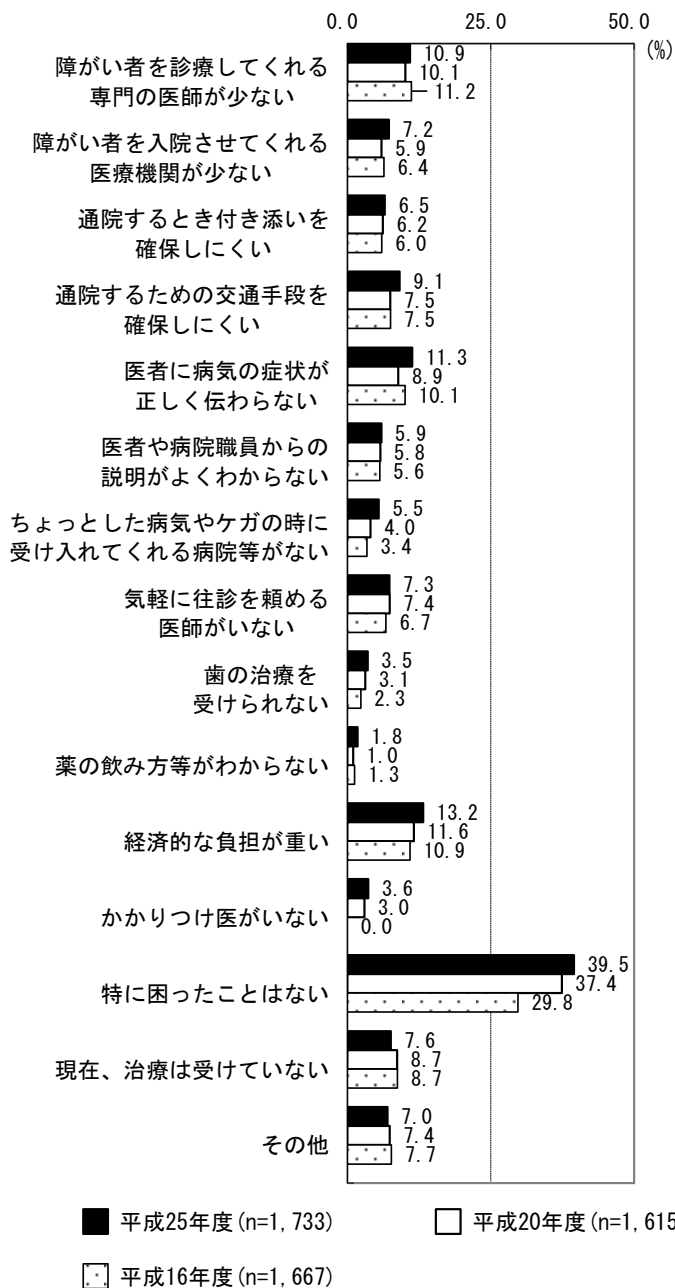
(平成 25 年度障害別)



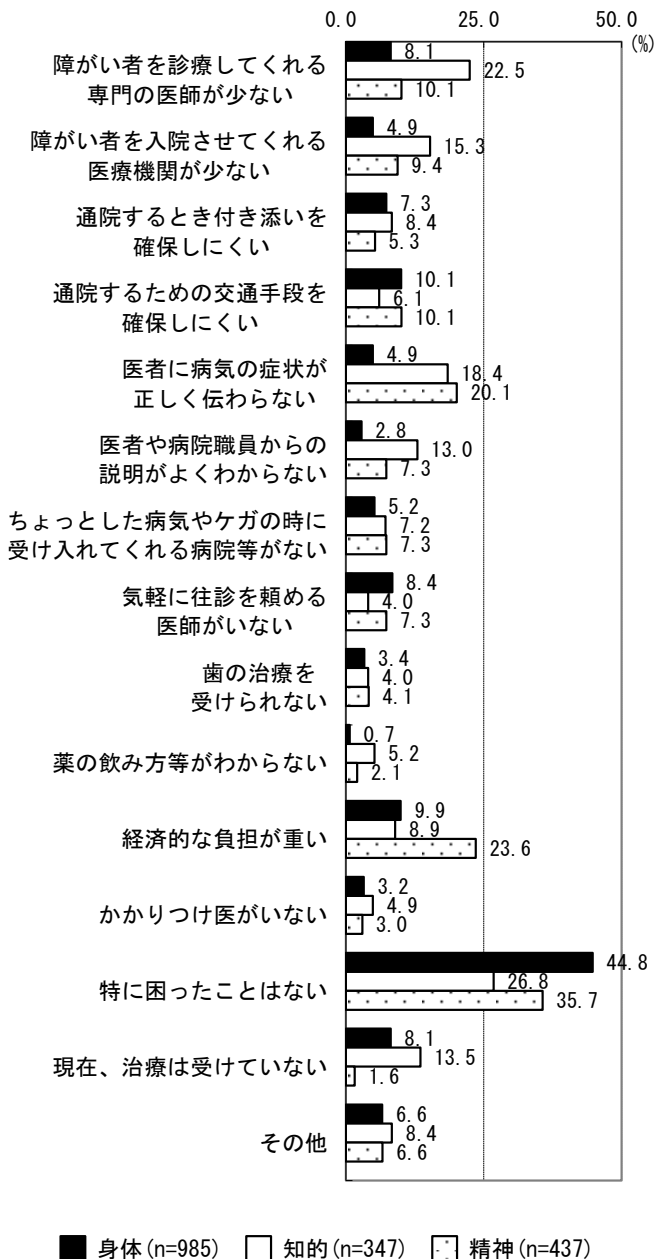
問 13 あなたが治療を受けるにあたって、困っていることは何ですか。(〇は3つまで)

- ・全体では「特に困ったことはない」が 39.5%と最も多く、次いで「経済的な負担が重い」が 13.2%、「医者に病気の症状が正しく伝わらない」が 11.3%となっている。
- ・前回までと比較すると大きな変化は見られない。
- ・障害別でみると、全ての障害で「特に困ったことはない」が最も多く、「身体」では 44.8%を占めている。
- ・「知的」では「障がい者を診療してくれる専門の医師が少ない」が 22.5%を占め、「特に困ったことはない」26.8%に次いで多くなっている。
- ・「精神」では「経済的な負担が重い」が 23.6%で他の障害に比べ割合が高い。また「医者に病気の症状が正しく伝わらない」も 2割以上となっている。

(経年比較)

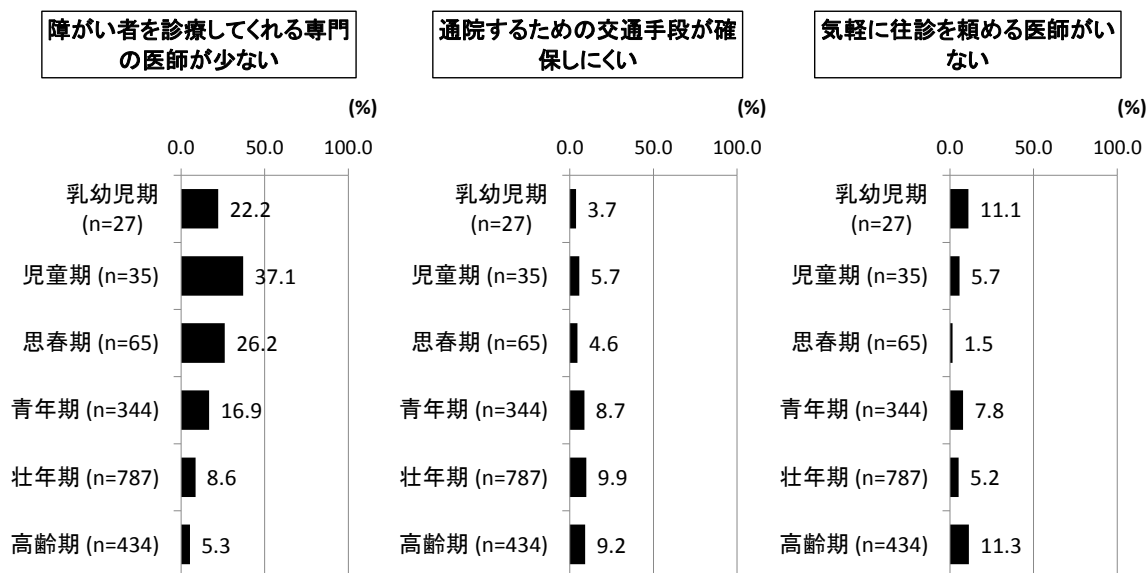
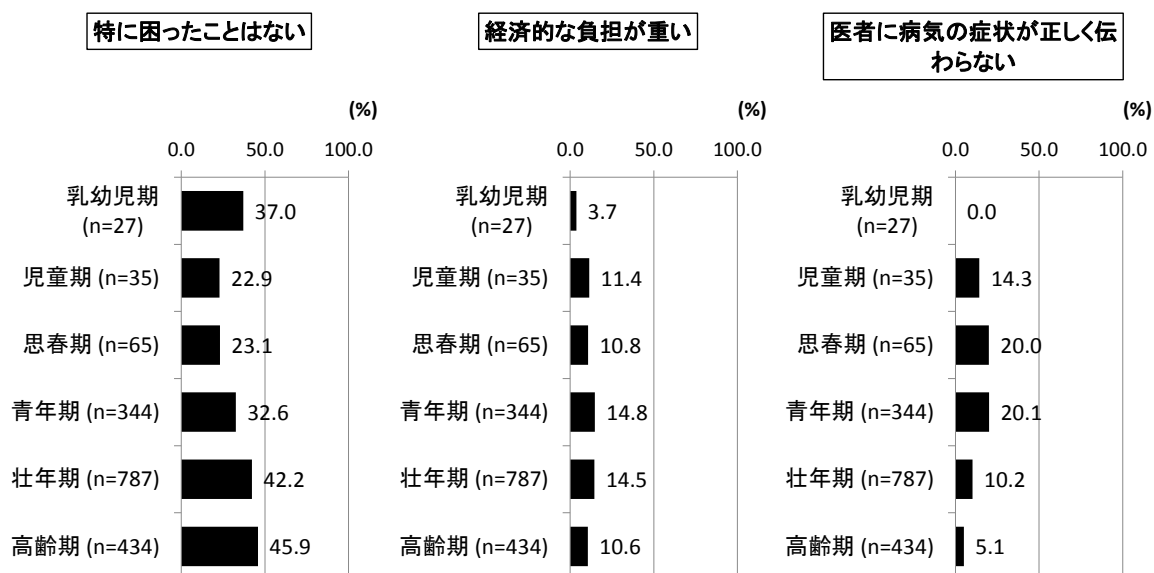


(平成 25 年度障害別)



- ・ライフステージ別でみると、「児童期」「思春期」においては「障がい者を診療してくれる専門の医師が少ない」が最も多く、それ以外のライフステージでは「特に困ったことはない」が最も多い。
- ・「経済的な負担が重い」の割合は「乳幼児期」以外の全てのライフステージで1割以上となっている。
- ・「医者に病気の症状が正しく伝わらない」は「思春期」「青年期」において2割以上となっている。
- ・「障がい者を診療してくれる専門の医師が少ない」については「乳幼児期」から「児童期」にかけて増加し、その後ライフステージが進むごとに減少している。

(ライフステージ別)



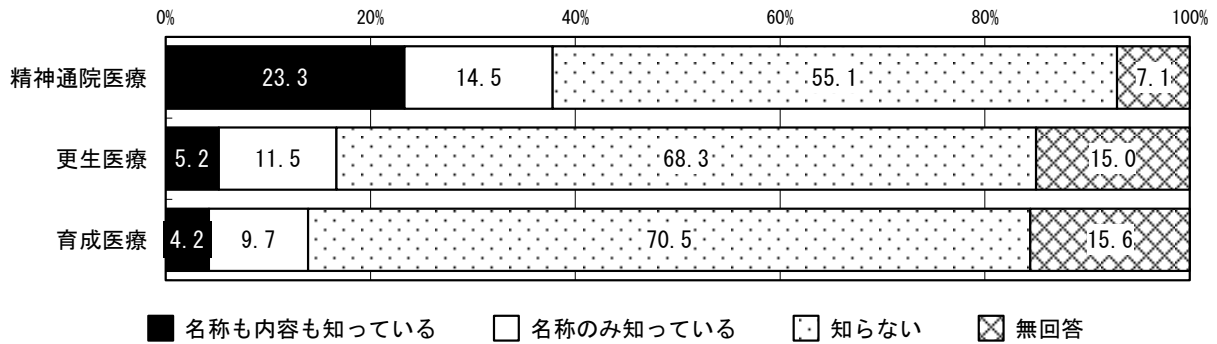
※ライフステージ

区分	年齢
乳幼児期	6歳以下
児童期	7歳～12歳
思春期	13歳～19歳
青年期	20歳～39歳
壮年期	40歳～64歳
高齢期	65歳以上

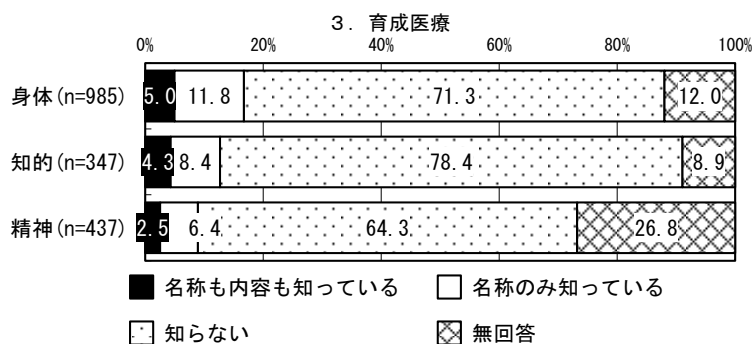
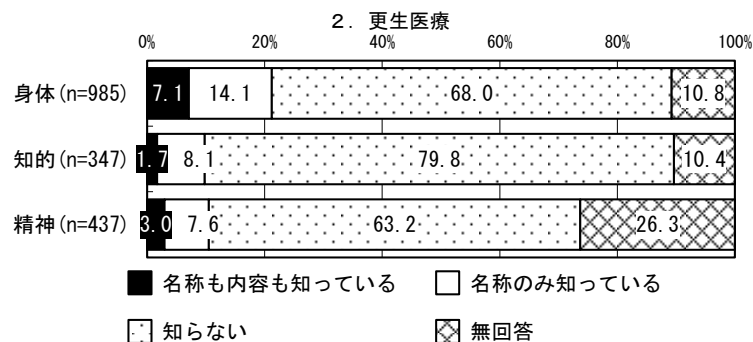
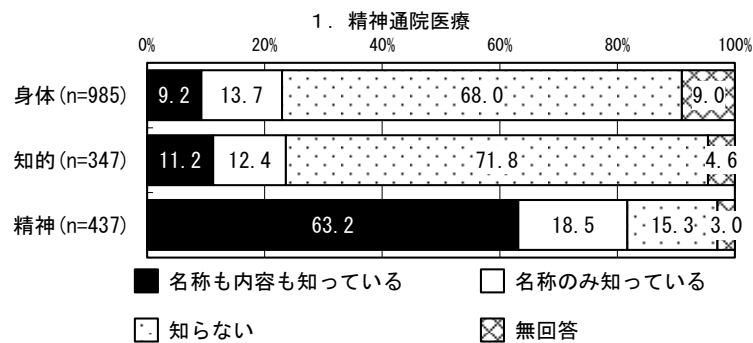
問 14 あなたは「障害者総合支援法」の自立支援医療制度（精神通院医療・更生医療・育成医療）を知っていますか。（〇は1～3のうち1つ）

・全体では3つの自立支援医療制度について、「知らない」が5割以上を占めている。

（全体の傾向）



（平成 25 年度障害別）

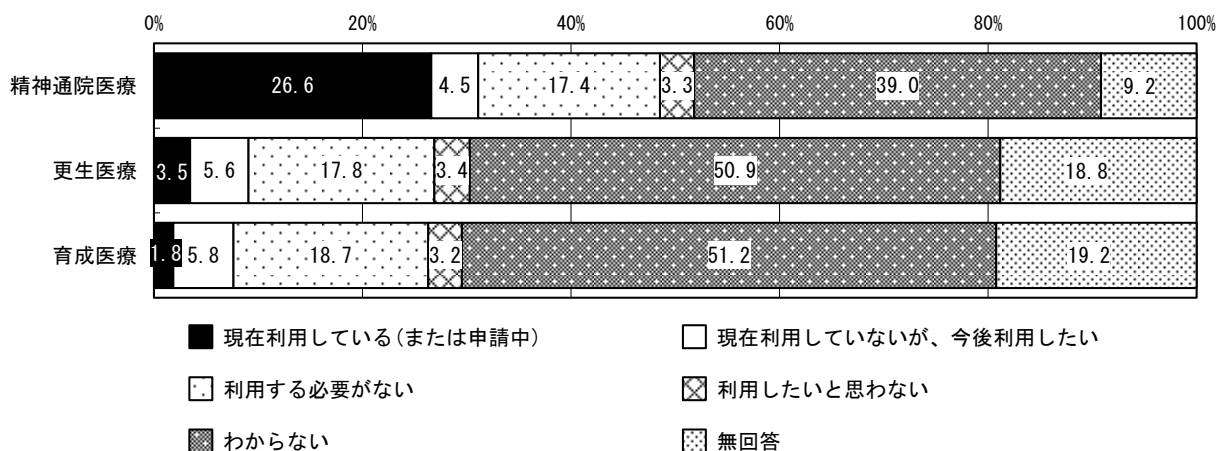


問 15 「障害者総合支援法」の自立支援医療制度について、あなたの利用状況をお答えください。

(○は1～4のうち1つ)

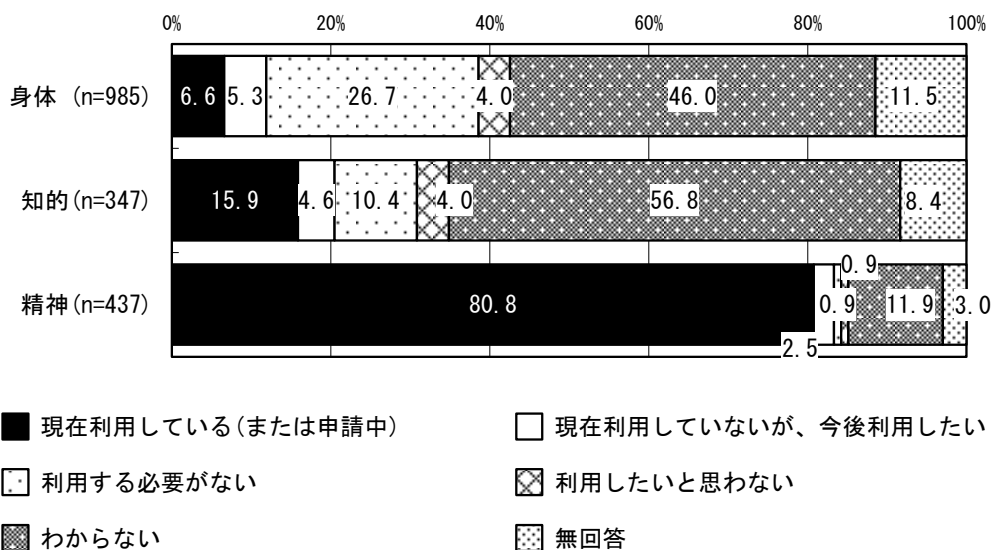
- ・全体では3つの自立支援医療制度について、「わからない」が最も多くなっている。
- ・障害別でみると、「精神通院医療」について「精神」では「現在利用している（または申請中）」が80.8%を占めている。
- ・「身体」では3つの自立支援医療制度について「利用する必要がない」の割合が2割以上を占めている。
- ・「更生医療」「育成医療」について「わからない」が全ての障害において最も多い。

(全体の傾向)

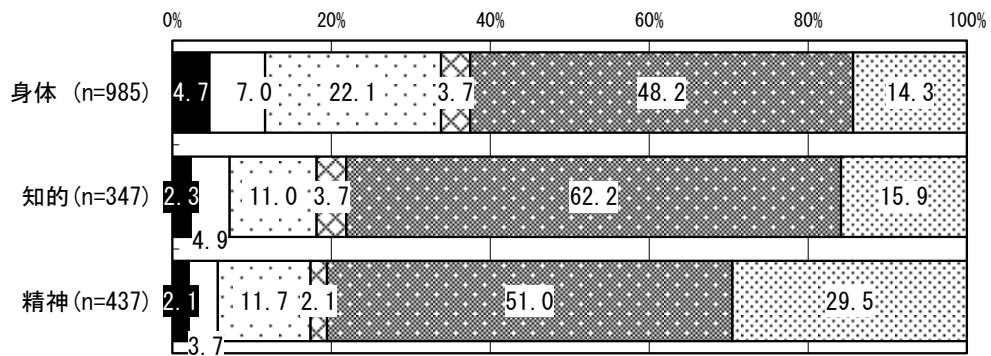


(平成 25 年度障害別)

1. 精神通院医療

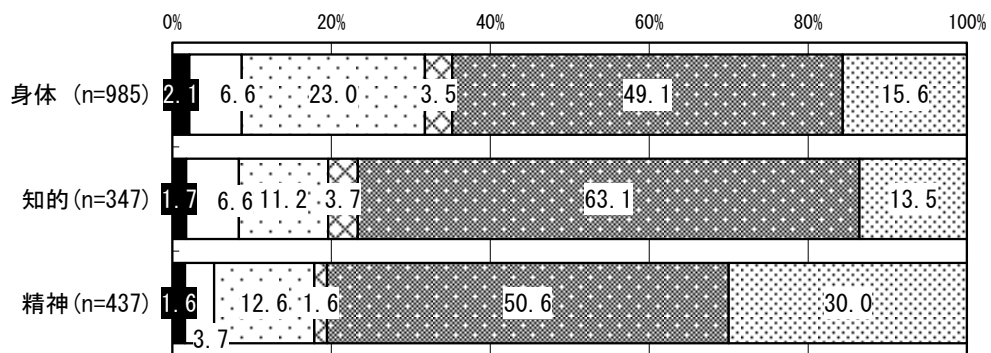


2. 更生医療



- 現在利用している(または申請中)
- 現在利用していないが、今後利用したい
- 利用する必要がある
- ☒ 利用したいと思わない
- わからない
- ▨ 無回答

3. 育成医療



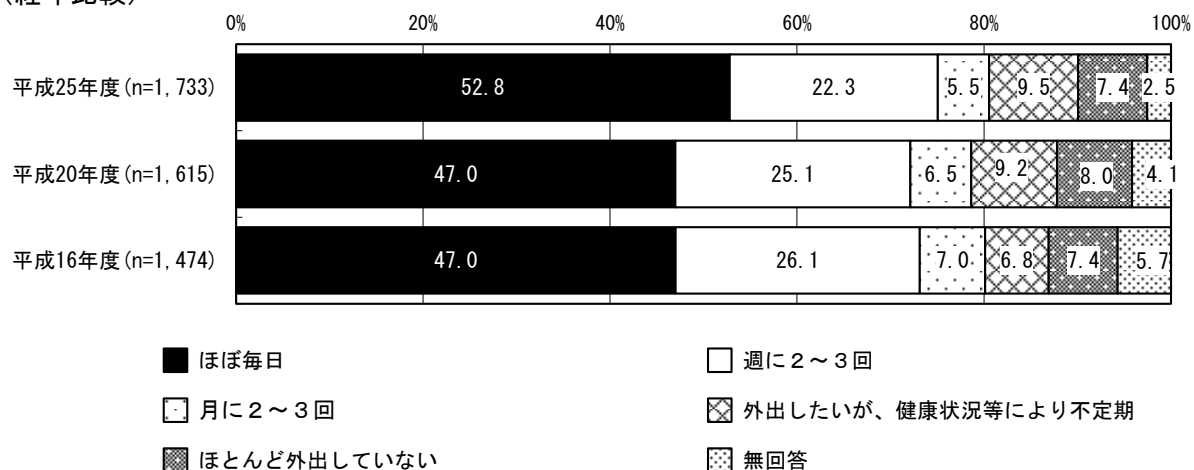
- 現在利用している(または申請中)
- 現在利用していないが、今後利用したい
- 利用する必要がある
- ☒ 利用したいと思わない
- わからない
- ▨ 無回答

【5. 外出の状況】

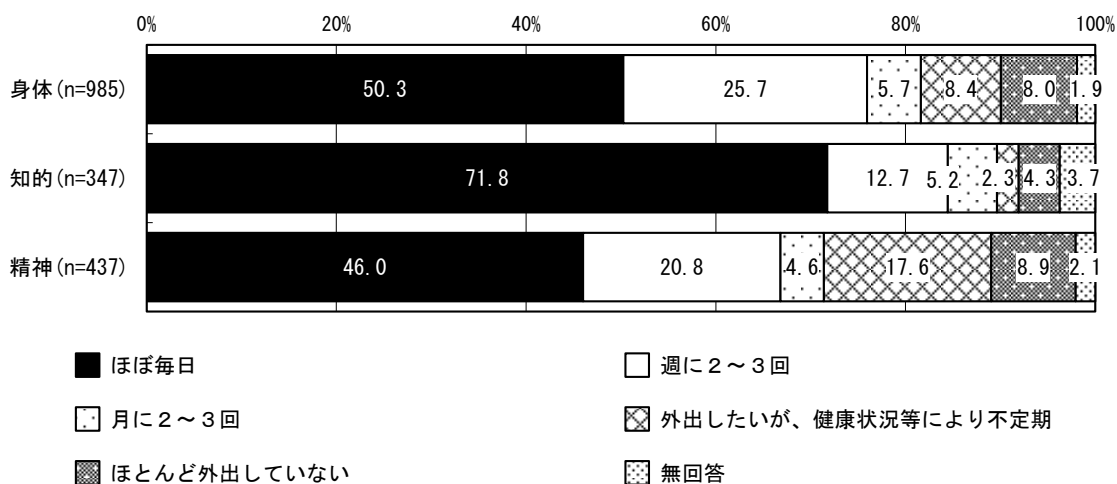
問 16 あなたは日頃、どの程度外出しますか。(○は1つ)

- ・全体では「ほぼ毎日」が 52.8%と最も多く、次いで「週に2～3回」が 22.3%となっている。
- ・前回までと比較すると、「ほぼ毎日」がやや増加し、「週に2回～3回」「月に2～3回」がやや減少しているが、全体の傾向に大きな変化は見られない。
- ・障害別でみると、全ての障害において「ほぼ毎日」が最も多く、次いで「週に2～3回」が多くなっている。
- ・「知的」では「ほぼ毎日」が 71.8%と最も多く、他の障害に比べて割合が高い。また「週に2～3回」12.7%と合計すると8割台半ば近くを占めている。
- ・「精神」では「外出したいが健康状況等により不定期」が 17.6%と他の障害に比べて割合が高くなっている。

(経年比較)

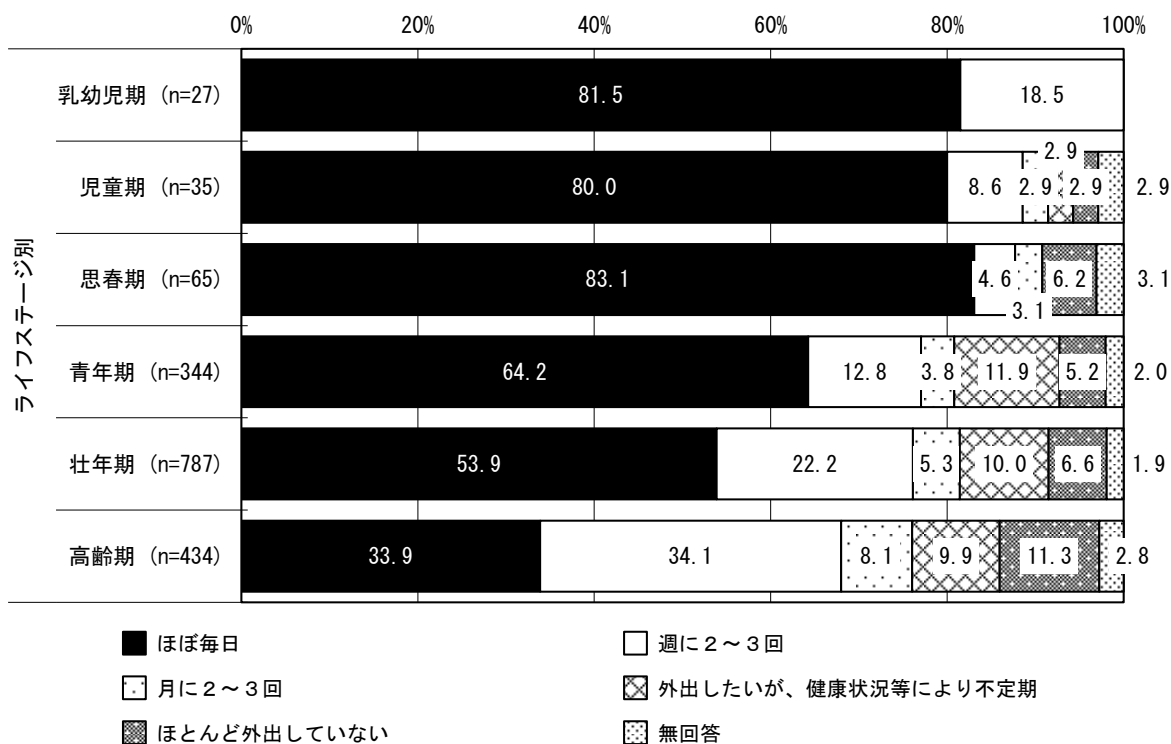


(平成 25 年度障害別)



- ・ライフステージ別でみると、「高齢期」以外では「ほぼ毎日」が最も多く、いずれも5割以上となっている。特に「乳幼児期」「児童期」「思春期」においては8割以上を占めている。
- ・「高齢期」においては「週に2～3回」が34.1%と最も多く、次に多い「ほぼ毎日」33.9%と合計すると7割近くを占めている。

(ライフステージ別)



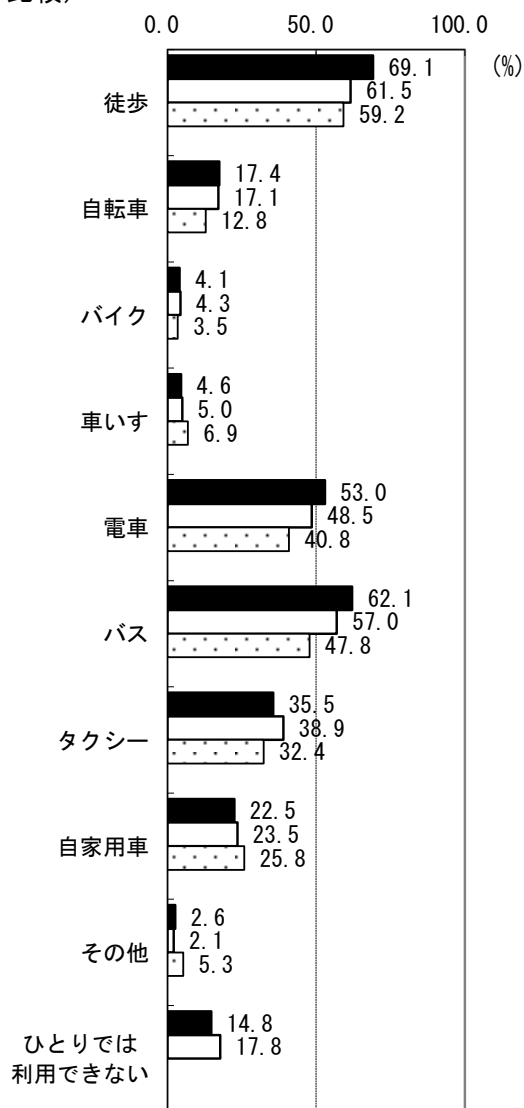
※ライフステージ

区分	年齢
乳幼児期	6歳以下
児童期	7歳～12歳
思春期	13歳～19歳
青年期	20歳～39歳
壮年期	40歳～64歳
高齢期	65歳以上

問 17 あなたがひとりで利用できる移動手段は何ですか。(〇はいくつでも)

- ・全体では「徒歩」が 69.1%と最も多く、次いで「バス」が 62.1%、「電車」が 53.0%となっている。
- ・前回までと比較すると「徒歩」「バス」「電車」の割合が増加している。
- ・障害別でみると「身体」「精神」では、「徒歩」「バス」「電車」の順で利用が多く、全体とほぼ同じ傾向にある。
- ・「身体」では「自家用車」「タクシー」「車いす」の割合が他の障害に比べて高くなっている。
- ・「知的」では「ひとりでは利用できない」の割合が他の障害に比べて高くなっている。
- ・「精神」では「徒歩」「バス」「電車」「自転車」の割合が他の障害に比べて高く、「ひとりでは利用できない」は低くなっている。

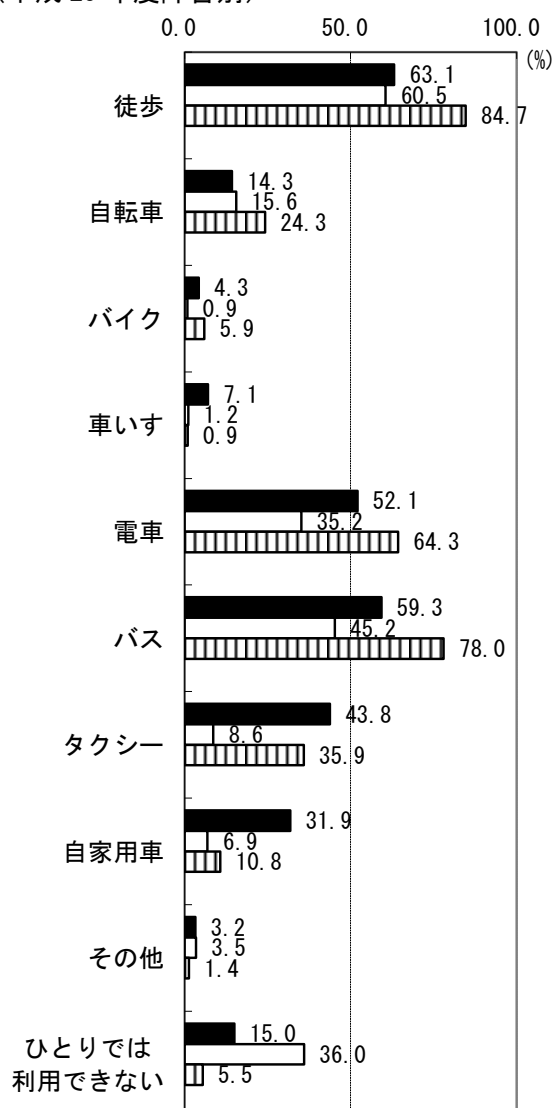
(経年比較)



■ 平成25年度 (n=1,733) □ 平成20年度 (n=1,615)

▨ 平成16年度 (n=1,474)

(平成 25 年度障害別)



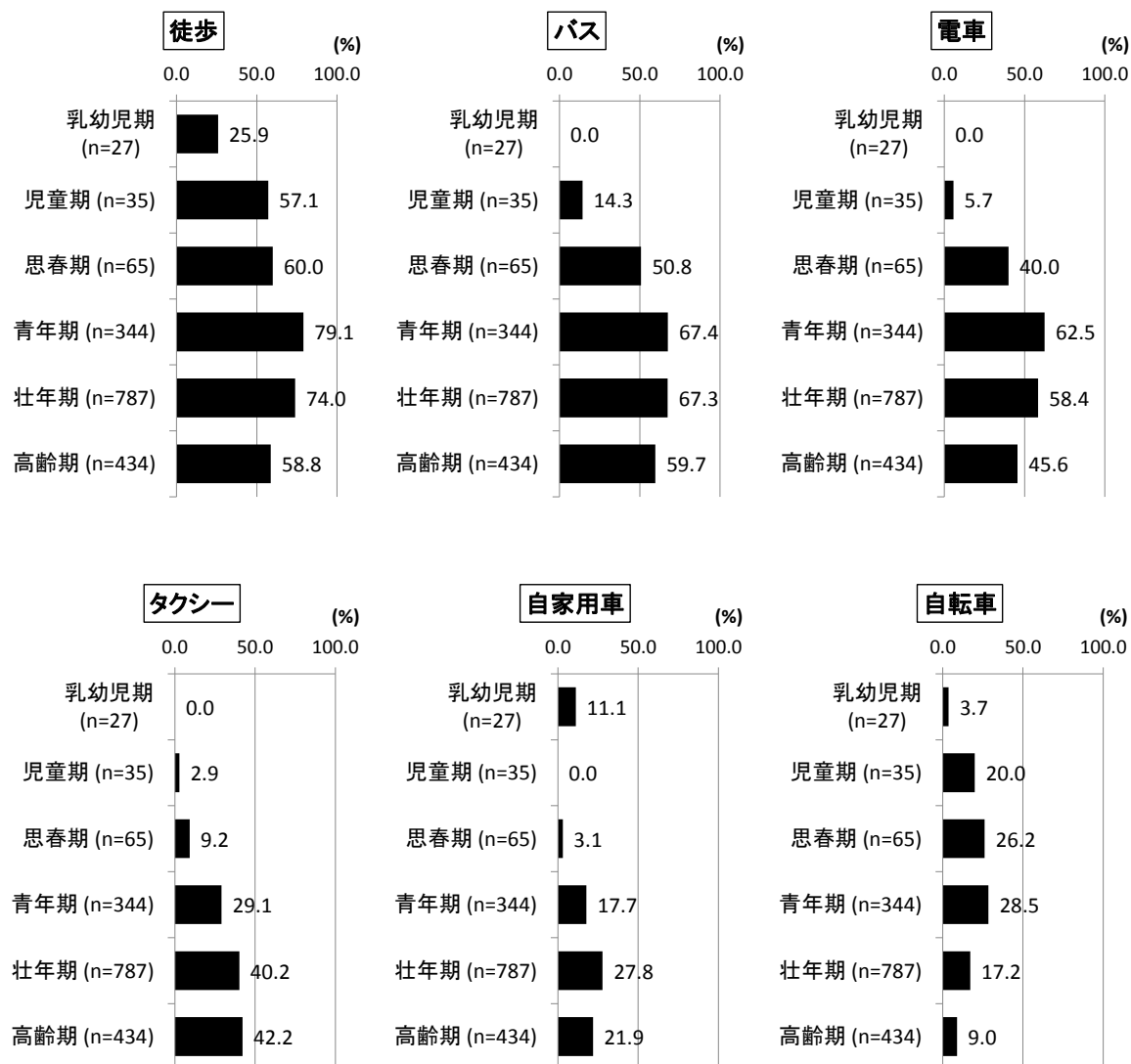
■ 身体 (n=985)

□ 知的 (n=347)

▨ 精神 (n=437)

- ・ライフステージ別でみると、「高齢期」以外の全てのライフステージにおいて「徒歩」が最も多くなっている。
- ・「思春期」「青年期」「壮年期」においては、いずれも「徒歩」「バス」「電車」の順で多く利用されている。
- ・「高齢期」においては「バス」が59.7%と最も多く、「徒歩」58.8%、「電車」45.6%、「タクシー」42.2%と続いている。
- ・「タクシー」を使用する割合はライフステージが進むにつれ増加している。

(ライフステージ別、上位6項目)



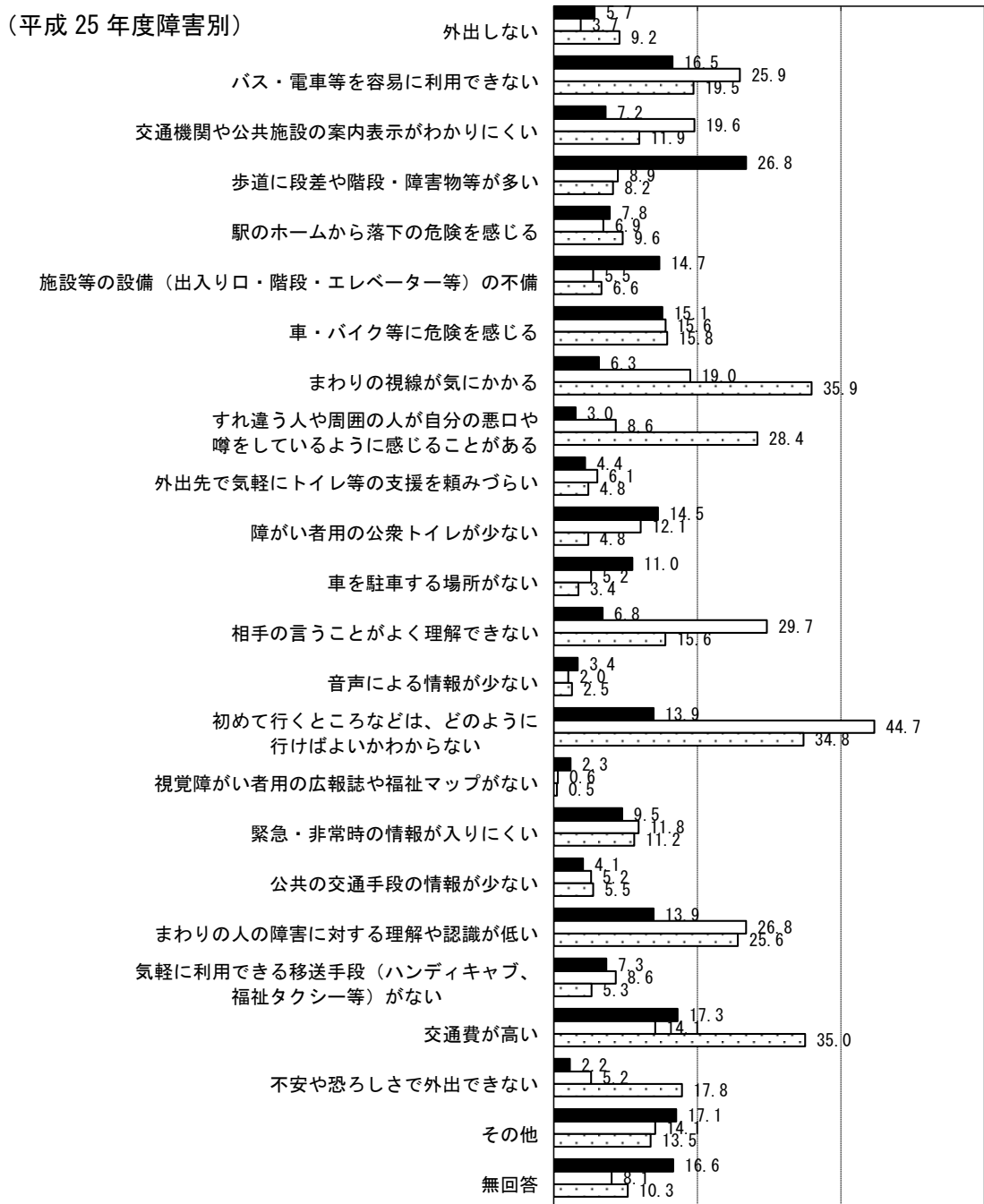
※ライフステージ

区分	年齢
乳幼児期	6歳以下
児童期	7歳～12歳
思春期	13歳～19歳
青年期	20歳～39歳
壮年期	40歳～64歳
高齢期	65歳以上

問 18 あなたが外出する時、困ることは何ですか。(〇はいくつでも)

- ・全体では「初めていくところなどは、どのように行けばよいかわからない」が 24.2%と最も多く、次いで「交通費が高い」が 20.4%となっている。
- ・障害別でみると、「身体」では「歩道に段差や階段・障害物等が多い」が 26.8%と最も多く、次いで「交通費が高い」が 17.3%となっている。
- ・「知的」では「初めて行くところなどは、どのように行けばよいかわからない」が 44.7%と最も多く、次いで「相手の言うことがよく理解できない」29.7%となっている。
- ・「精神」では「まわりの視線が気にかかる」が 35.9%と最も多く、次いで「交通費が高い」が 35.0%となっている。

※「外出しない」は今回調査からの新規項目



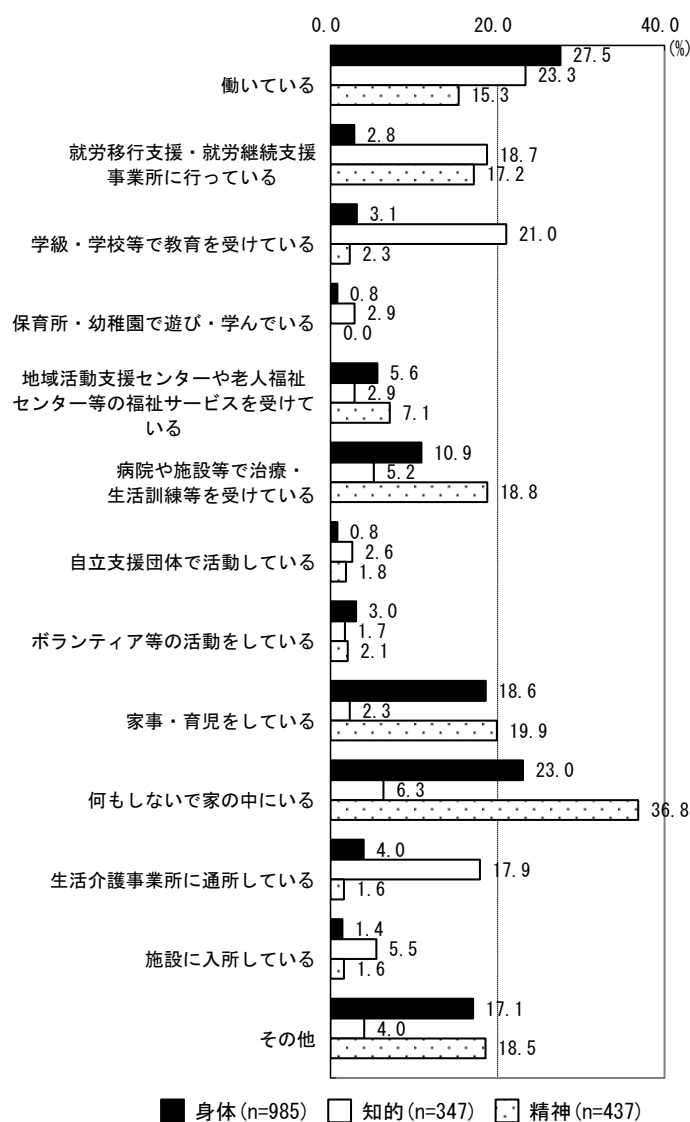
■ 身体 (n=985) □ 知的 (n=347) ▨ 精神 (n=437)

【6. 日中活動の状況】

問 19 あなたは平日の昼間、主にどのように過ごしていますか。(〇はいくつでも)

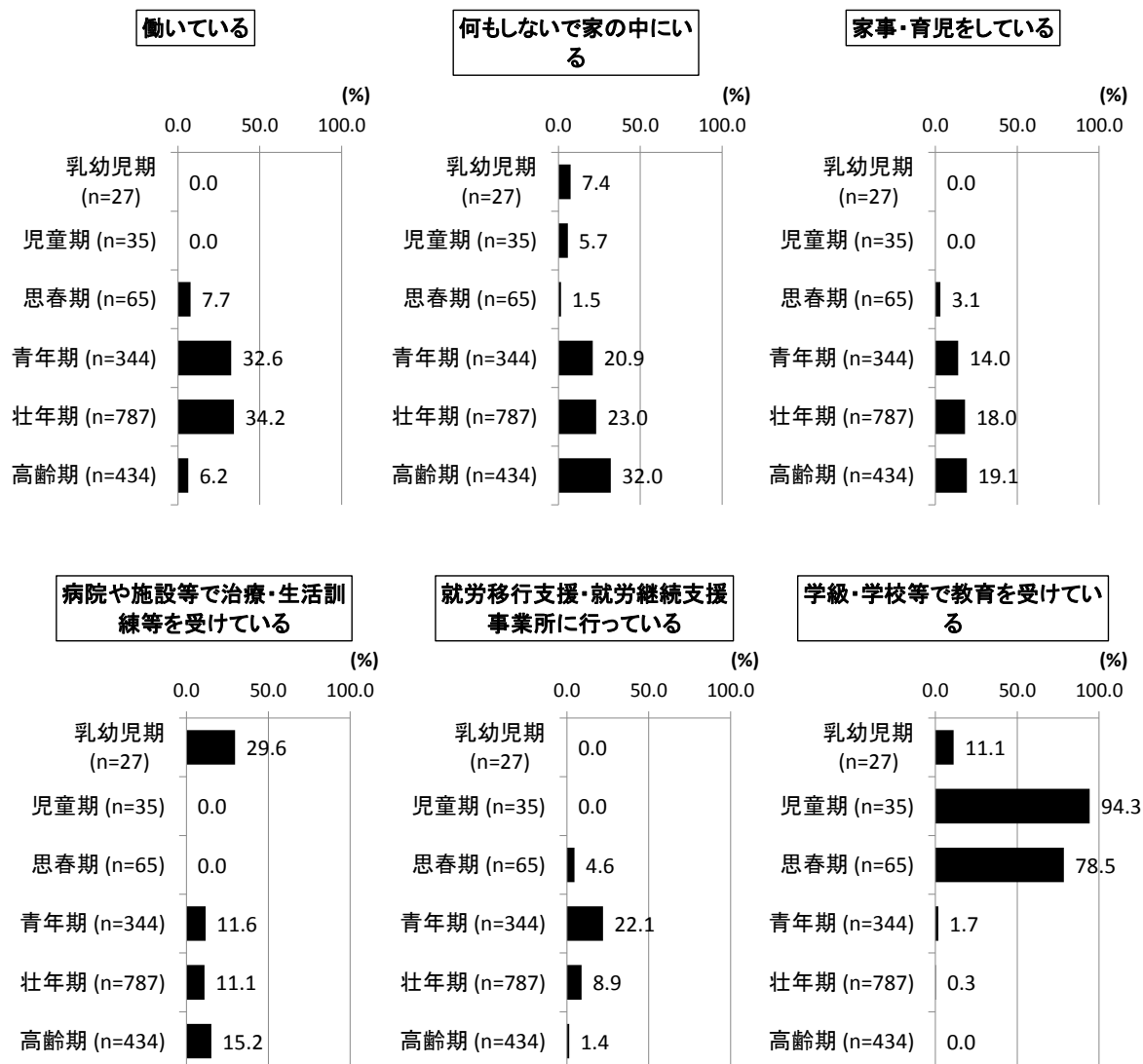
- ・全体では「働いている」が 19.1%と最も多く、次いで「何もしないで家の中にいる」が 18.2%となっている。
- ・障害別でみると「身体」では「働いている」が 27.5%と最も多く、次いで「何もしないで家の中にいる」が 23.0%となっている。
- ・「知的」では「働いている」が 23.3%と最も多く、次いで「学級・学校等で教育を受けている」が 21.0%となっている。
- ・「精神」では「何もしないで家の中にいる」が 36.8%と最も多く、次いで「家事・育児をしている」が 19.9%となっている。

※「生活介護事業所に通所している」「施設に入所している」は今回調査からの新規項目
(平成 25 年度障害別)



- ・ライフステージ別でみると「青年期」「壮年期」においては3割以上が「働いている」で最も多いが、「何もしないで家の中にいる」も2割以上となっている。
- ・「何もしないで家の中にいる」が占める割合は、「思春期」が最も低く、「青年期」以降ライフステージが進むにつれて高くなる。
- ・「家事・育児をしている」が占める割合は、「思春期」以降ライフステージが進むにつれ高くなっていく。

(ライフステージ別、上位6項目)



※ライフステージ

区分	年齢
乳幼児期	6歳以下
児童期	7歳～12歳
思春期	13歳～19歳
青年期	20歳～39歳
壮年期	40歳～64歳
高齢期	65歳以上

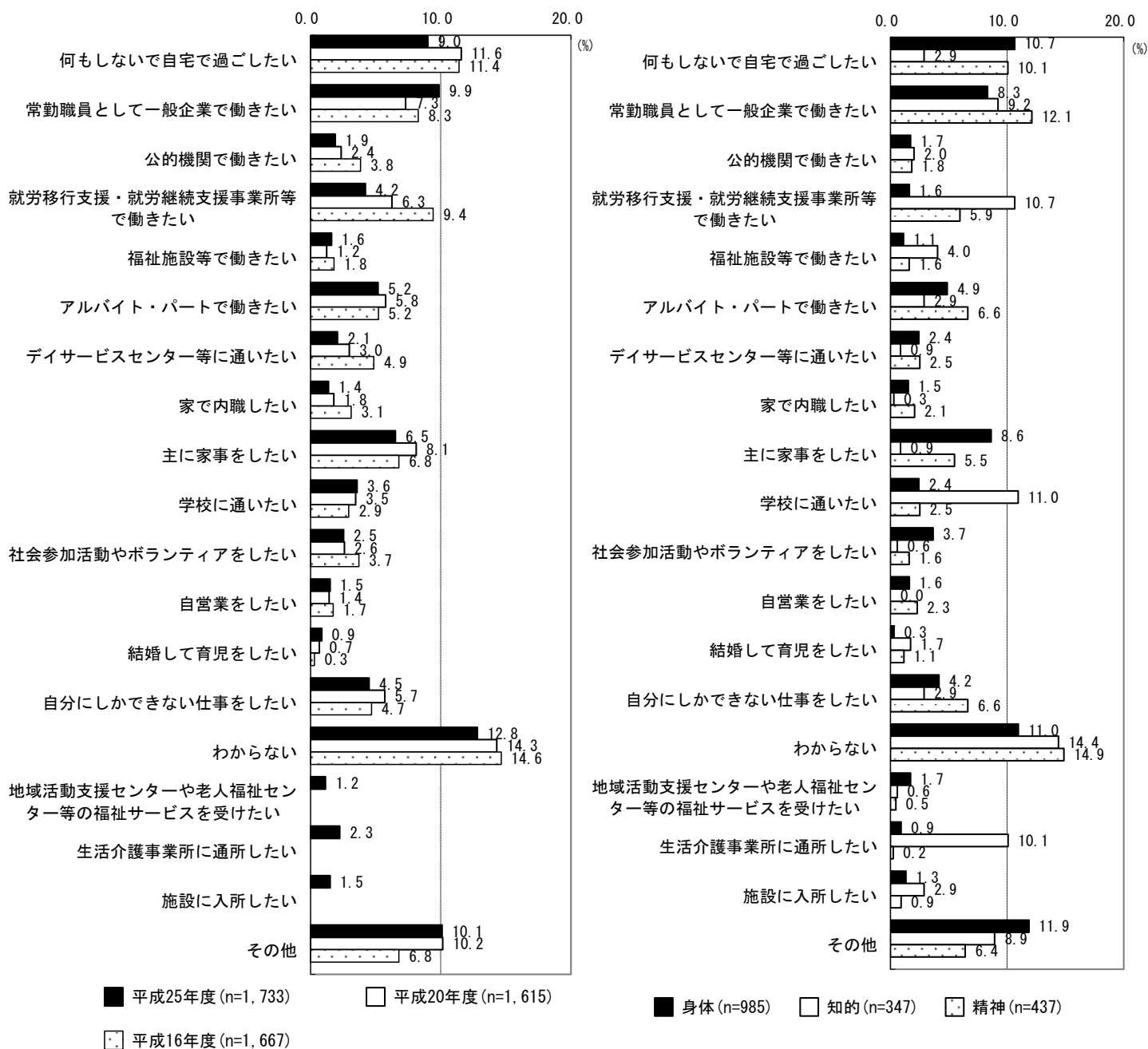
問20 あなたは今後、平日の昼間どのように過ごしたいと考えていますか。(〇は1つ)

- ・全体では「わからない」が12.8%と最も多く、次いで「その他」が10.1%となっている。
- ・障害別にみると「身体」では「その他」が11.9%と最も多く、次いで「わからない」が11.0%となっている。
- ・「知的」では「わからない」が14.4%と最も多く、次いで「学校に通いたい」が11.0%となっている。
- ・「精神」では「わからない」が14.9%と最も多く、次いで「常勤職員として一般企業で働きたい」が12.1%となっている。

※「地域活動支援センターや老人福祉センター等の福祉サービスを受けたい」「生活介護事業所に通所したい」「施設に入所したい」は今回調査からの新規項目

(経年比較)

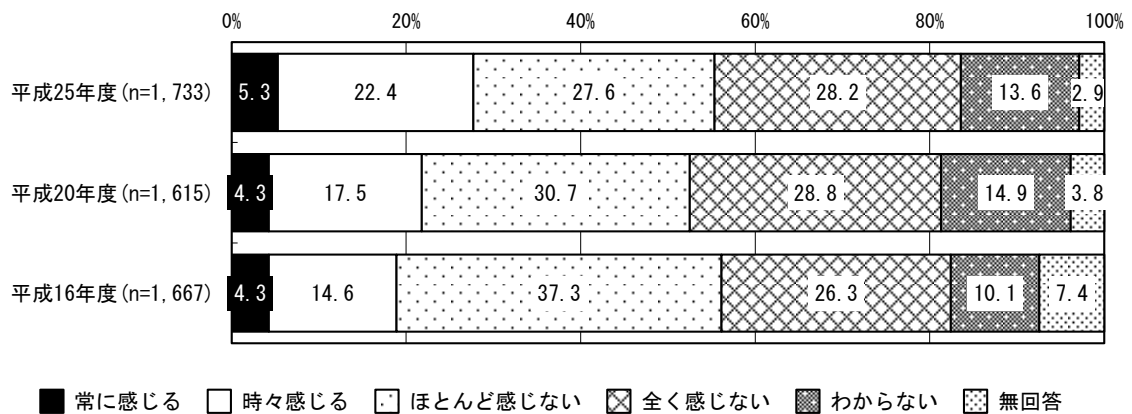
(平成25年度障害別)



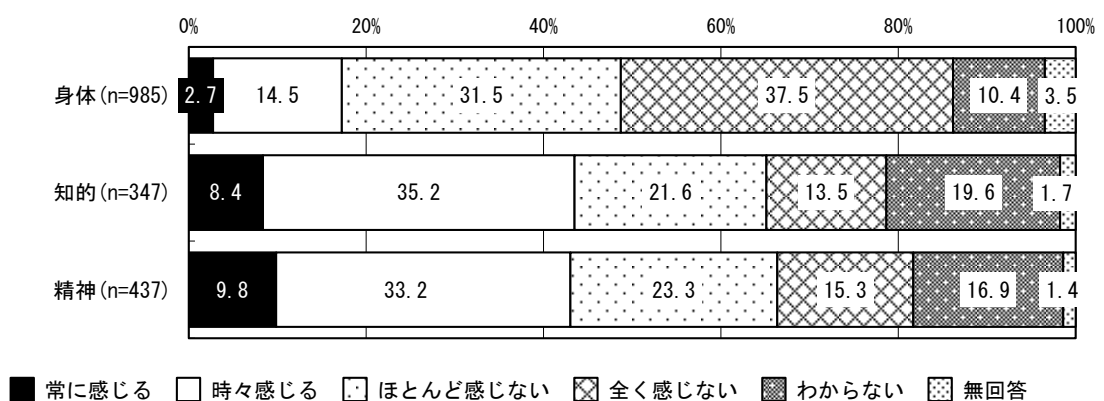
問 21 あなたやあなたの家族は、あなたの障害のことで差別や人権侵害を受けていると感じたことがありますか。(○は1つ)

- 全体では「全く感じない」が 28.2%と最も多く、次いで「ほとんど感じない」が 27.6%となっている。
- 前回までと比較すると、「常に感じる」「時々感じる」を合計した差別を感じる人の割合は、2割台半ばを超え、増加の傾向にある。
- 障害別でみると「身体」では「全く感じない」が 37.5%と最も多く、次いで「ほとんど感じない」が 31.5%となっている。
- 「知的」「精神」では「時々感じる」が 3割以上と最も多く、「常に感じる」と合計すると 4割以上となっており、「ほとんど感じない」「全く感じない」の合計をそれぞれ上回っている。

(経年比較)

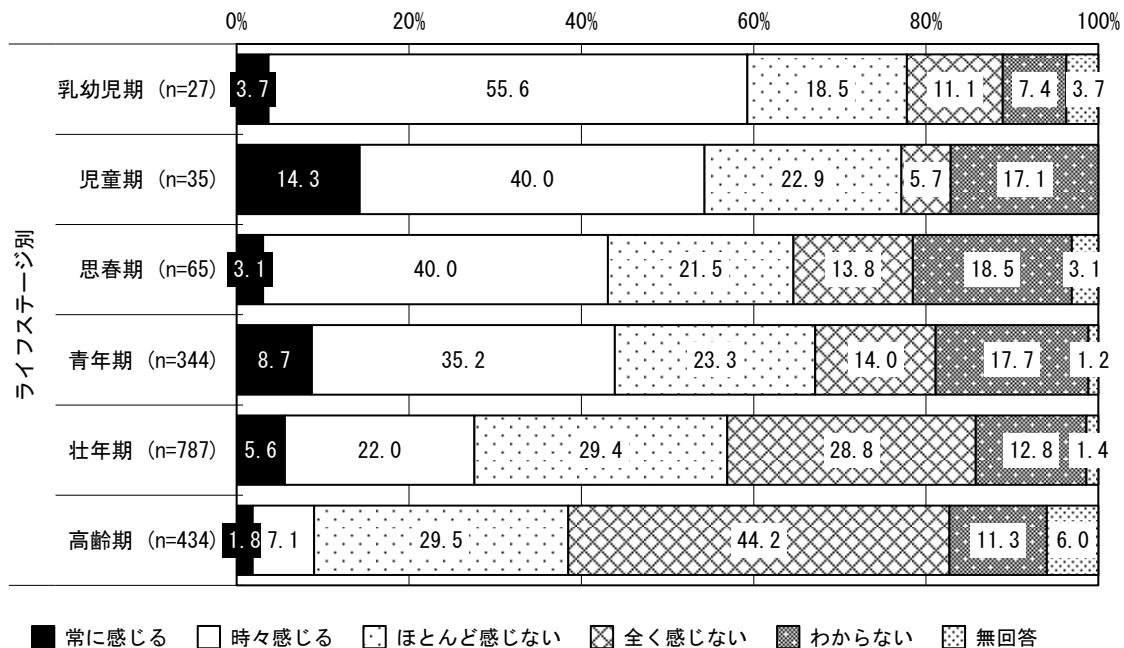


(平成 25 年度障害別)



- ・ライフステージ別でみると「児童期」においては「常に感じる」の割合が14.3%と、他のライフステージに比べ高くなっている。
- ・「ほとんど感じない」「全く感じない」の合計は、「児童期」において最も割合が低く、それ以降ライフステージが進むにつれて、高くなっている。
- ・「高齢期」においては「全く感じない」が44.2%と最も多くなっている。

(ライフステージ別)



※ライフステージ

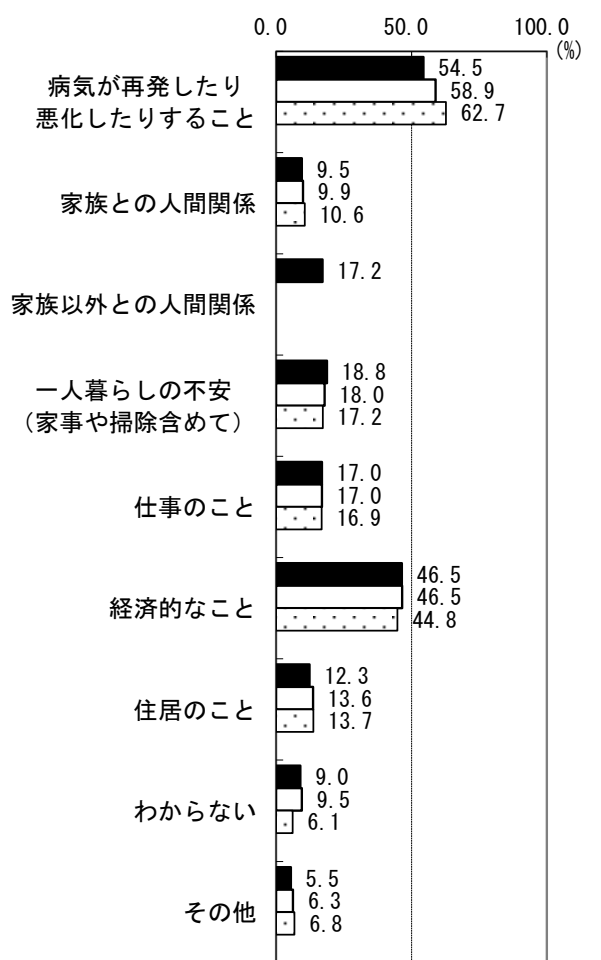
区分	年齢
乳幼児期	6歳以下
児童期	7歳～12歳
思春期	13歳～19歳
青年期	20歳～39歳
壮年期	40歳～64歳
高齢期	65歳以上

問 22 あなたが生活をしていく上で不安なことは何ですか。(〇は3つまで)

- ・全体では「病気が再発したり悪化したりすること」が 54.5%と最も多く、次いで「経済的なこと」が 46.5%となっている。
- ・前回までと比較すると、ほぼ同じ傾向だが「病気が再発したり悪化したりすること」はやや減少している。
- ・障害別でみると「身体」「精神」では「病気が再発したり悪化したりすること」が6割以上で最も多く、次いで「経済的なこと」が多くなっている。
- ・「知的」では「経済的なこと」が 34.3%と最も多く、次いで「家族以外との人間関係」が 33.4%となっている。

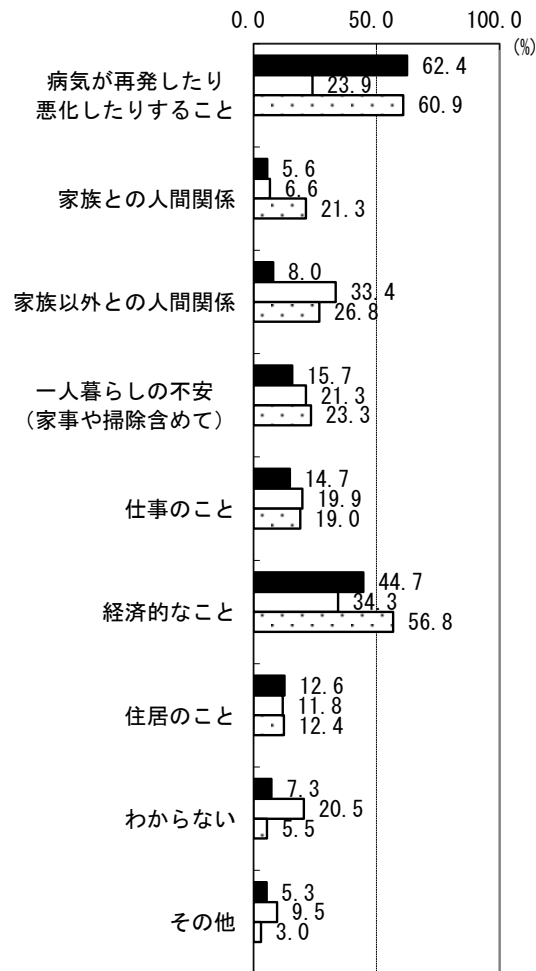
※「家族以外との人間関係」は今回調査からの新規項目

(経年比較)



■ 平成25年度 (n=1,733) □ 平成20年度 (n=1,615)
 □ 平成16年度 (n=1,667)

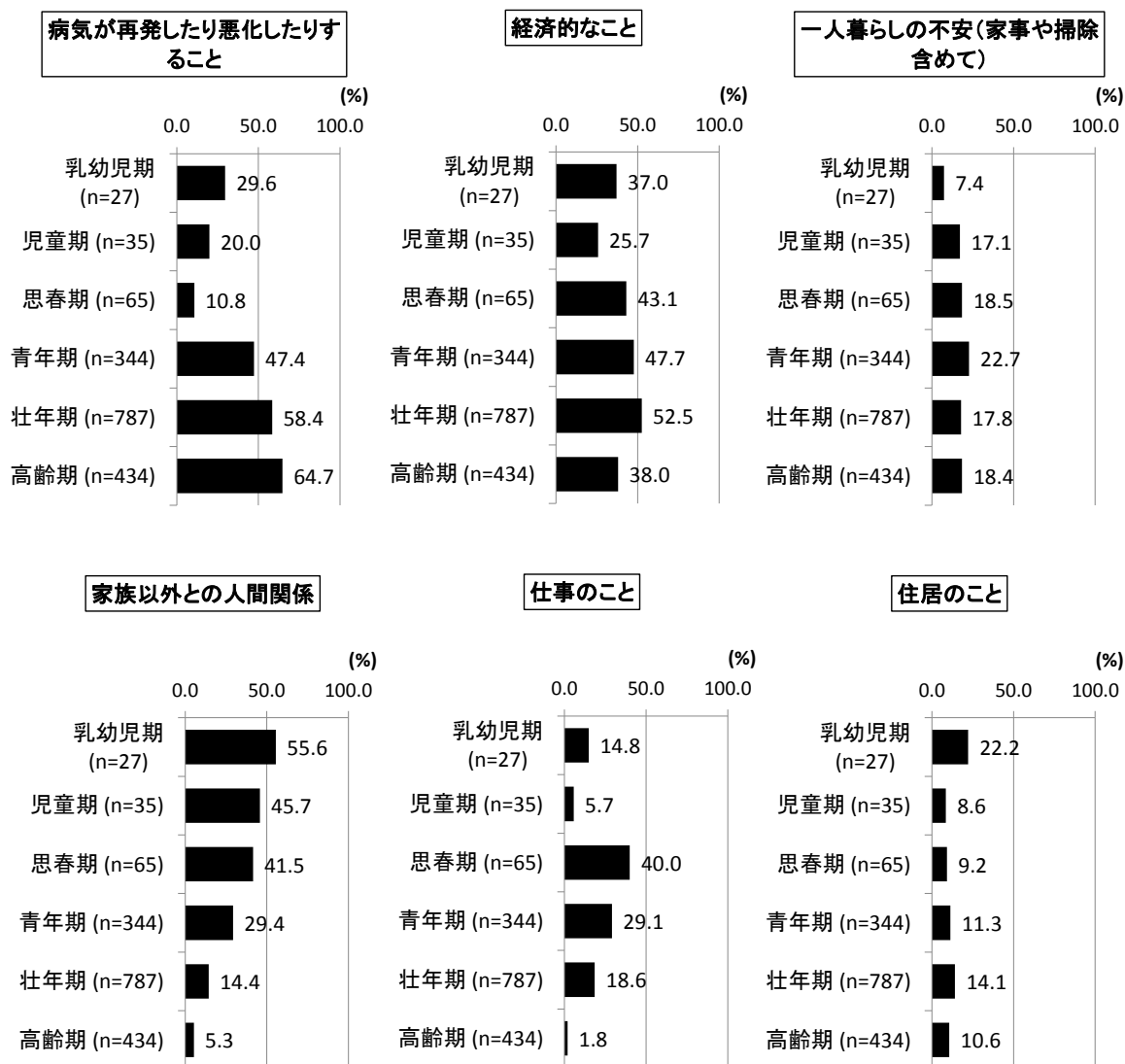
(平成 25 年度障害別)



■ 身体 (n=985) □ 知的 (n=347)
 □ 精神 (n=437)

- ・ライフステージ別でみると「病気が再発したり悪化したりすること」が占める割合は、とくに「青年期」以降ライフステージが進むにつれ高くなり「高齢期」では6割台半ば近くとなっている。
- ・「経済的なこと」が占める割合は、全てのライフステージにおいて2割以上となっている。
- ・「家族以外との人間関係」は「乳幼児期」において55.6%と最も高く、ライフステージが進むごとに低下している。
- ・「仕事のこと」が占める割合は、「思春期」で40.0%と最も高く、「青年期」29.1%、「壮年期」18.6%と続く。

(ライフステージ別)

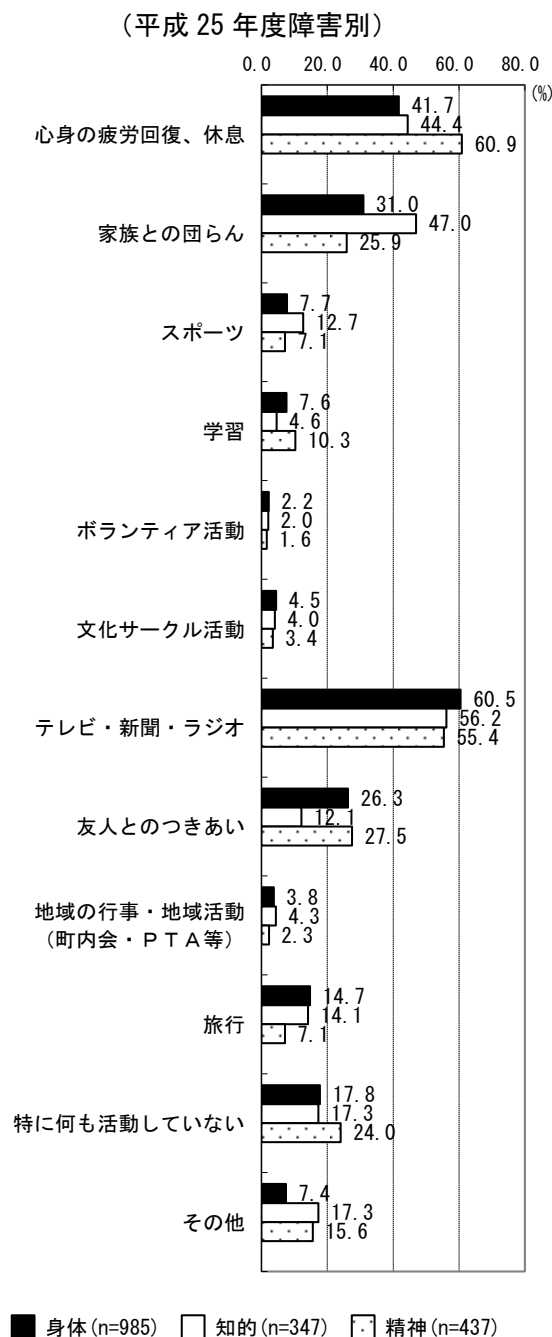


※ライフステージ

区分	年齢
乳幼児期	6歳以下
児童期	7歳～12歳
思春期	13歳～19歳
青年期	20歳～39歳
壮年期	40歳～64歳
高齢期	65歳以上

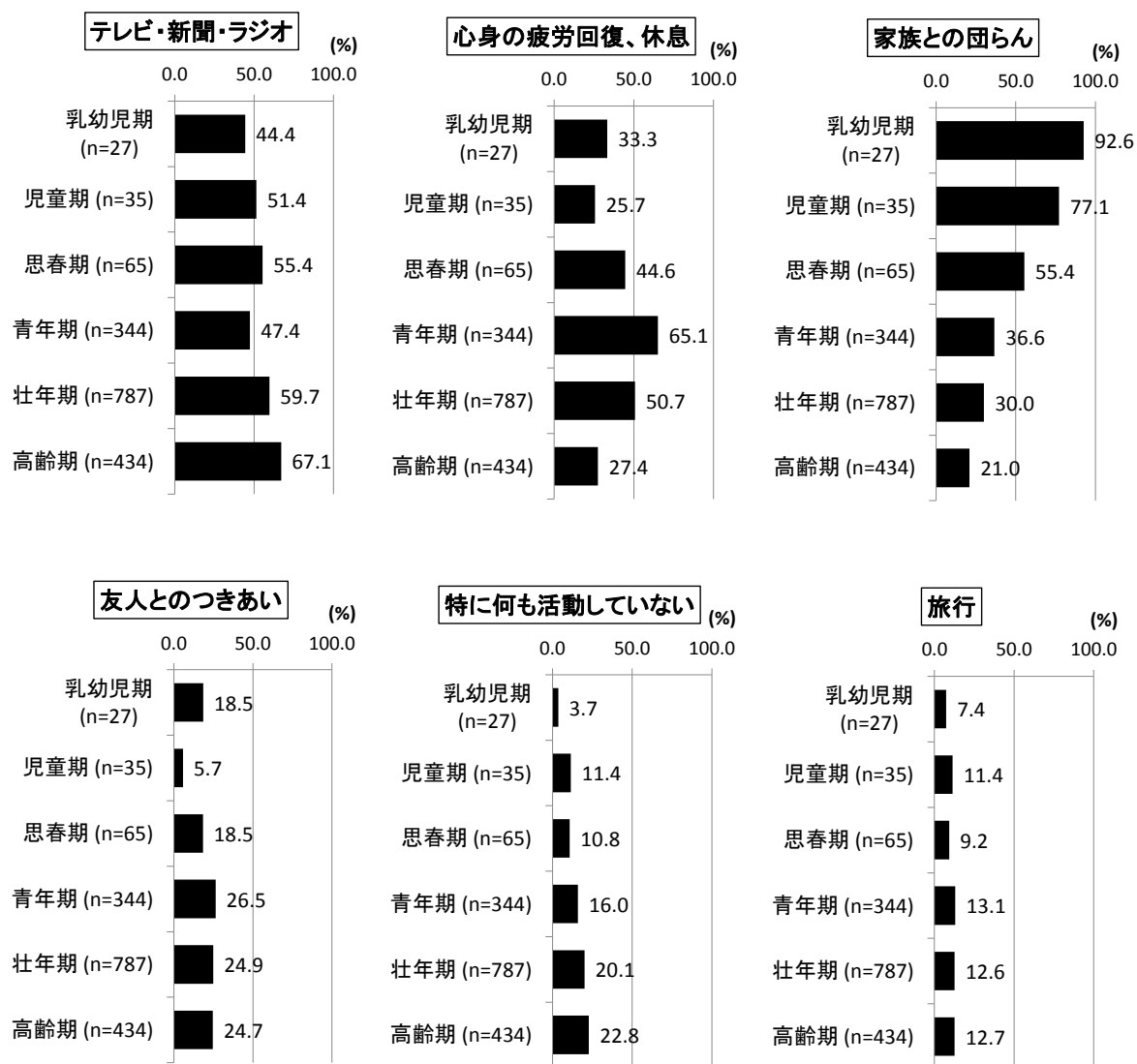
問 23 あなたは、休日等の自由時間をどのように過ごしていますか。(〇はいくつでも)

- ・全体では「テレビ・新聞・ラジオ」が 58.3%と最も多く、次いで「心身の疲労回復、休息」が 46.6%となっている。
- ・障害別にみると、「身体」では「テレビ・新聞・ラジオ」が 60.5%と最も多く、次いで「心身の疲労回復、休息」が 41.7%となっている。
- ・「知的」では「テレビ・新聞・ラジオ」が 56.2%と最も多く、次いで「家族との団らん」が 47.0%となっている。
- ・「精神」では「心身の疲労回復、休息」が 60.9%と最も多く、次いで「テレビ・新聞・ラジオ」が 55.4%となっている。



- ・ライフステージ別でみると「テレビ・新聞・ラジオ」が占める割合は、全てのライフステージにおいて4割以上となっている。
- ・「青年期」においては「心身の疲労回復、休息」が65.1%と最も多く、次いで「テレビ・新聞・ラジオ」が47.4%となっている。
- ・「家族との団らん」が占める割合は「乳幼児期」において92.6%と最も高く、ライフステージが進むにつれ低下していくものの、最も低い「高齢期」においても2割以上となっている。

(ライフステージ別)



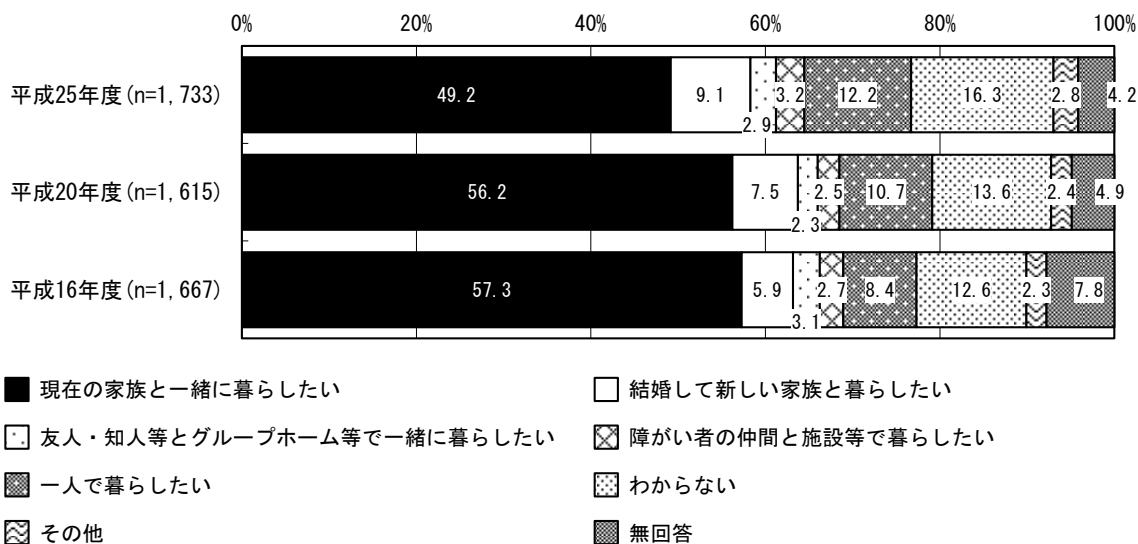
※ライフステージ

区分	年齢
乳幼児期	6歳以下
児童期	7歳～12歳
思春期	13歳～19歳
青年期	20歳～39歳
壮年期	40歳～64歳
高齢期	65歳以上

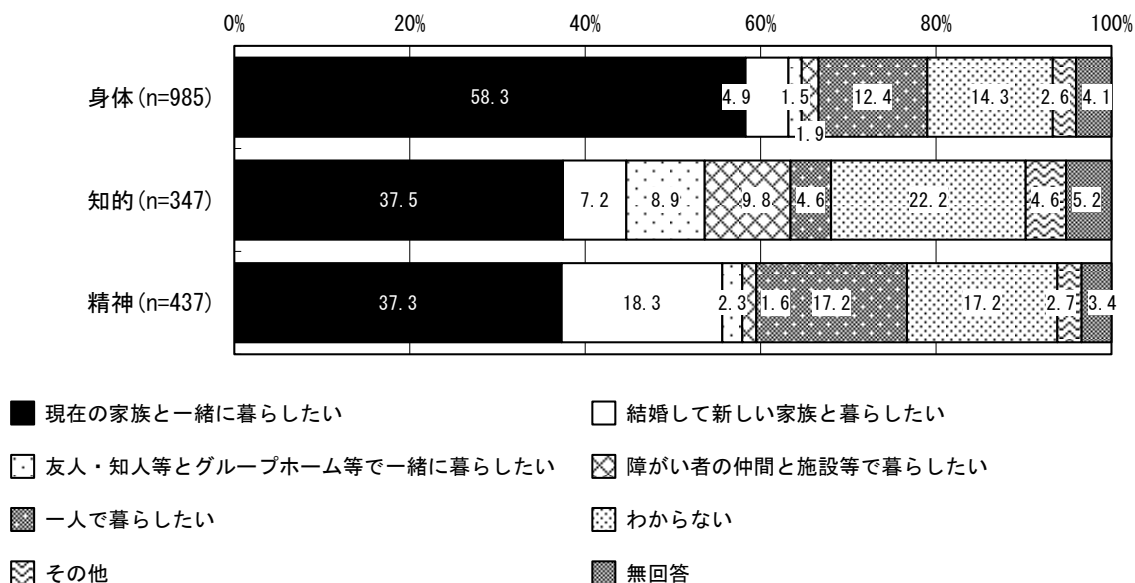
問 24 将来、あなたは誰と暮らしたいと考えていますか。(〇は1つ)

- ・全体では「現在の家族と一緒に暮らしたい」が49.2%と最も多く、次いで「わからない」が16.3%となっている。
- ・前回までと比較すると、ほぼ同じ傾向にあり「現在の家族と一緒に暮らしたい」が継続して最も多くなっているものの、その割合はやや減少し、他の項目がやや増加している。
- ・障害別でみると「身体」「知的」では「現在の家族と一緒に暮らしたい」が最も多く、次いで「わからない」となっている。
- ・「精神」では「現在の家族と一緒に暮らしたい」が37.3%と最も多く、次いで「結婚して新しい家族と暮らしたい」が18.3%となっている。
- ・「現在の家族と一緒に暮らしたい」が占める割合は「身体」が最も高く、58.3%となっている。

(経年比較)

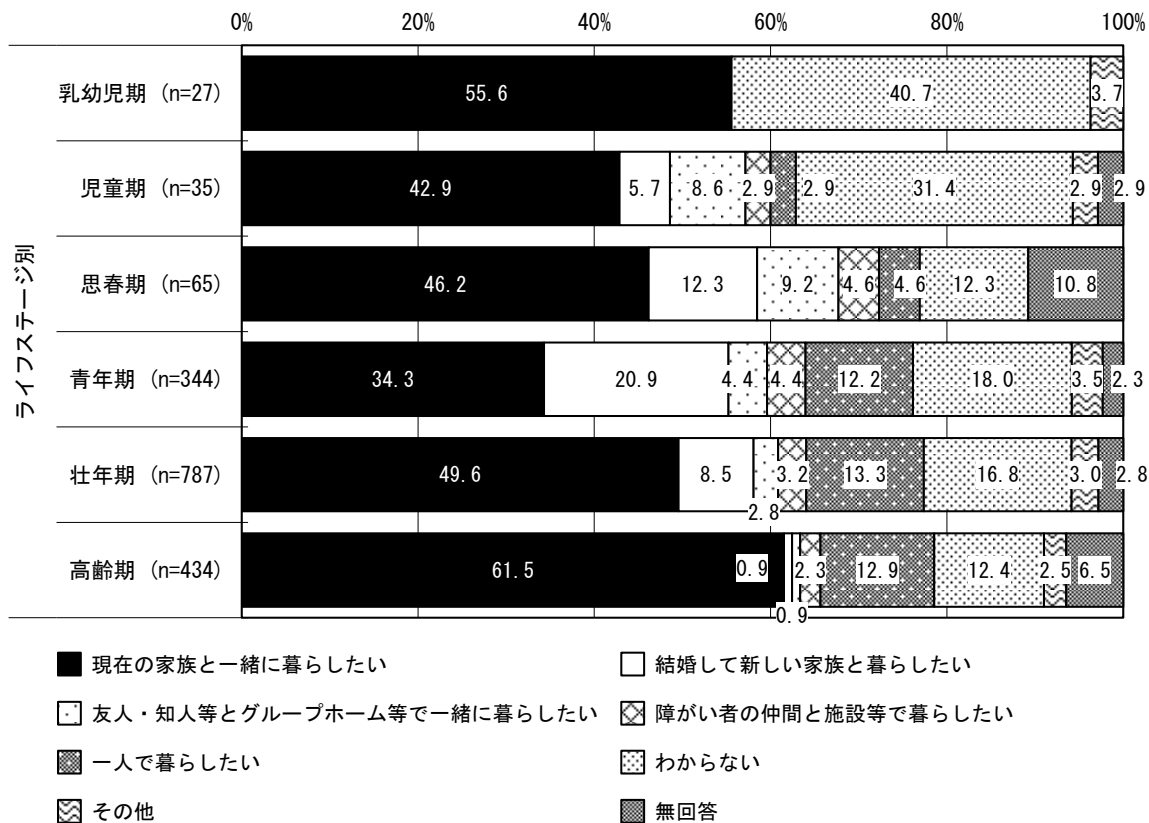


(平成 25 年度障害別)



- ・ライフステージ別でみると「現在の家族と一緒に暮らしたい」が占める割合は、全てのライフステージにおいて最も多くなっている。
- ・「青年期」において「結婚して新しい家族と暮らしたい」は2割以上を占めている。

(ライフステージ別)



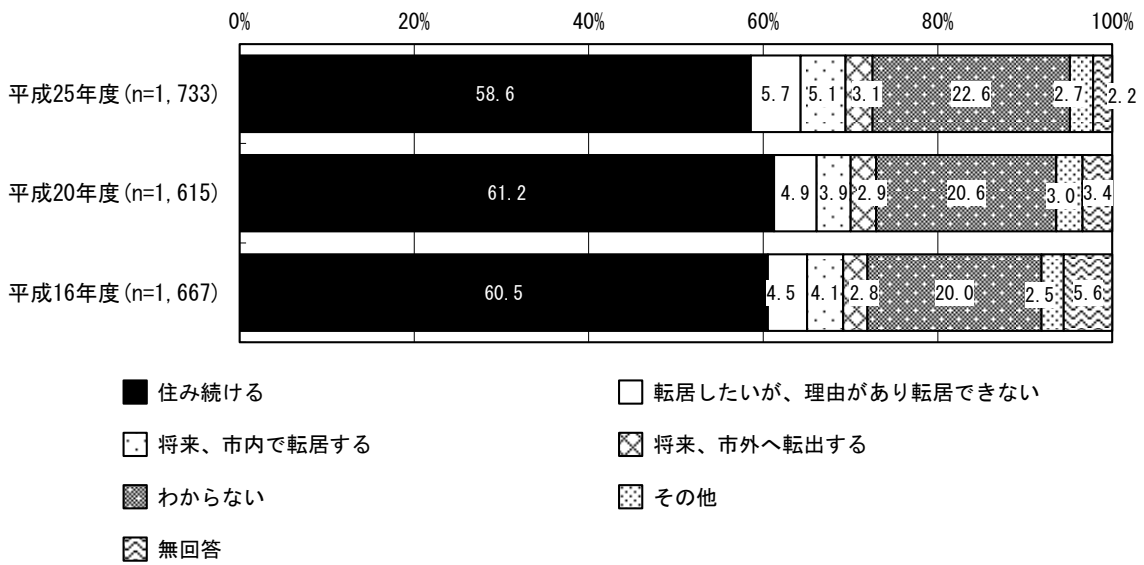
※ライフステージ

区分	年齢
乳幼児期	6歳以下
児童期	7歳～12歳
思春期	13歳～19歳
青年期	20歳～39歳
壮年期	40歳～64歳
高齢期	65歳以上

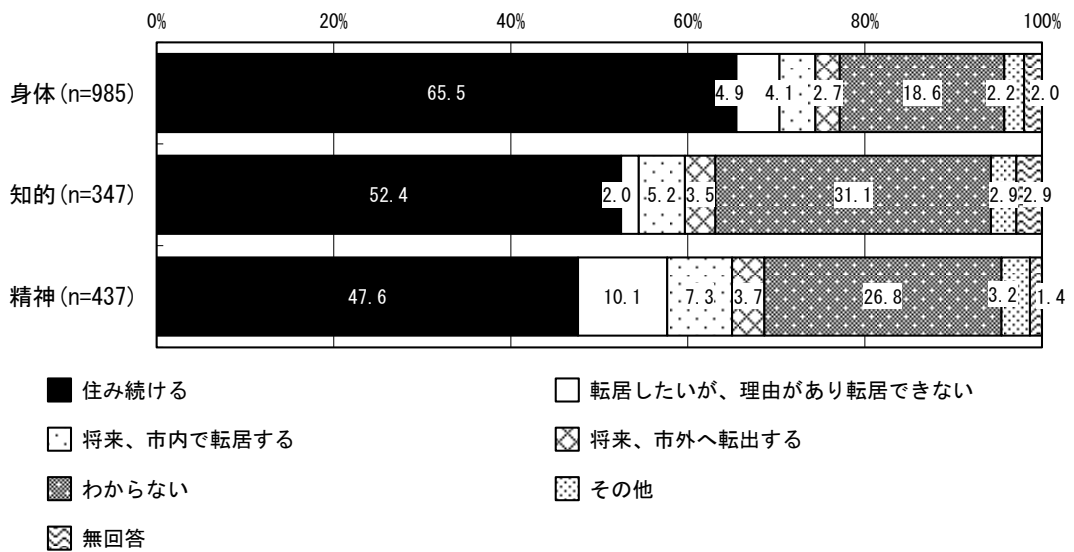
問 25 あなたは、現在の住まいにこれからも住み続けますか。(〇は1つ)

- ・全体では「住み続ける」が 58.6%と最も多く、次いで「わからない」が 22.6%となっている。
- ・前回までと比較すると、ほぼ同じ傾向にあり「住み続ける」が継続して最も多くなっている。
- ・障害別でみると全ての障害において「住み続ける」が最も多く、次いで「わからない」となっている。
- ・「精神」では「転居したいが理由があり転居できない」が 10.1%で、他の障害に比べ高くなっている。

(経年比較)



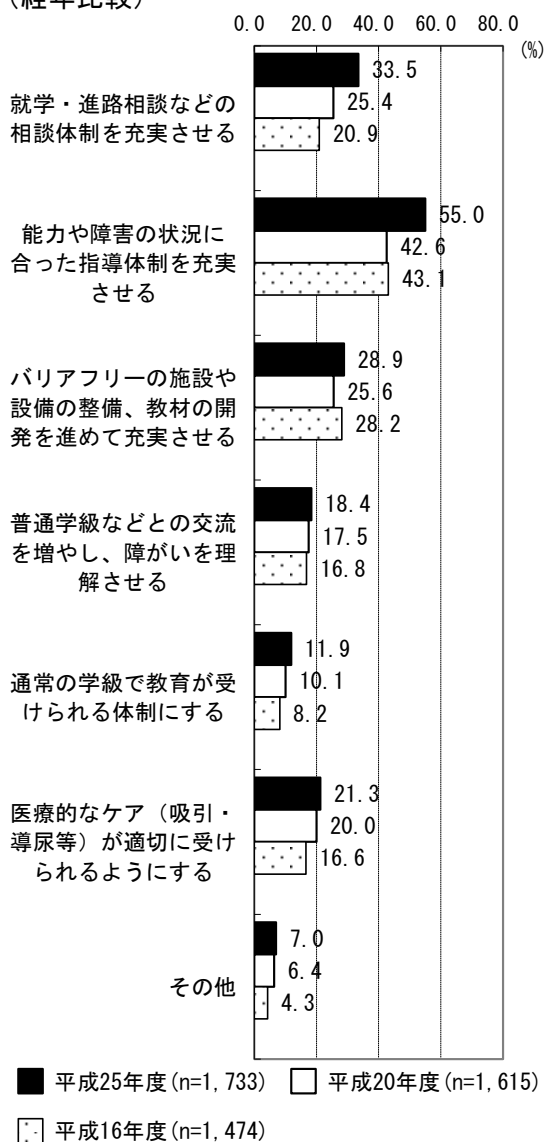
(平成 25 年度障害別)



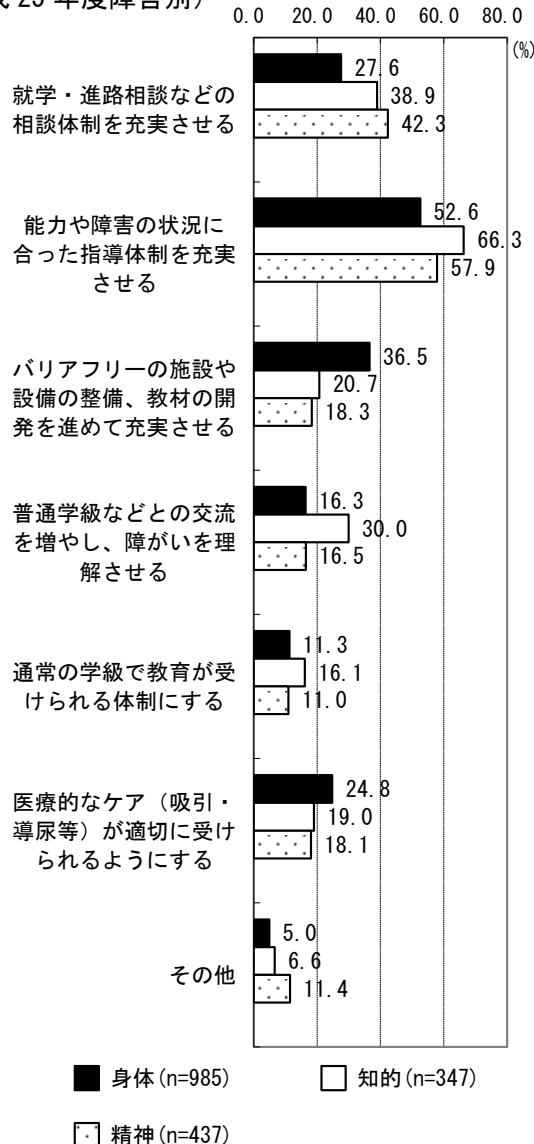
問 26 現在、またはこれから障がいのある人が適切な教育を受けるためには、どのような環境条件や整備等が必要だとお考えですか。(〇は3つまで)

- ・全体では「能力や障害の状況に合った指導体制を充実させる」が 55.0%と最も多く、次いで「就学・進路相談などの相談体制を充実させる」が 33.5%となっている。
- ・前回までと比較すると「能力や障害の状況に合った指導体制を充実させる」「就学・進路相談などの相談体制を充実させる」、「バリアフリーの施設や設備の整備、教材の開発を進めて充実させる」などで更に増加の傾向がみられる。
- ・障害別にみると全ての障害において「能力や障害の状況に合った指導体制を充実させる」が 5割以上を占め、最も多くなっている。
- ・「身体」では「バリアフリーの施設や設備の整備、教材の開発を進めて充実させる」が 36.5%で、他の障害に比べ高くなっている。
- ・「知的」では「普通学級などとの交流を増やし、障害を理解させる」「能力や障害の状況に合った指導体制を充実させる」「通常の学級で教育が受けられる体制にする」が、他の障害に比べ高くなっている。

(経年比較)

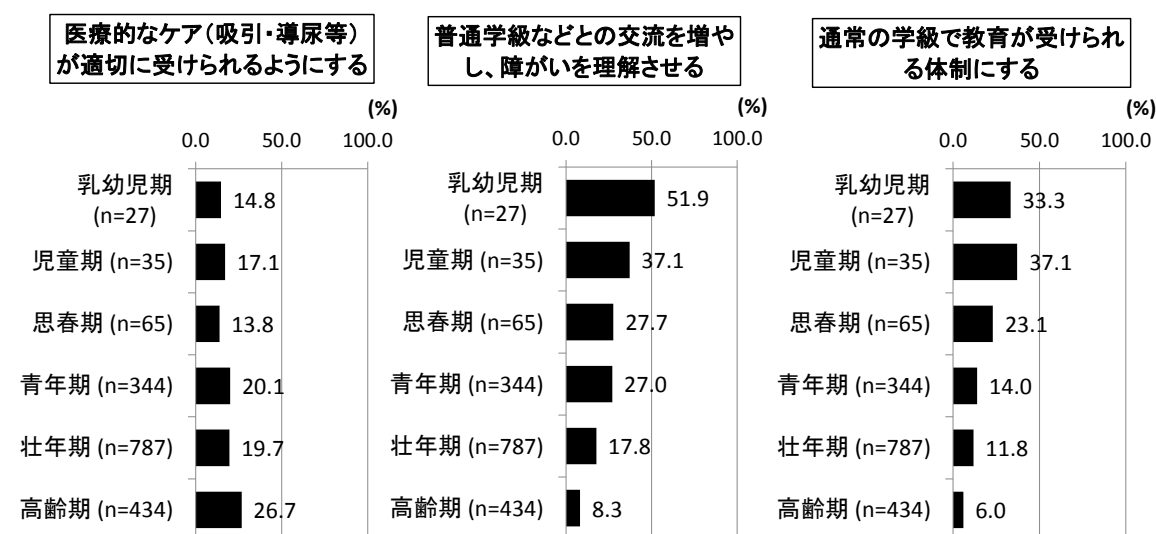
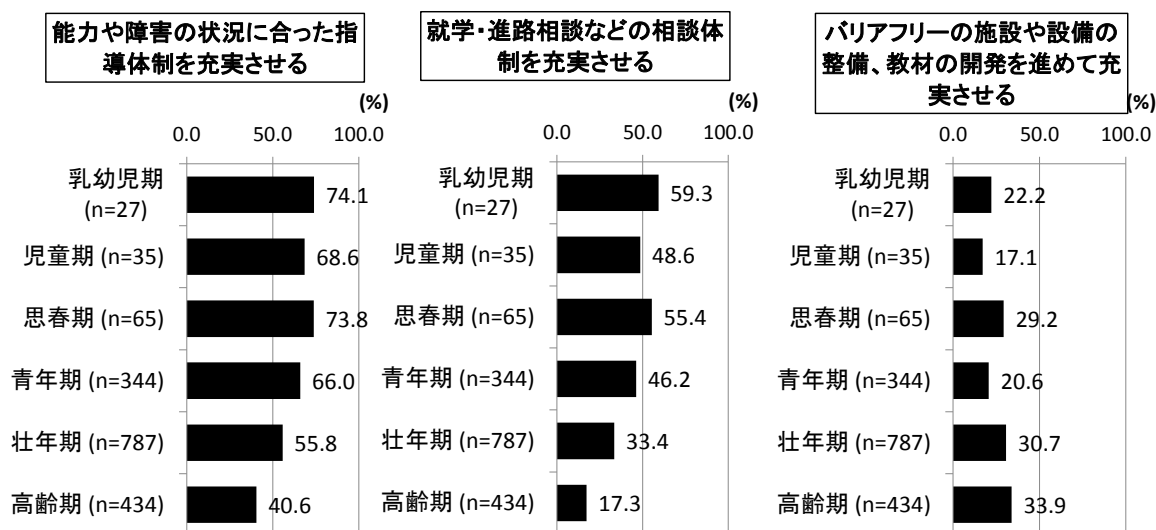


(平成 25 年度障害別)



- ・ライフステージ別でみると、全てのライフステージにおいて「能力や障害の状況に合った指導体制を充実させる」が4割以上で最も多くなっている。
- ・「普通学級などとの交流を増やし、障害を理解させる」は「乳幼児期」において51.9%と最も高く、ライフステージが進むにつれ減少する傾向にある。

(ライフステージ別)



※ライフステージ

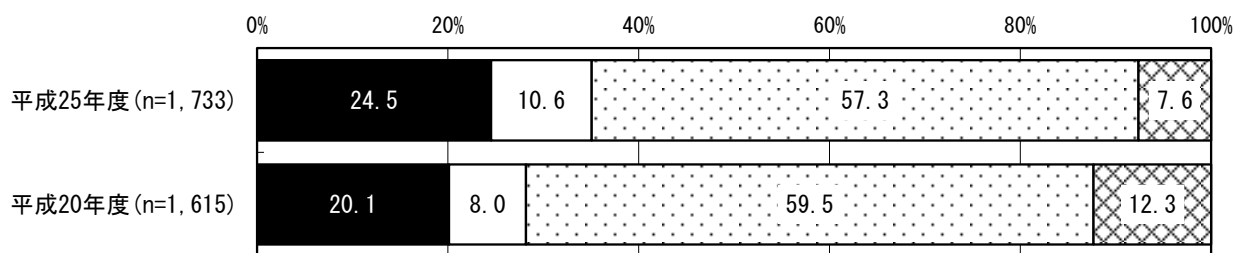
区分	年齢
乳幼児期	6歳以下
児童期	7歳～12歳
思春期	13歳～19歳
青年期	20歳～39歳
壮年期	40歳～64歳
高齢期	65歳以上

【7. 就労状況】

問 27-1 あなたは現在、働いていますか。(〇は1つ)

- ・前回と比べると「働いている」が増加し、「働いていない」が減少している。
- ・障害別でみると「働いている」の割合は、「身体」が最も高く、「精神」が最も低い。
- ・「就労移行支援、就労継続支援事業所などに通所している」の割合は、「知的」が26.5%と最も高く、「身体」では2.7%と、最も低くなっている。
- ・「働いていない」の割合は、知的が最も低くなっている。

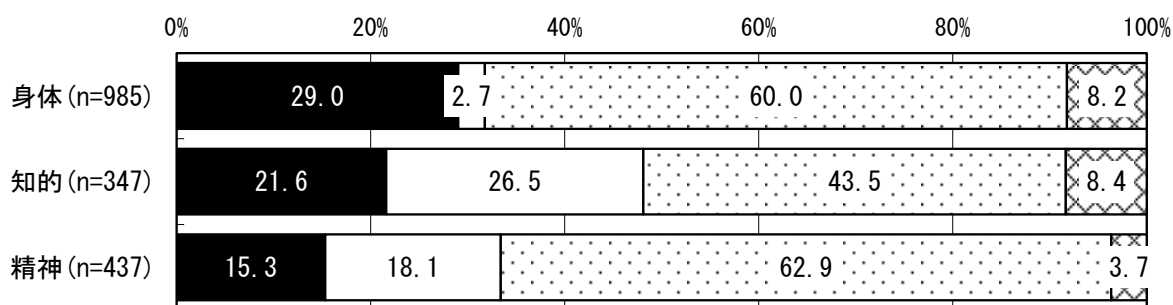
(経年比較)



働いている
 就労移行支援・就労継続支援事業所などに通所している
 働いていない
 無回答

※平成20年度は「授産施設、作業所などに通所している」

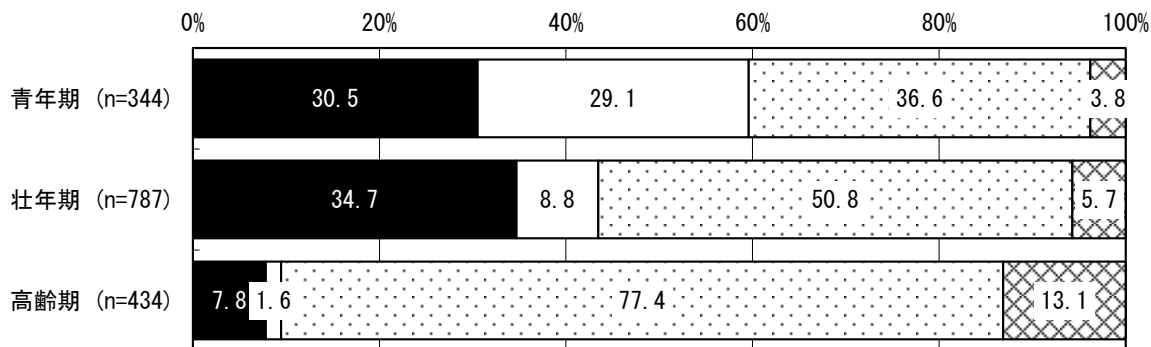
(平成25年度障害別)



働いている
 就労移行支援・就労継続支援事業所などに通所している
 働いていない
 無回答

- ・ライフステージ別でみると、「働いている」が占める割合は「壮年期」で 34.7%と最も高く、次いで「青年期」となっている。
- ・「就労移行支援・就労継続支援事業所などに通所している」は「青年期」が最も高く、29.1%となっている。

(ライフステージ別)



働いている
 就労移行支援、就労継続支援事業所などに通所している
 働いていない
 無回答

※ライフステージ

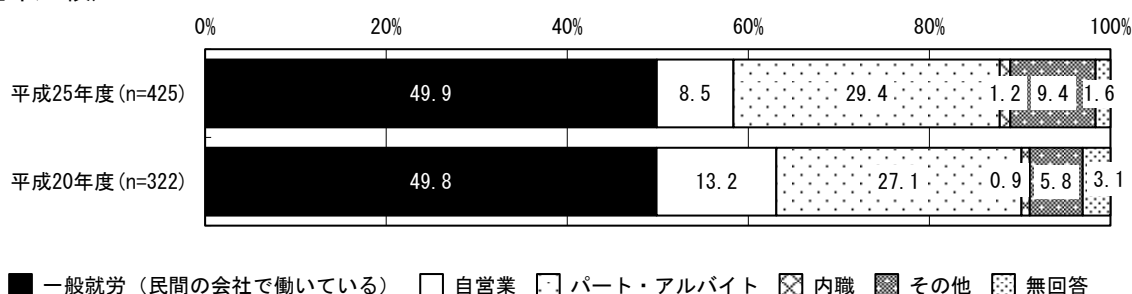
区分	年齢
乳幼児期	6歳以下
児童期	7歳～12歳
思春期	13歳～19歳
青年期	20歳～39歳
壮年期	40歳～64歳
高齢期	65歳以上

《問 27-1 で 1 をお答えの方におたずねします。》

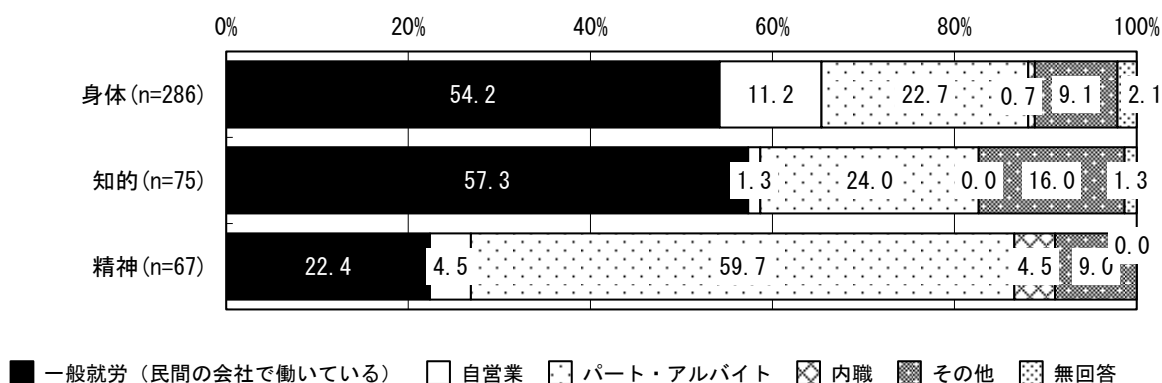
問 27-2 雇用形態は次のうちどれですか。(〇は1つ)

- ・全体では「一般就労（民間の会社で働いている）」が 49.9%で最も多く、次いで「パート・アルバイト」が 29.4%となっている。
- ・前回と比較すると、「自営業」は減少し、「パート・アルバイト」「その他」はやや増加している。
- ・障害別にみると「身体」「知的」では「一般就労（民間の会社で働いている）」が 5 割台で最も多く、次いで「パート・アルバイト」が 2 割台となっている。
- ・「精神」では「パート・アルバイト」が 59.7%と最も多く、次いで「一般就労（民間の会社で働いている）」が 22.4%となっている。

(経年比較)

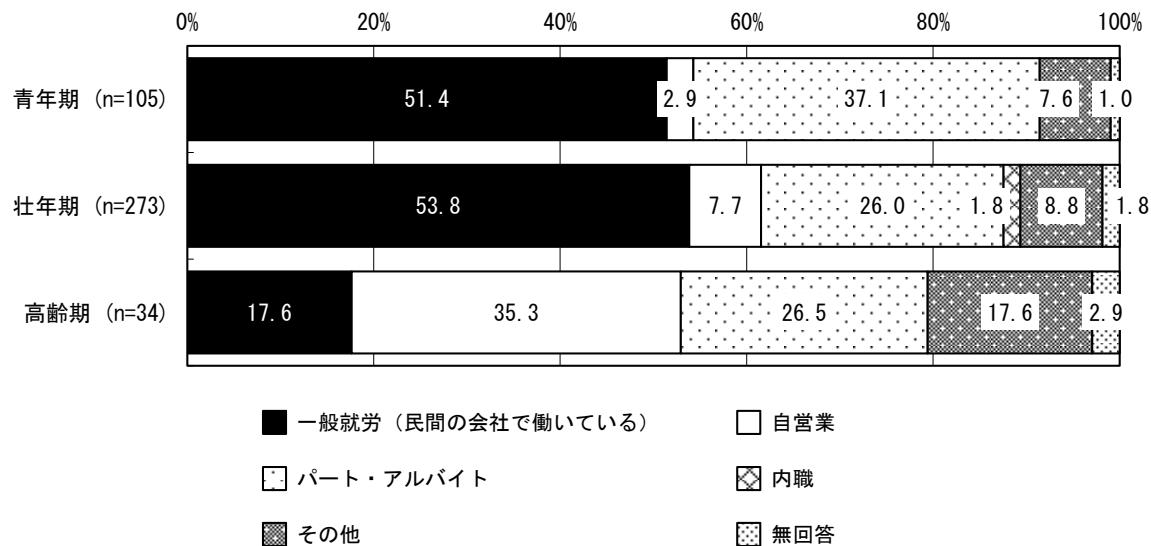


(平成 25 年度障害別)



- ・ライフステージ別でみると、「青年期」「壮年期」においては「一般就労（民間の会社で働いている）」が5割以上で最も多く、次いで「パート・アルバイト」となっている。
- ・「高齢期」においては「自営業」が35.3%と最も多く、他のライフステージと比べて割合が高い。

(ライフステージ別)



※ライフステージ

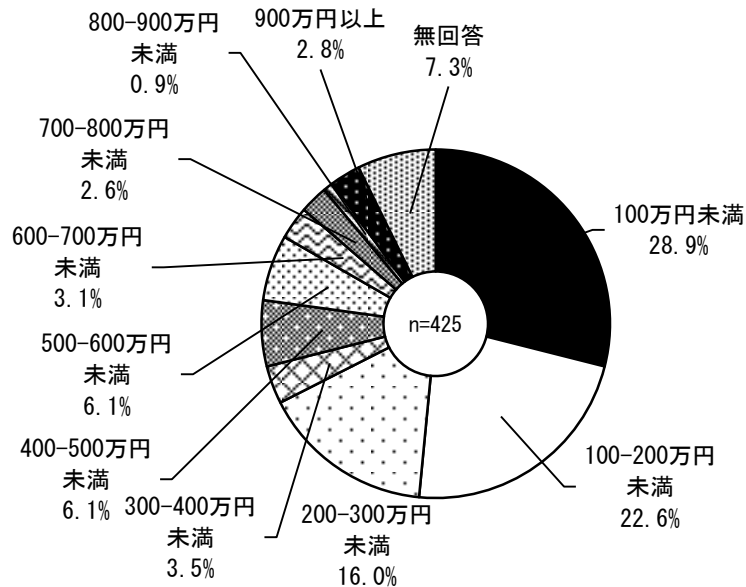
区分	年齢
乳幼児期	6歳以下
児童期	7歳～12歳
思春期	13歳～19歳
青年期	20歳～39歳
壮年期	40歳～64歳
高齢期	65歳以上

《問 27-1 で 1 をお答えの方におたずねします。》

問 27-3 一般就労での年間の収入はどれくらいですか。(○は1つ)

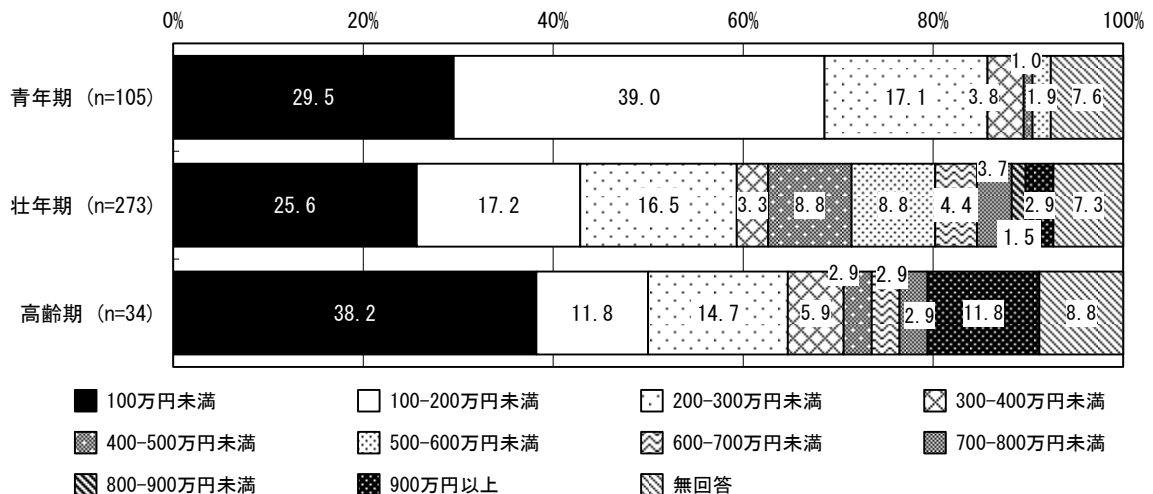
- ・全体では「100万円未満」が28.9%と最も多く、次いで「100-200万円未満」が22.6%、「200-300万円未満」16.0%となっており、300万円未満の割合が、三分の二を占めている。

(全体の傾向)



(ライフステージ別)

- ・ライフステージ別でみると「青年期」においては「100-200万円未満」が39.0%と最も高く、次いで「100万円未満」となっている。また、「200-300万円未満」が17.1%と高くなっており、300万円未満の割合が全体の8割以上を占めている。
- ・「壮年期」においては「100万円未満」が25.6%と最も多く、次いで「100-200万円未満」となっている。
- ・「高齢期」においては「100万円未満」が38.2%と最も多く、次いで「200-300万円未満」となっている。また、「900万円以上」が1割を超え、他のライフステージと比べて高くなっている。



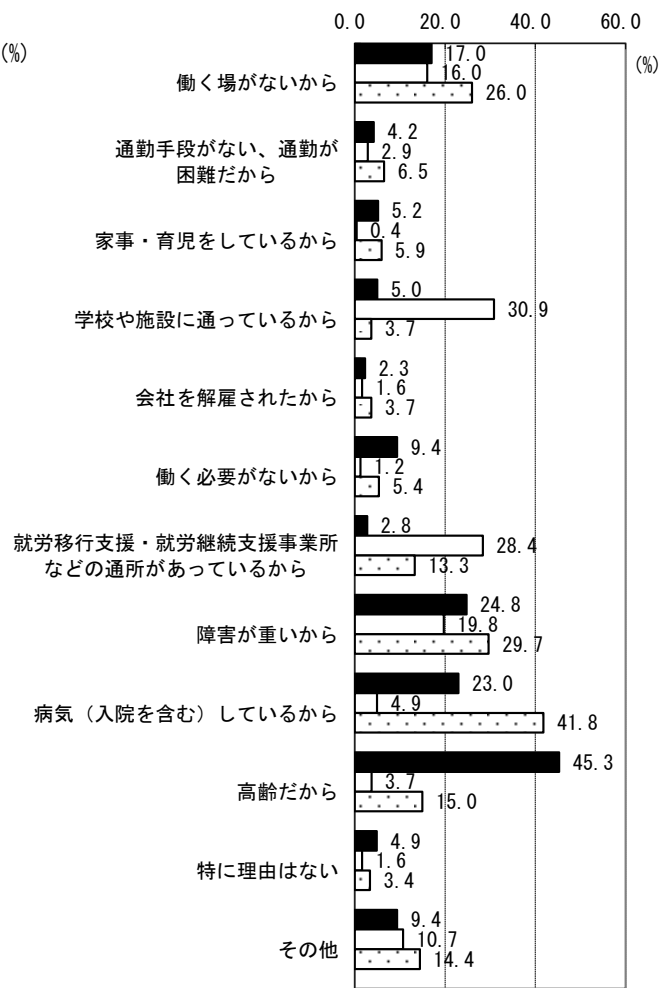
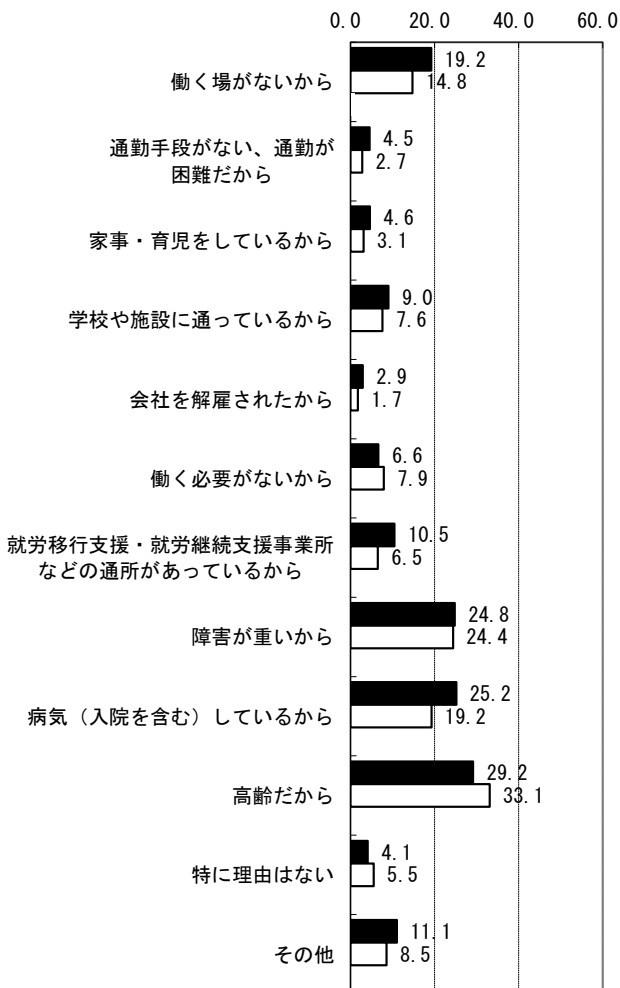
《問 27-1 で 2・3 をお答えの方におたずねします。》

問 27-4 あなたが働いていない理由は何ですか。(〇は3つまで)

- ・全体では「高齢だから」が 29.2%と最も多く、次いで「病気（入院を含む）しているから」が 25.2%となっている。
- ・前回と比較するとほぼ同じ傾向にあるが、「働く場がないから」「就労移行支援・就労継続支援事業所などの通所があるから」などがやや増加している。
- ・障害別でみると「身体」では「高齢だから」が 45.3%と最も多く、次いで「障害が重いから」が 24.8%となっている。
- ・「知的」では「学校や施設に通っているから」が 30.9%と最も多く、次いで「就労移行支援・就労継続支援事業所などの通所があるから」が 28.4%となっている。
- ・「精神」では「病気しているから」が 41.8%と最も多く、次いで「障害が重いから」が 29.7%となっている。

(全体の傾向)

(平成 25 年度障害別)



■ 平成25年度 (n=1,176) □ 平成20年度 (n=1,091)

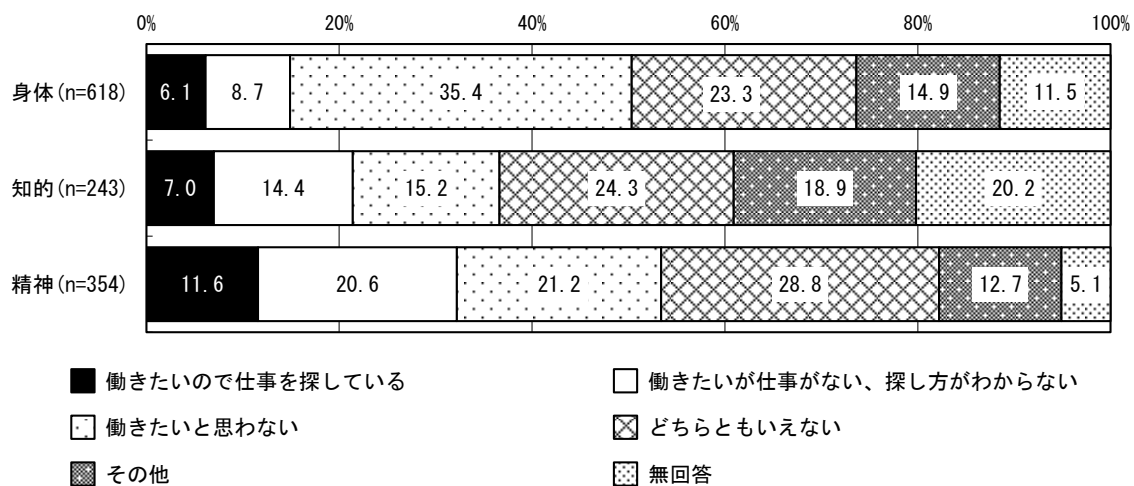
■ 身体 (n=618) □ 知的 (n=243) □ 精神 (n=354)

《問 27-1 で 2・3 をお答えの方におたずねします。》

問 27-5 あなたは働きたい（一般就労）と思いますか。（○は1つ）

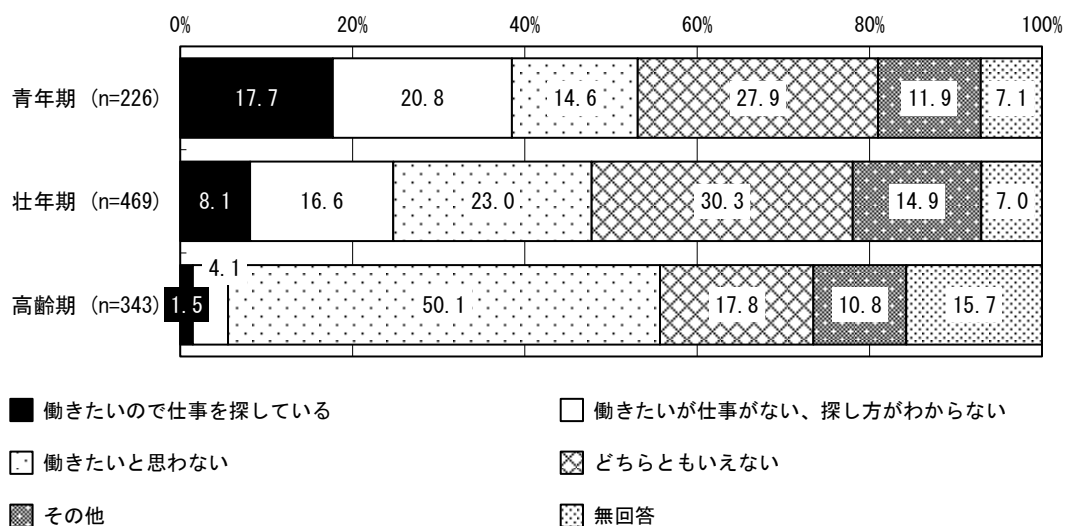
・全体では「働きたいと思わない」が 27.5%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が 25.3%となっている。

（平成 25 年度障害別）



- ・ライフステージ別でみると「青年期」においては「働きたいので仕事を探している」「働きたいが仕事がない、探し方がわからない」の合計が4割近くを占めている。
- ・「働きたいと思わない」はライフステージが進むにつれ高くなり、「高齢期」においては50.1%を占めている。

(ライフステージ別)



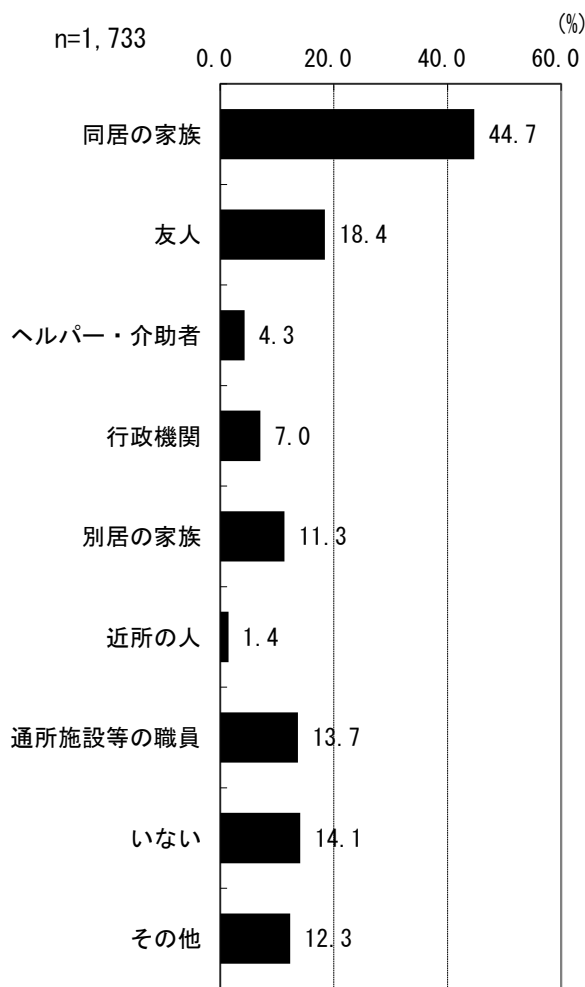
※ライフステージ

区分	年齢
乳幼児期	6歳以下
児童期	7歳～12歳
思春期	13歳～19歳
青年期	20歳～39歳
壮年期	40歳～64歳
高齢期	65歳以上

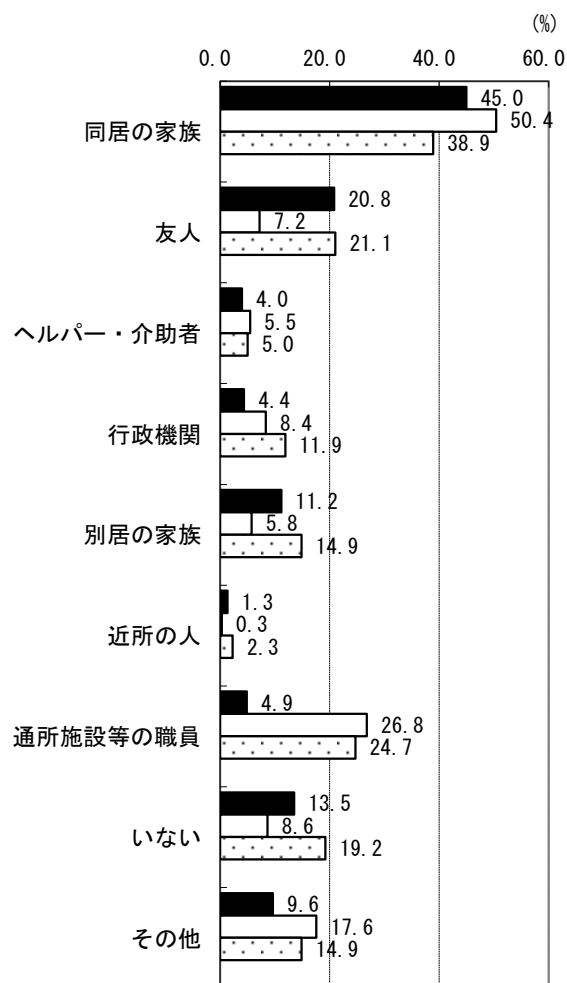
問 28 就労に関して、悩み事や困った場合の相談相手はいますか。(〇いくつでも)

- ・全体では「同居の家族」が 44.7%と最も多く、次いで「友人」が 18.4%となっている。
- ・障害別でみると「身体」では「同居の家族」が 45.0%と最も多く、次いで「友人」が 20.8%となっている。また、「通所施設等の職員」は 4.9%で他の障害と比べて低くなっている。
- ・「知的」「精神」では、「同居の家族」が最も多く、次いで「通所施設等の職員」となっている。
- ・「知的」では「友人」「別居の家族」「いない」などが、他の障害に比べ低くなっている。

(全体の傾向)



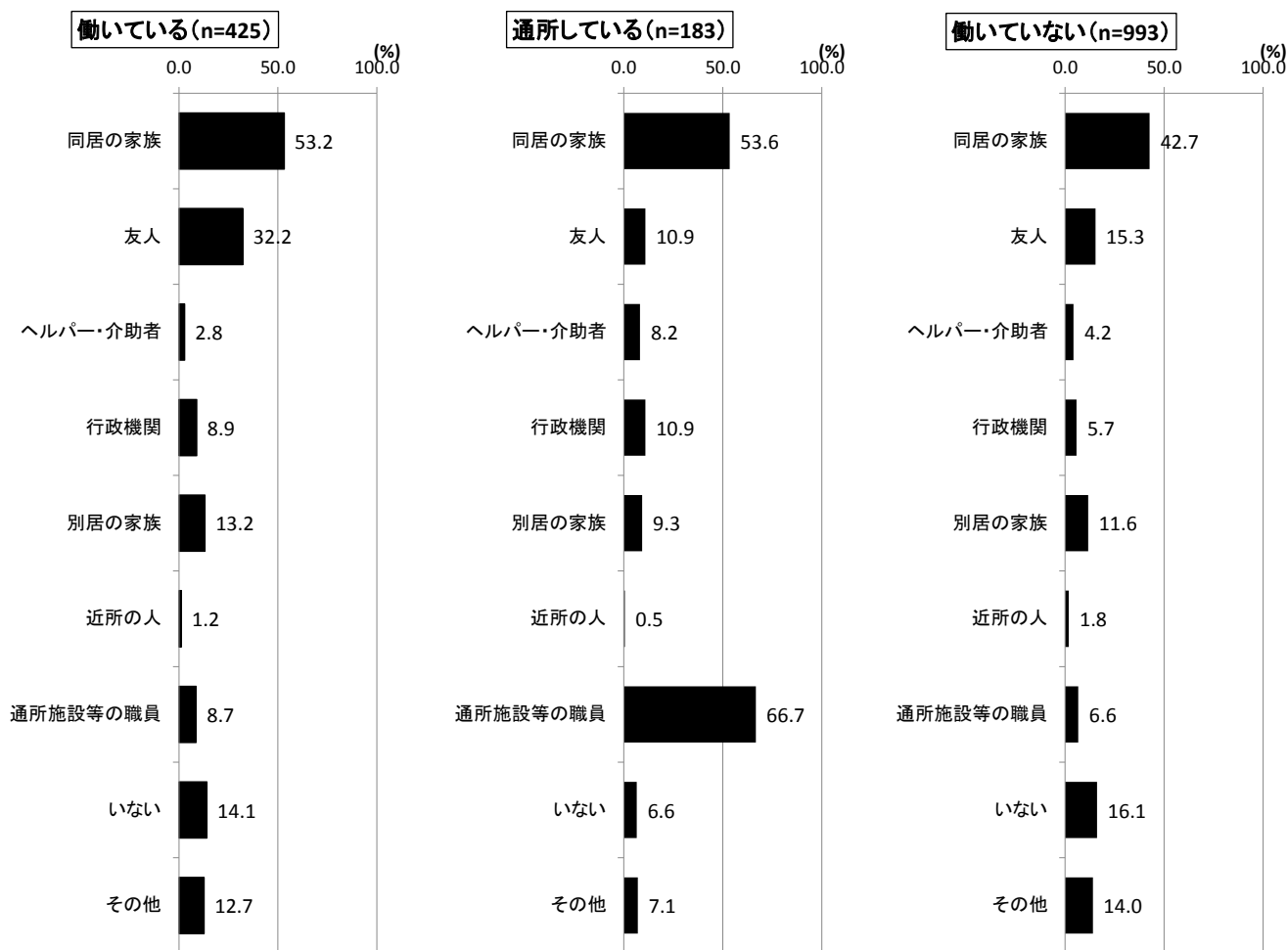
(平成 25 年度障害別)



■ 身体 (n=985) □ 知的 (n=347) ▨ 精神 (n=437)

- ・就労状況別で見ると、全ての就労状況において「同居の家族」が4割を超えている。
- ・「働いている」では「同居の家族」が53.2%と最も多く、次いで「友人」が32.2%となっている。また「友人」は、他の就労状況に比べて割合が高くなっている。
- ・「通所している」では「通所施設等の職員」が66.7%と最も多く、次いで「同居の家族」が53.6%となっている。
- ・「働いていない」では「同居の家族」が42.7%と最も多く、次いで「いない」が16.1%となっている。

(就労状況別)

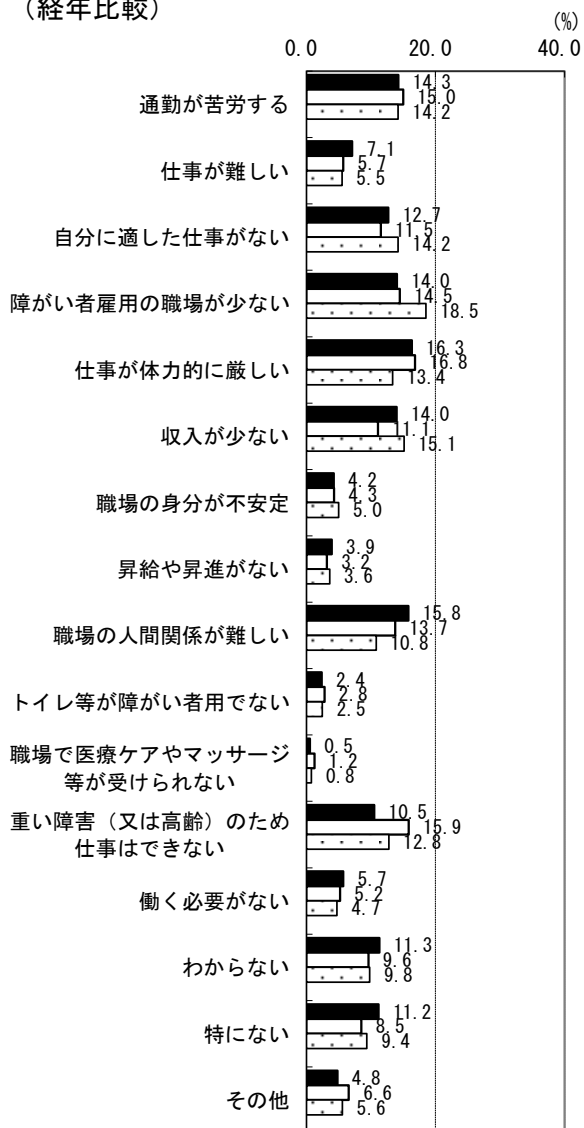


問 29 あなたが仕事をしている上で、またはこれから仕事する上で、どのような問題点がありますか。

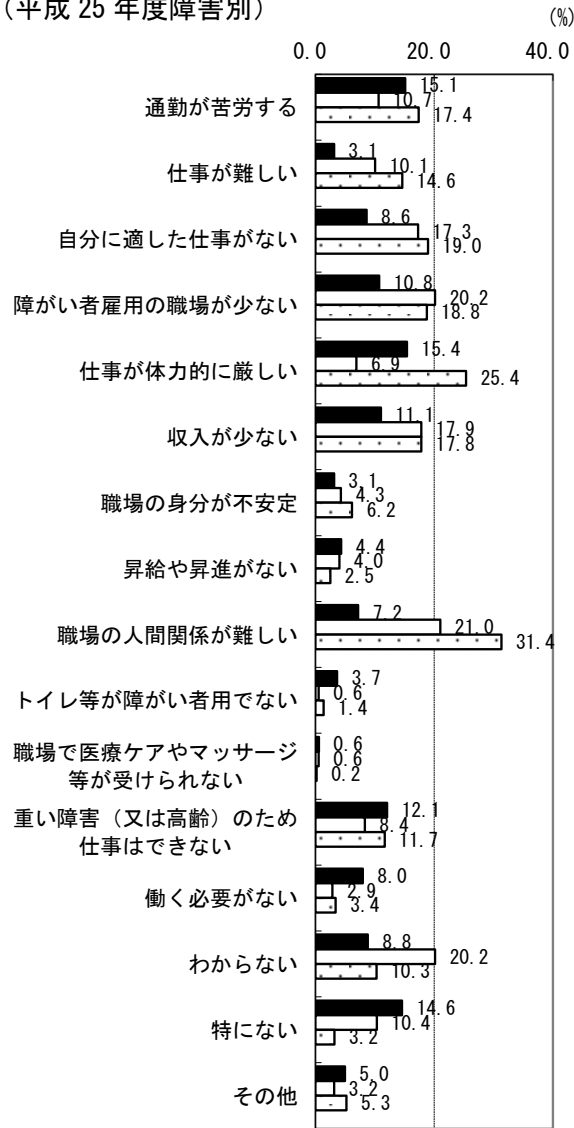
(○は3つまで)

- ・全体では「仕事が体力的に厳しい」が 16.3%と最も多く、次いで「職場の人間関係が難しい」が 15.8%となっている。
- ・前回までと比較するとほぼ同じ傾向にあるが、「職場の人間関係が難しい」はやや増加している。また「重い障害（または高齢）のため仕事はできない」は前回に比べ減少している。
- ・障害別でみると「身体」では「仕事が体力的に厳しい」が 15.4%と最も多く、次いで「通勤が苦勞する」が 15.1%となっている。
- ・「知的」では「職場の人間関係が難しい」が 21.0%と最も多く、次いで「障がい者雇用の職場が少ない」「わからない」が 20.2%となっている。
- ・「精神」では「職場の人間関係が難しい」が 31.4%と最も多く、次いで「仕事が体力的に厳しい」が 25.4%となっている。また他の障害に比べ、どちらも割合が高くなっている。

(経年比較)



(平成 25 年度障害別)



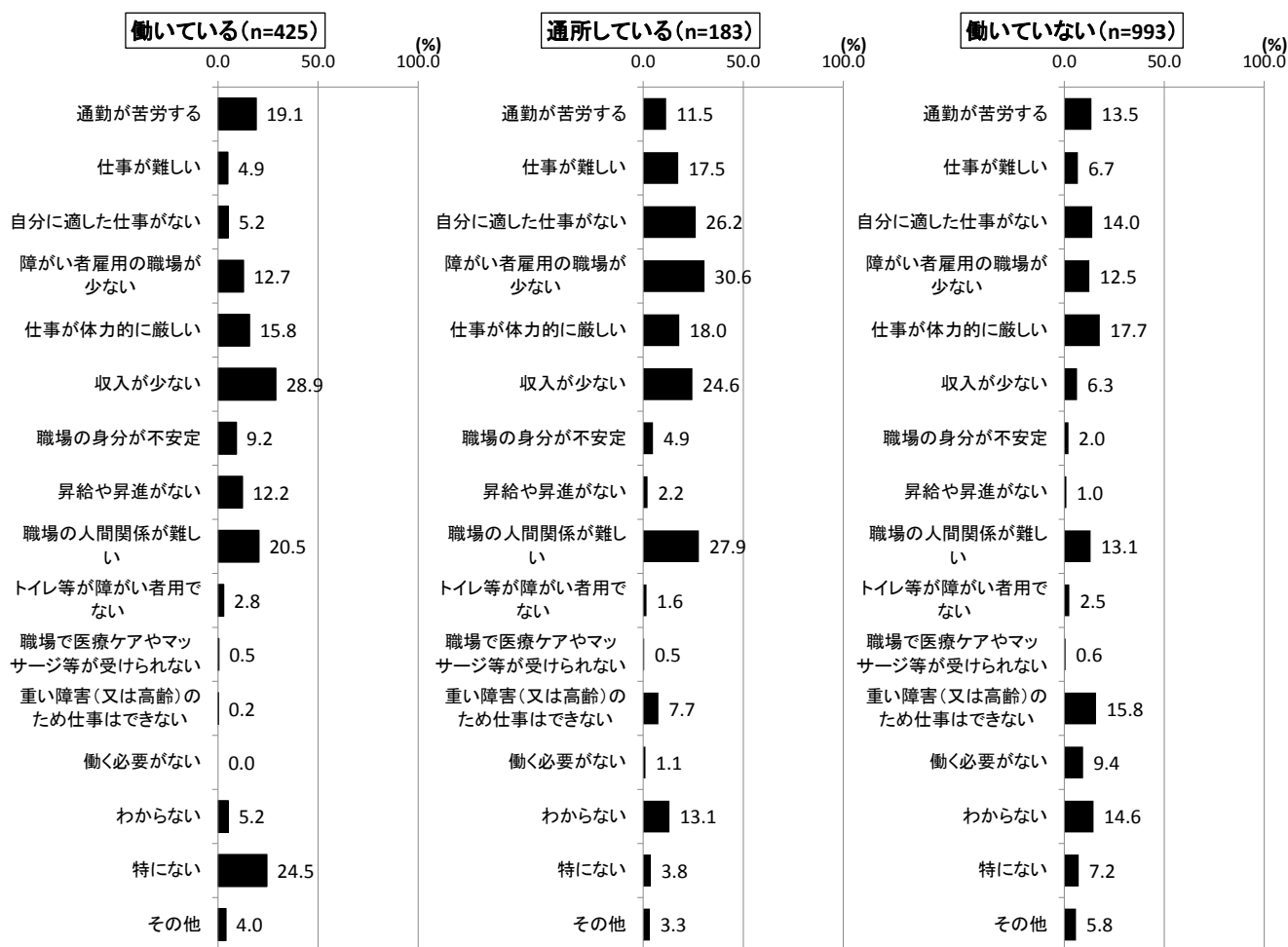
■ 平成25年度 (n=1, 733) □ 平成20年度 (n=1, 615)

■ 身体 (n=985) □ 知的 (n=347) □ 精神 (n=437)

□ 平成16年度 (n=1, 667)

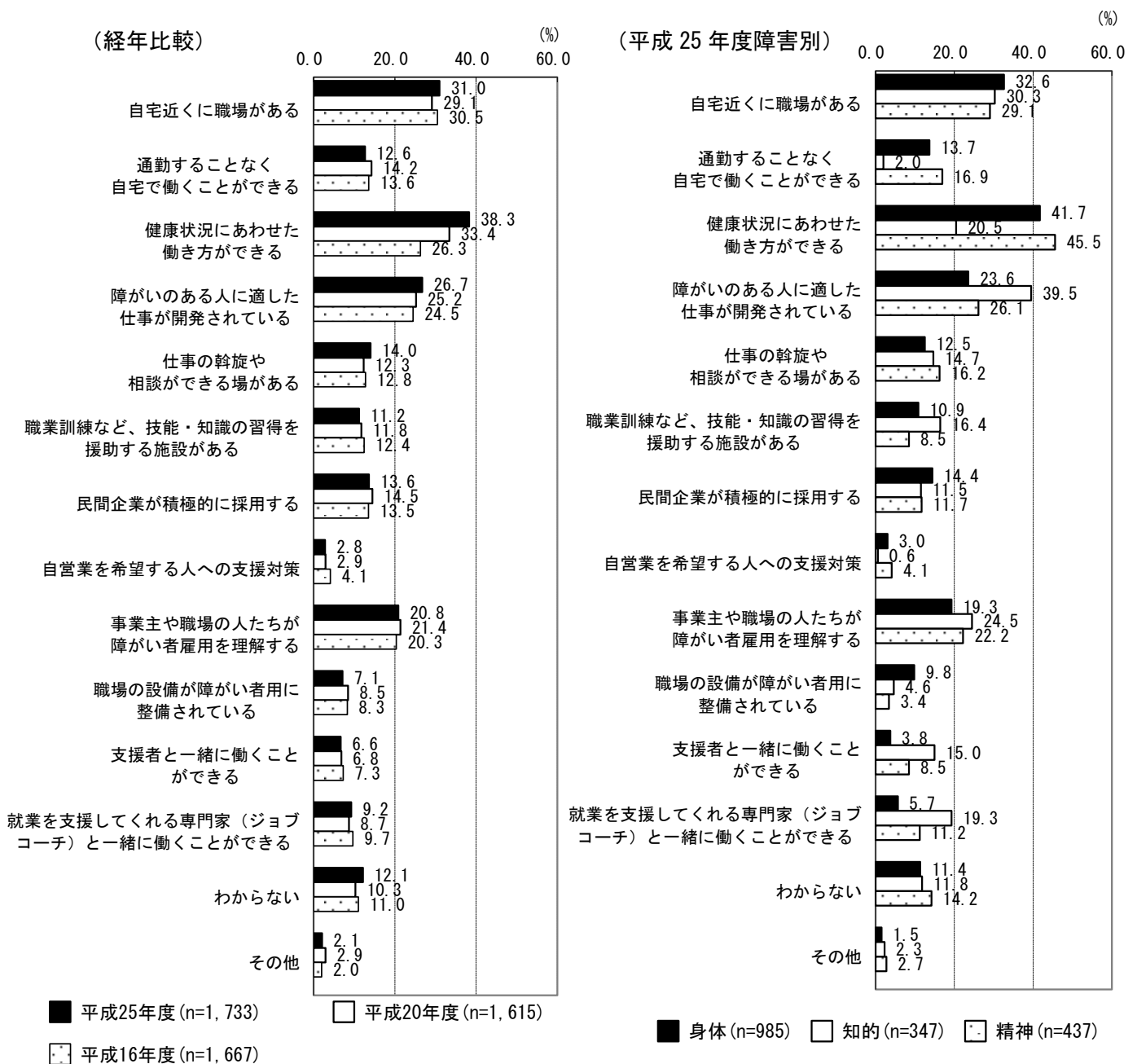
- ・就労状況別にみると「働いている」では「収入が少ない」が28.9%と最も多く、次いで「特にない」、「職場の人間関係が難しい」と続く。
- ・「通所している」では「障がい者雇用の職場が少ない」が30.6%と最も多く、次いで「職場の人間関係が難しい」、「自分に適した仕事がない」と続く。
- ・「働いていない」では「仕事が体力的に厳しい」が17.7%で最も多く、次いで「重い障害（または高齢）のため仕事はできない」、「自分に適した仕事がない」と続く。

(就労状況別)



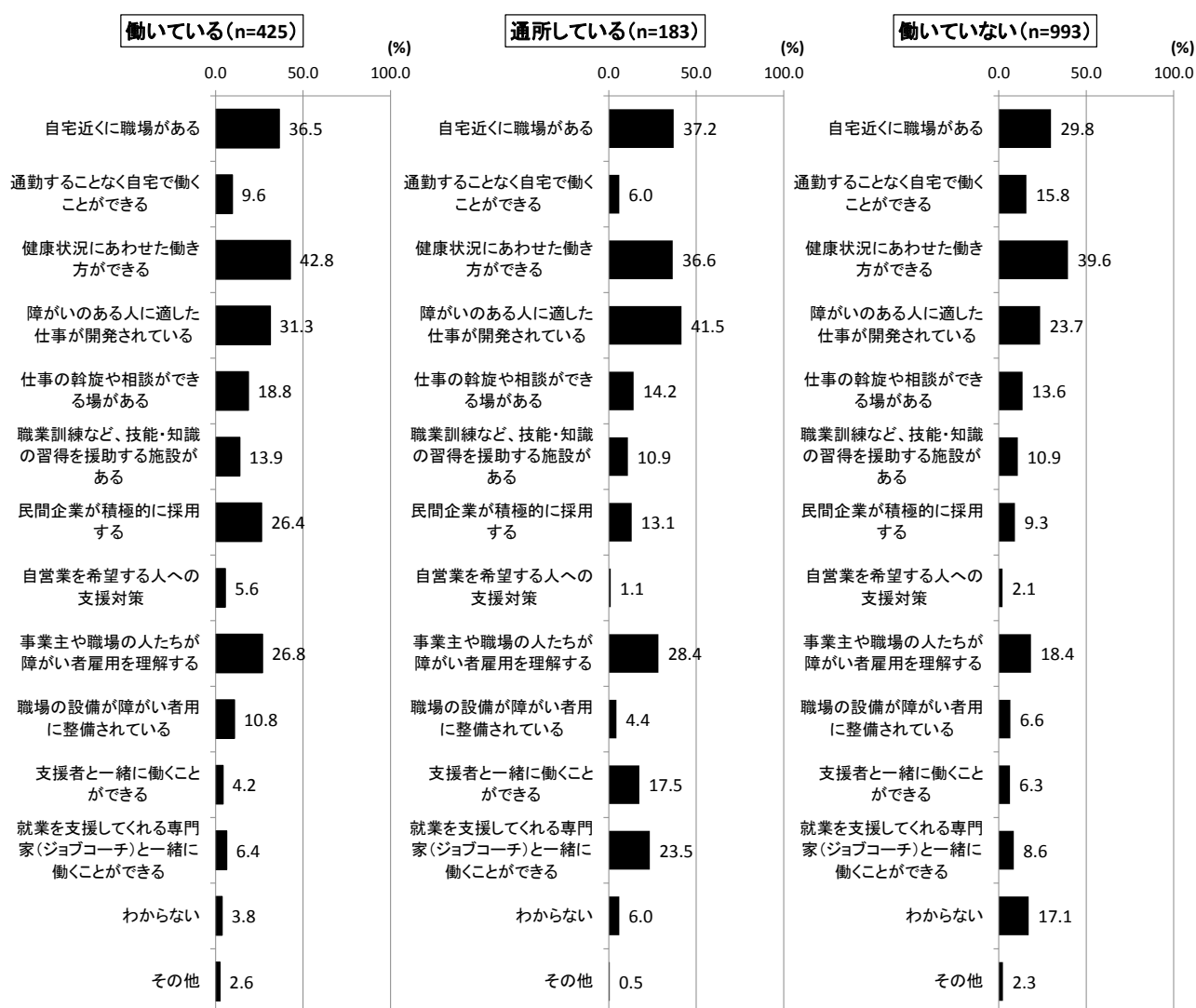
問30 現在、またはこれから障がいのある人が働くためには、どのような環境条件や整備等が大切だとお考えですか。(〇は3つまで)

- ・全体では「健康状況にあわせた働き方ができる」が38.3%と最も多く、次いで「自宅近くに職場がある」が31.0%となっている。
- ・前回までと比較すると、ほぼ同じ傾向となっているが、「健康状況にあわせた働き方ができる」が更に増加している。
- ・障害別でみると「身体」「精神」では「健康状況にあわせた働き方ができる」が4割台と最も多く、次いで「自宅近くに職場がある」が3割前後となっている。
- ・「知的」では「障がいのある人に適した仕事が開発されている」が39.5%と最も多く、次いで「自宅近くに職場がある」が30.3%となっている。



- ・就労状況別でみると、「健康状況にあわせた働き方ができる」「自宅近くに職場がある」「障がいのある人に適した仕事が開発されている」は、全ての就労状況で2割以上を占めている。
- ・「働いている」「働いていない」では「健康状況にあわせた働き方ができる」が最も多く、次いで「自宅近くに職場がある」、「障がいのある人に適した仕事が開発されている」と続く。
- ・「通所している」では「障がいのある人に適した仕事が開発されている」が41.5%で最も多く、次いで「自宅近くに職場がある」、「健康状況にあわせた働き方ができる」と続く。また「就業を支援してくれる専門家(ジョブコーチ)と一緒に働くことができる」は23.5%で、他の就労状況に比べ割合が高くなっている。
- ・「働いていない」では「わからない」「通勤することなく自宅で働くことができる」が、他の就労状況に比べ割合が高くなっている。

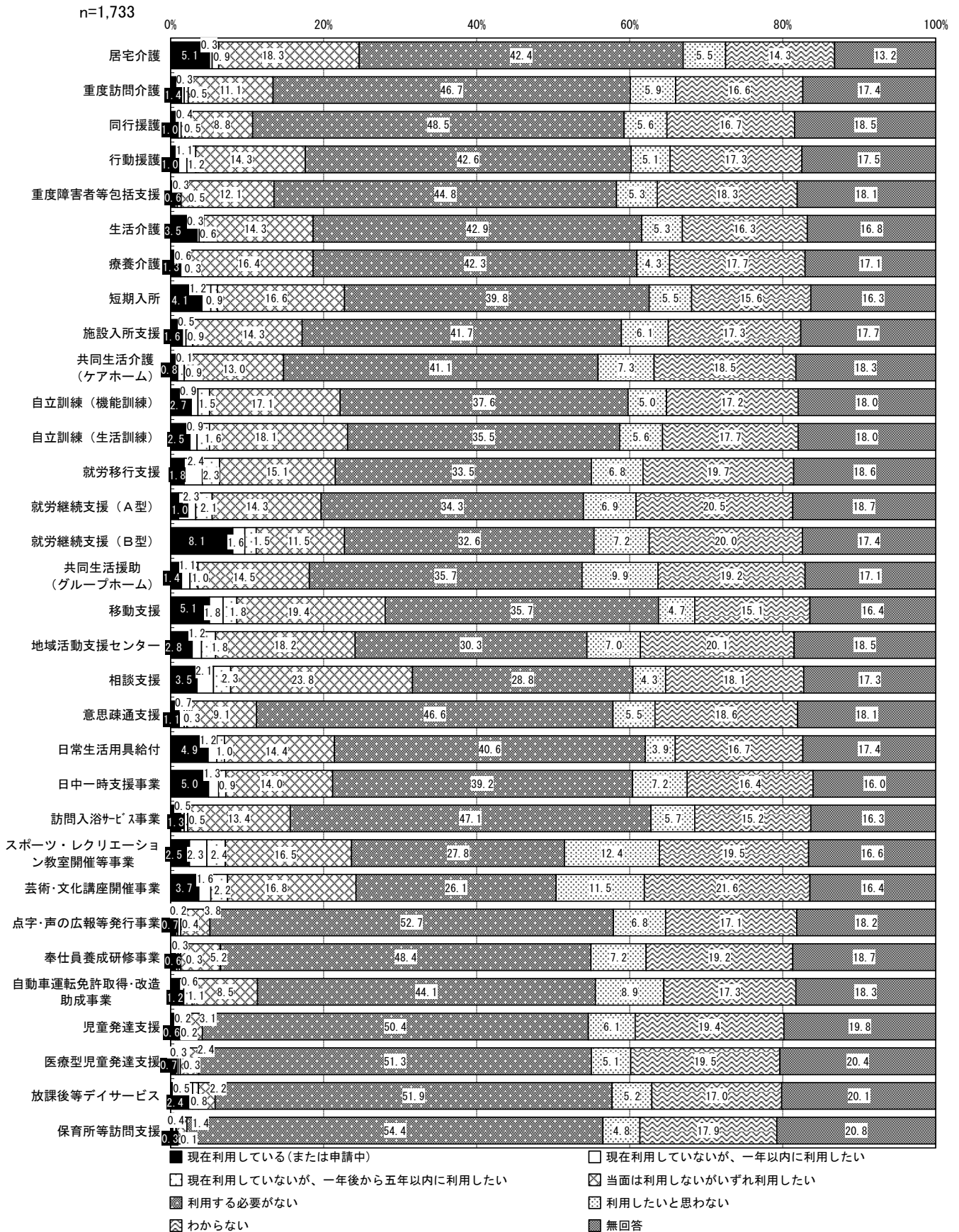
(就労状況別)



【8. 福祉サービス】

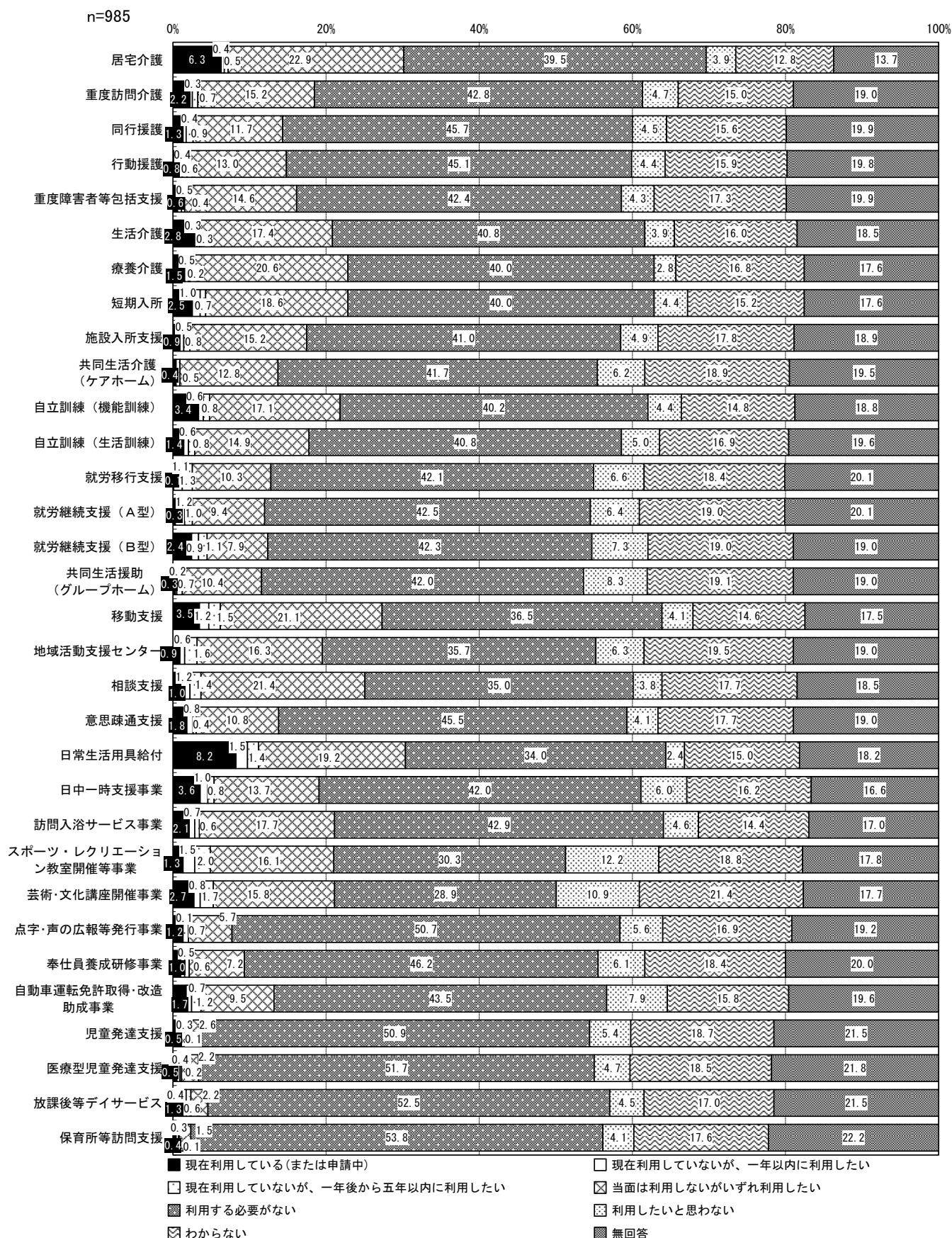
問 31 「障害者総合支援法」、「児童福祉法」の福祉サービスについてあなたの利用状況をお答えください。(○は1～7のうち1つ)

(全体の傾向)

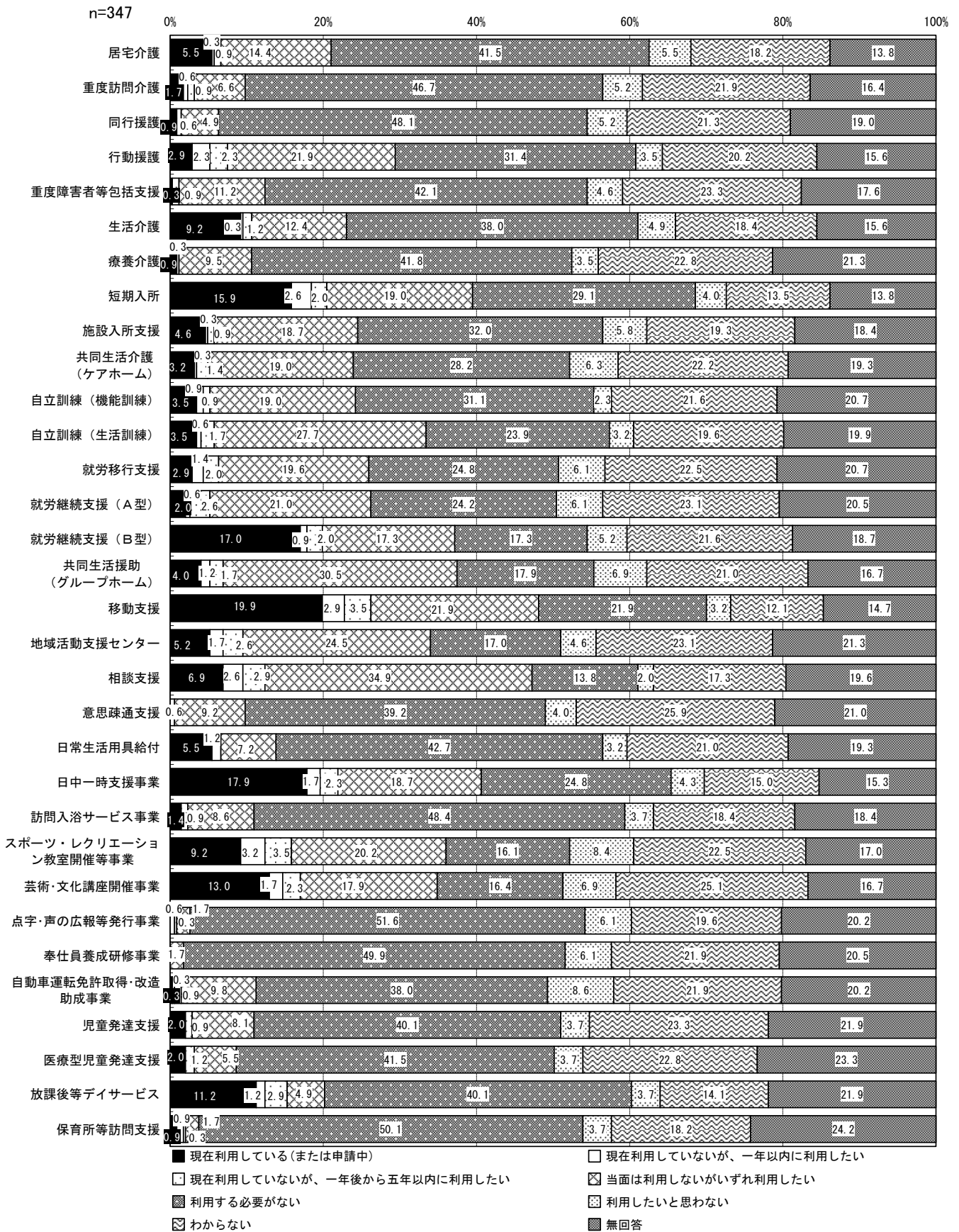


(平成 25 年度障害別)

【身体障がい者】

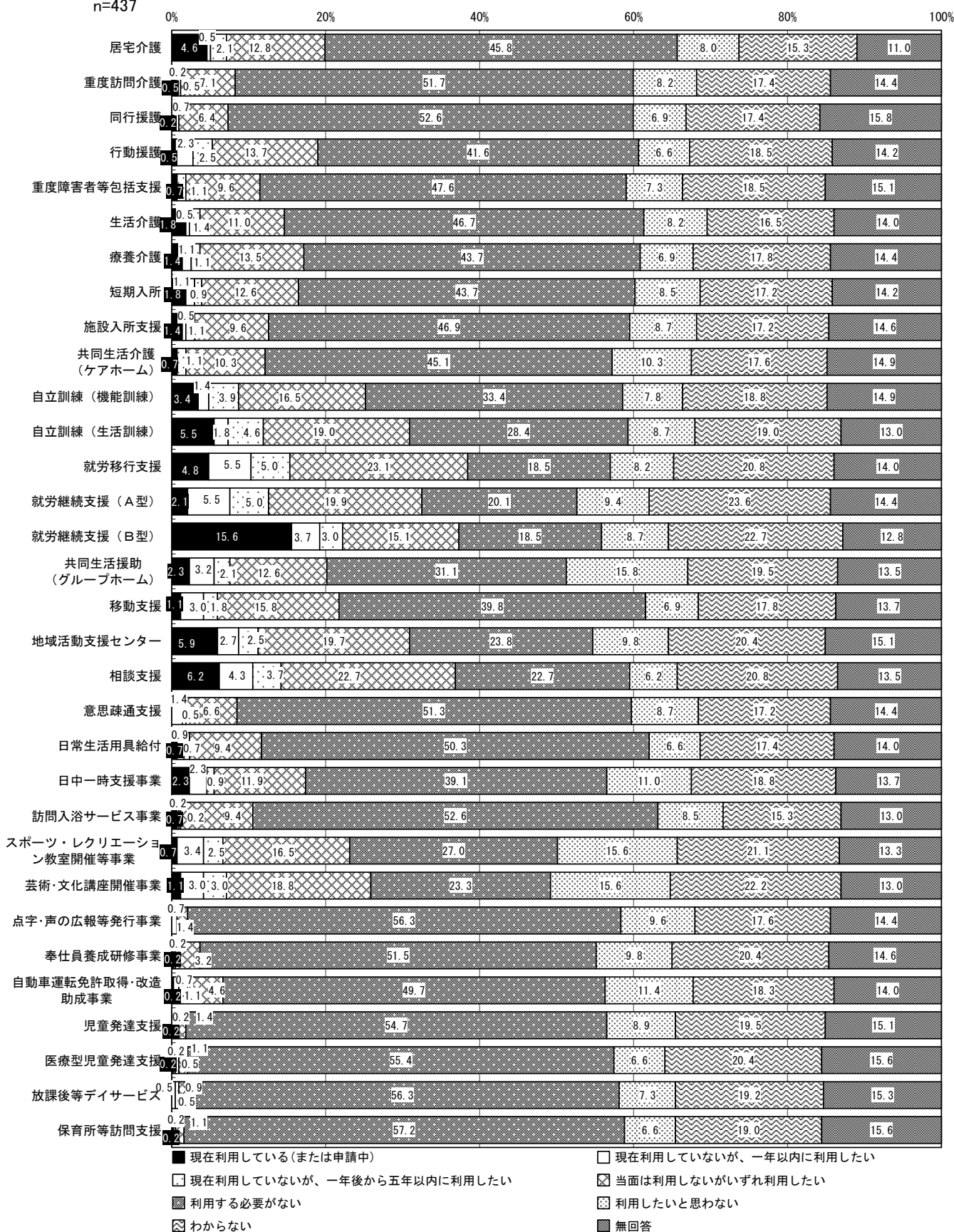


【知的障がい者】



【精神障がい者】

n=437

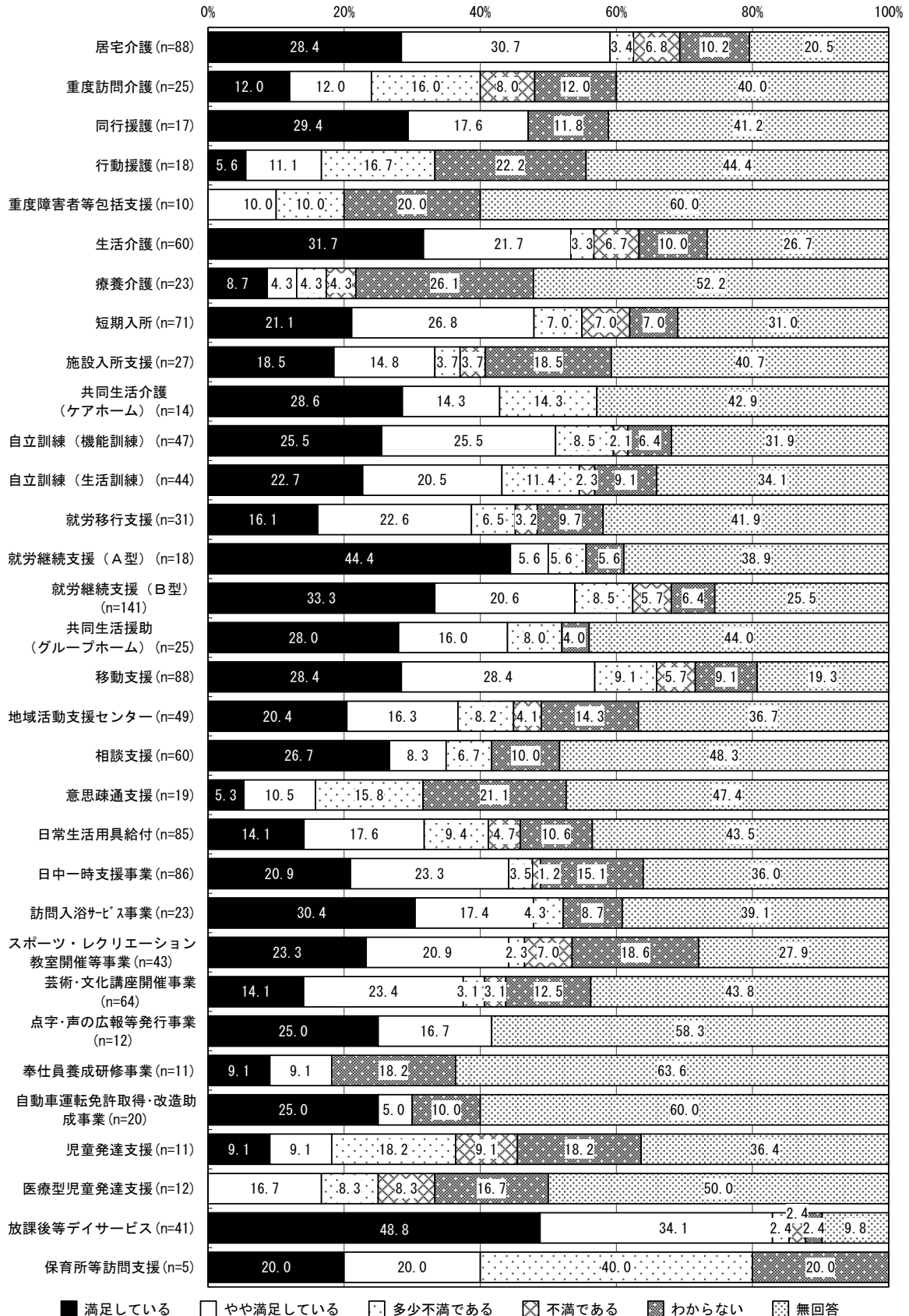


《問 31 で 1 「現在利用している」 をお答えの方におたずねします。》

問 32 「障害者総合支援法」「児童福祉法」の福祉サービスについてあなたの満足度をお答えください。

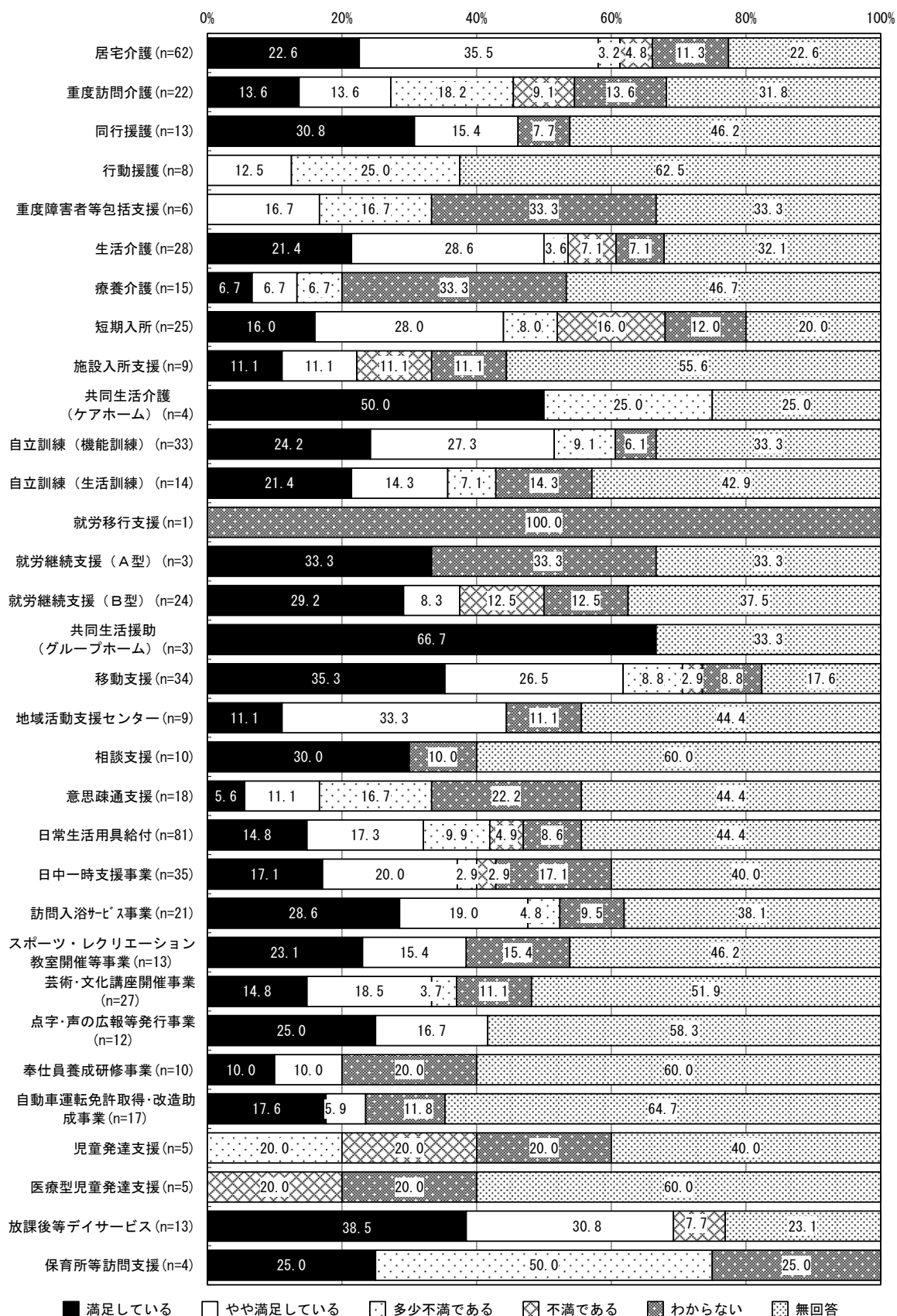
(○は 1～5 のうち 1 つ)

(全体の傾向)

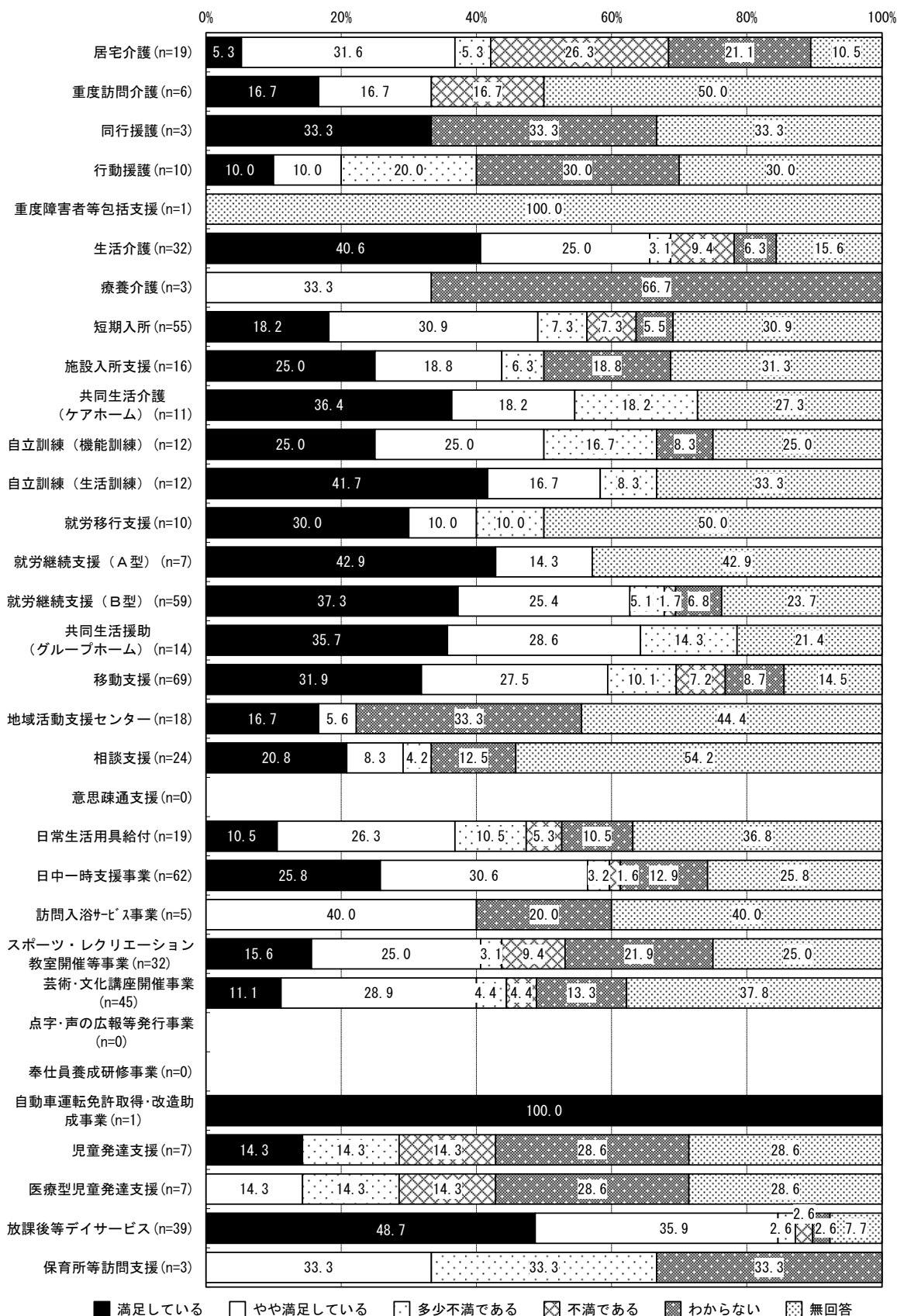


(平成 25 年度障害別)

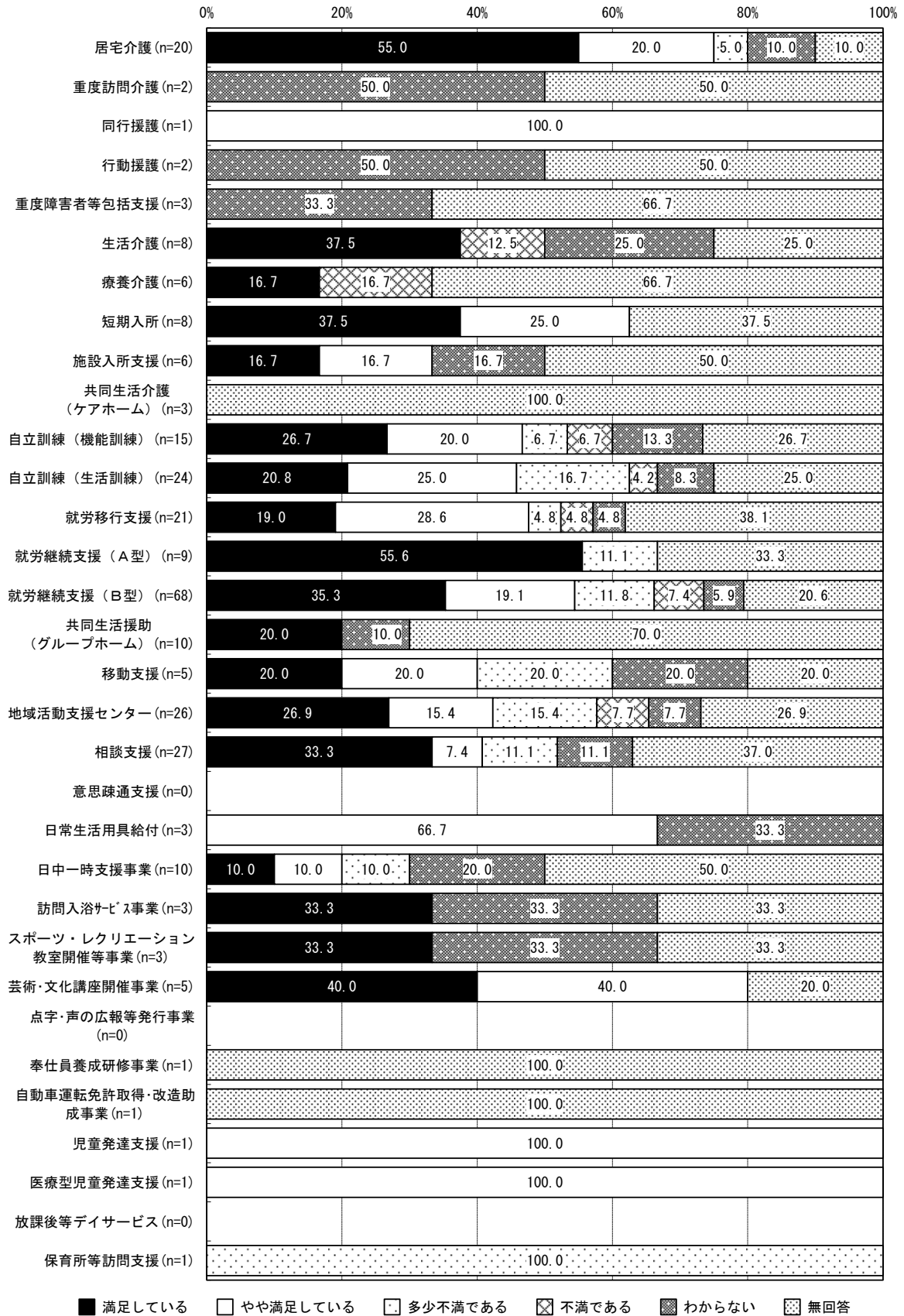
【身体障がい者】



【知的障がい者】



【精神障がい者】

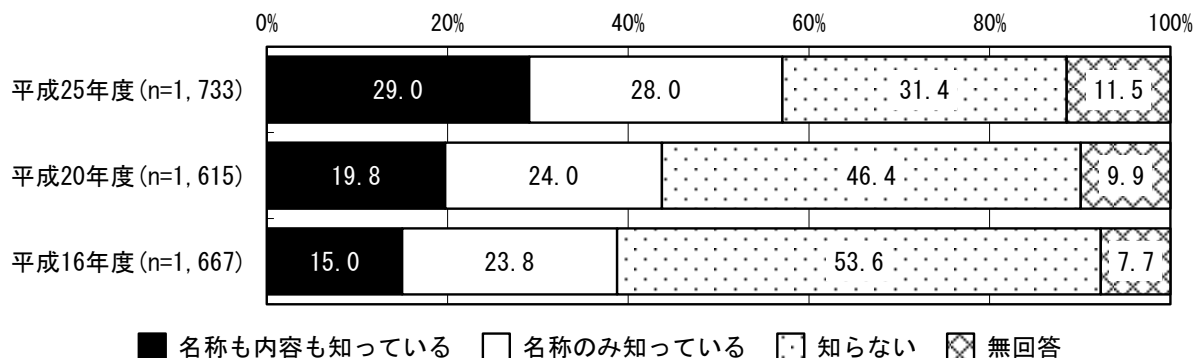


※次の設問 (問 33) は「障害者総合支援法」「児童福祉法」の福祉サービスに関する自由記述のため、別途、資料編に記載しております。

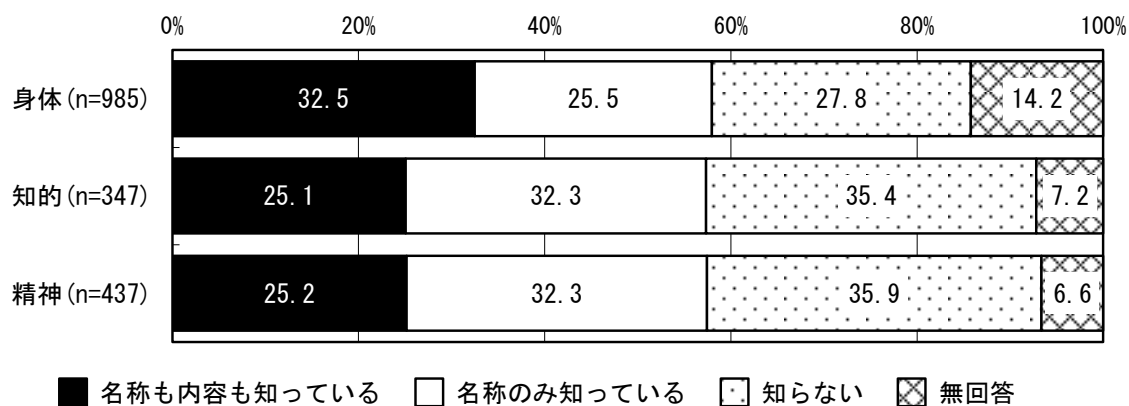
問 34 あなたは「成年後見制度」を知っていますか。(○は1つ)

- ・前回までと比較すると、「名称も内容も知っている」「名称のみ知っている」が増加、「知らない」が減少している。
- ・障害別で見ると、全ての障害で「名称も内容も知っている」「名称のみ知っている」の合計が5割台半ばを超えている。

(経年比較)



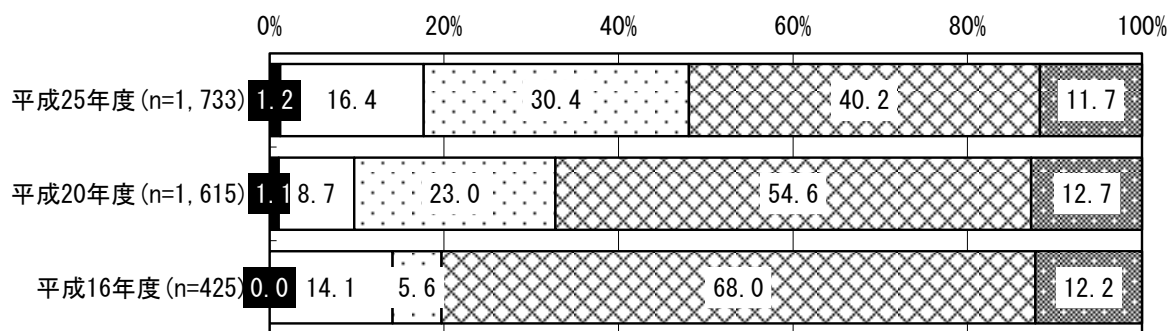
(平成25年度障害別)



問 35 あなたは「成年後見制度」を利用したいですか。(〇は1つ)

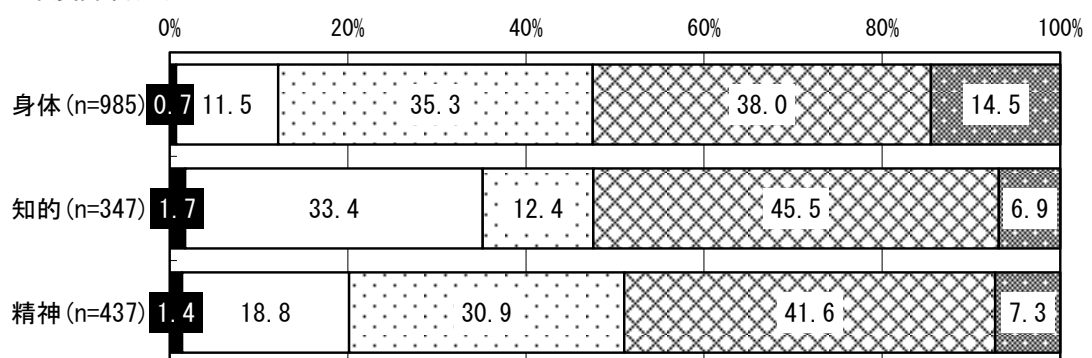
- ・全体では「わからない」が40.2%と最も多く、次いで「利用したいと思わない」が30.4%となっている。
- ・前回までと比較すると「現在利用していないが、今後利用したい」と「利用したいと思わない」が増加している。
- ・障害別でみると、「身体」では「利用したいと思わない」が35.3%で、他の障害と比べて割合が高い。
- ・「知的」では「現在利用していないが、今後利用したい」が33.4%で、他の障害と比べて高い。

(経年比較)



- 現在利用している (または申請中)
- 現在利用していないが、今後利用したい
- ◻ 利用したいと思わない
- ▨ わからない
- ▩ 無回答

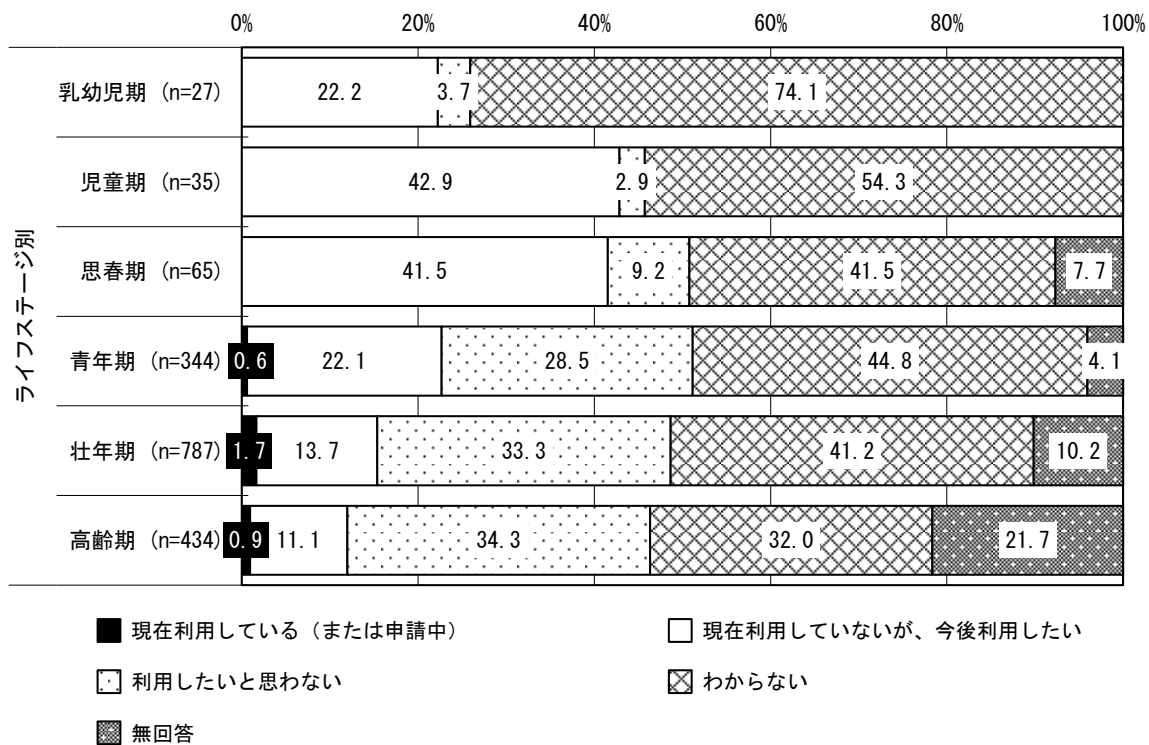
(平成25年度障害別)



- 現在利用している (または申請中)
- 現在利用していないが、今後利用したい
- ◻ 利用したいと思わない
- ▨ わからない
- ▩ 無回答

- ・ライフステージ別でみると「現在利用していないが、今後利用したい」は「児童期」において42.9%と最も高く、次いで「思春期」41.5%となっている。
- ・「利用したいと思わない」は「高齢期」において34.3%と最も高く、次いで「壮年期」で33.3%となっている。

(ライフステージ別)



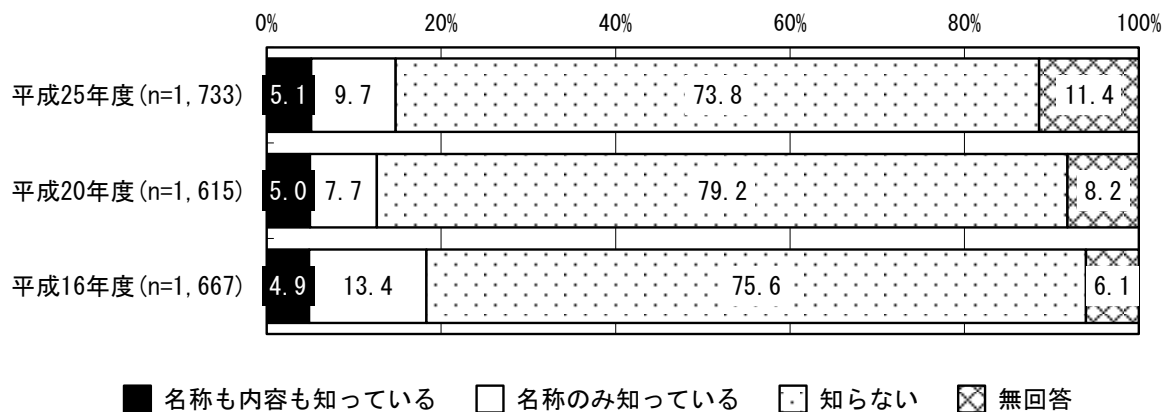
※ライフステージ

区分	年齢
乳幼児期	6歳以下
児童期	7歳～12歳
思春期	13歳～19歳
青年期	20歳～39歳
壮年期	40歳～64歳
高齢期	65歳以上

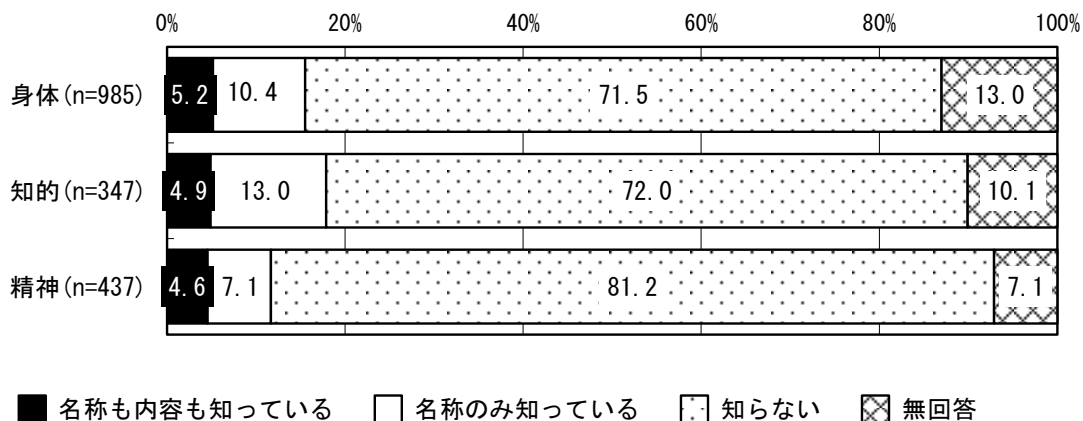
問 36 あなたは「地域福祉権利擁護事業」を知っていますか。(〇は1つ)

- ・全体では「知らない」が73.8%で最も多く、次いで「名称のみ知っている」が9.7%となっている。
- ・前回までと比較すると、ほぼ同じ傾向にあり「知らない」が「知っている」を大きく上回っている。

(経年比較)



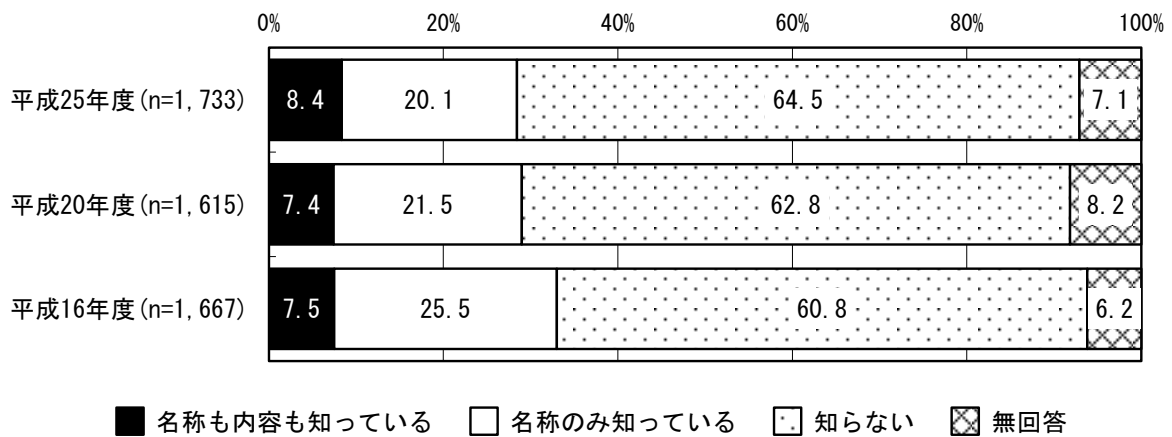
(平成 25 年度障害別)



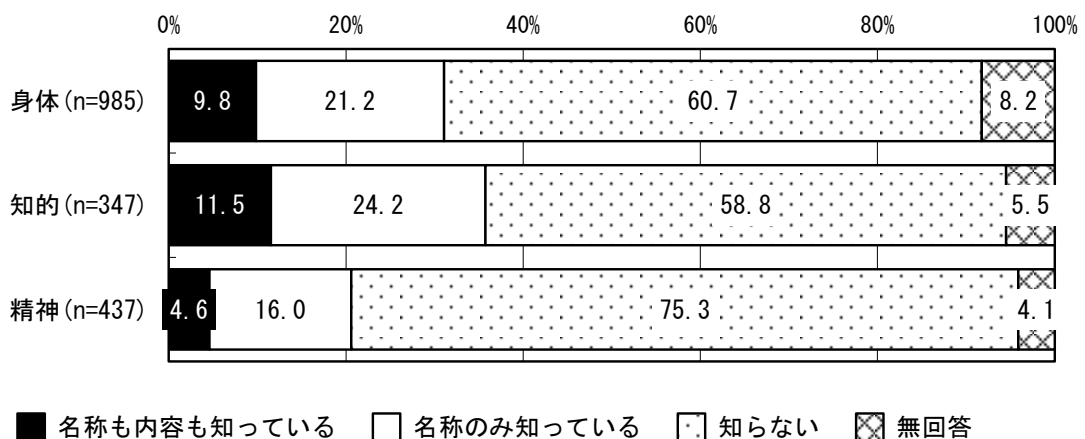
問 37 あなたは、多摩市の「総合オンブズマン」を知っていますか。(〇は1つ)

- ・全体では「知らない」が 64.5%で最も多く、次いで「名称のみ知っている」が 20.1%となっている。
 - ・障害別でみると「名称も内容も知っている」「名称のみ知っている」の合計は、「知的」が最も高く 3割台半ばとなっている。
 - ・全ての障害で「知らない」が5割以上を占め、最も多くなっている。
- (※ 平成 16・20 年度までは「福祉オンブズマン」)

(経年比較)



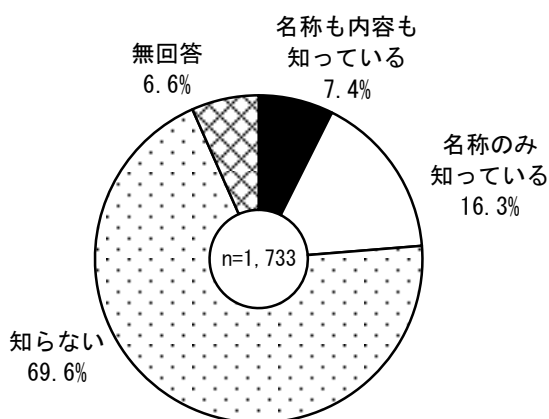
(平成 25 年度障害別)



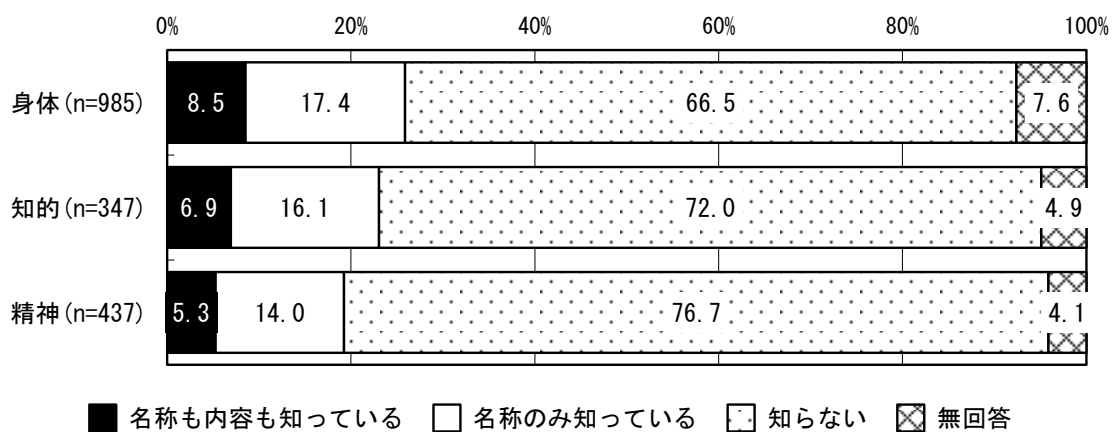
問 38 あなたは、「障害者虐待防止センター」を知っていますか。(○は1つ)

- ・全体では「名称も内容も知っている」「名称のみ知っている」の合計は 23.7%で、「知らない」は 69.6%となっている。
- ・障害別でみると「名称も内容も知っている」「名称のみ知っている」は、ともに「身体」が他の障害と比べ最も高くなっている。
- ・全ての障害で「知らない」が6割を超えている。

(全体の傾向)



(平成 25 年度障害別)

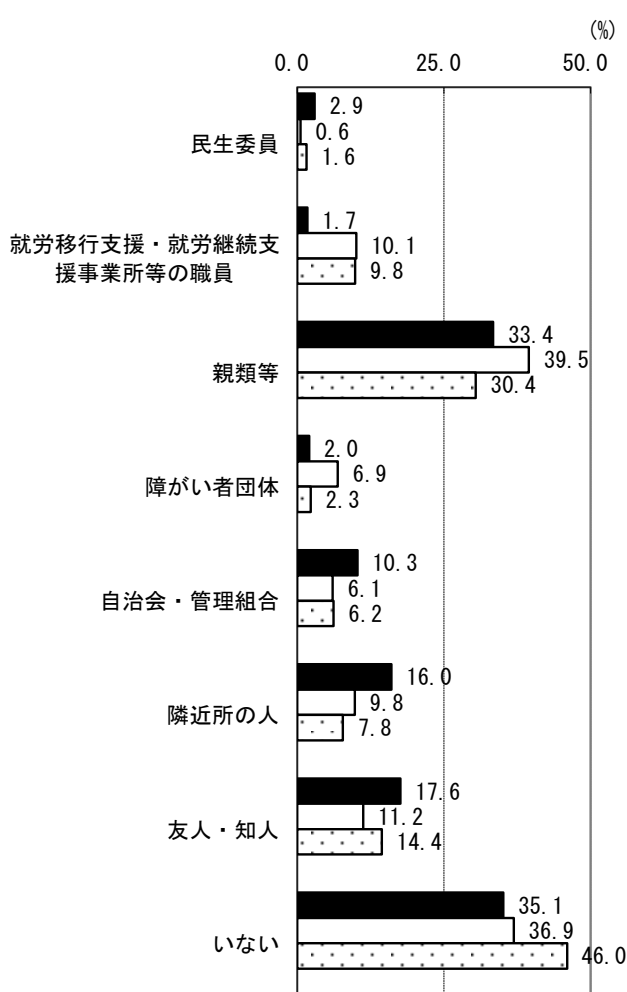
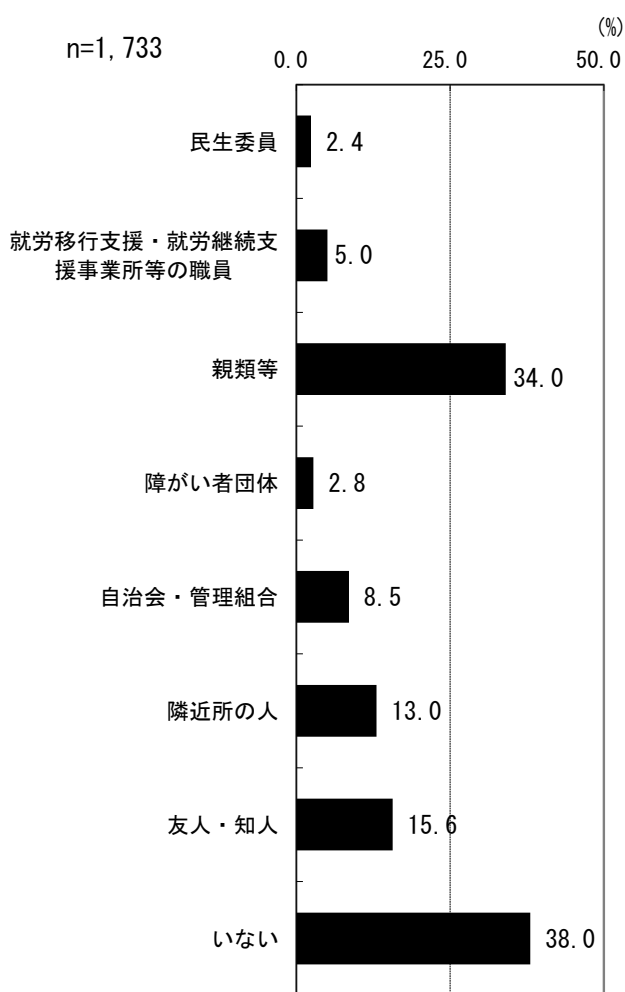


問 39 災害時・非常時等に、助けに来てくれる人はいますか。または助けを前もってお願いしている人はいますか。(〇はいくつでも)

- ・全体では「いない」が38.0%と最も多く、次いで「親類等」が34.0%となっている。
- ・障害別でみると、全ての障害で「親類等」「いない」が3割を超えている。
- ・「身体」では「隣近所の人」「自治会・管理組合」「友人・知人」などが、他の障害と比べて割合が高い。
- ・「知的」では「親類等」「障がい者団体」などが、他の障害と比べて割合が高い。
- ・「精神」では「いない」が、他の障害と比べて割合が高い。

(全体の傾向)

(平成 25 年度障害別)

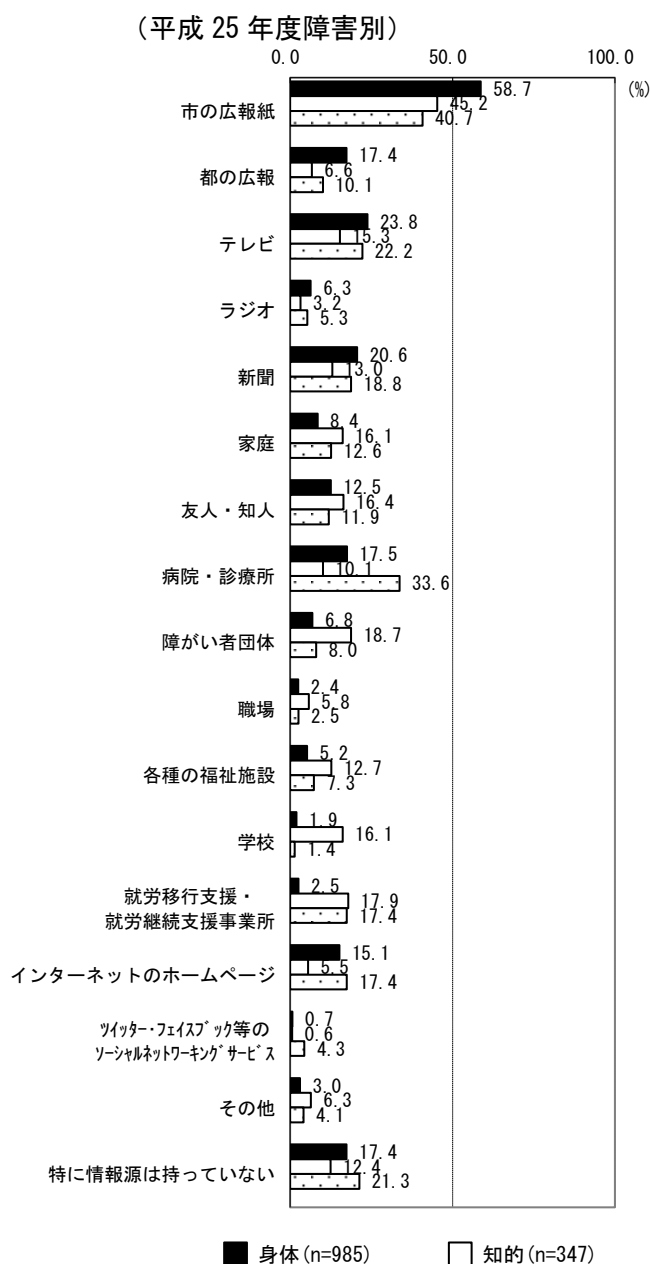


■ 身体 (n=985) □ 知的 (n=347) ▨ 精神 (n=437)

【9. 福祉情報・相談の状況】

問 40 あなたは、福祉の情報を何（どこ又は誰）から得ていますか。（〇はいくつでも）

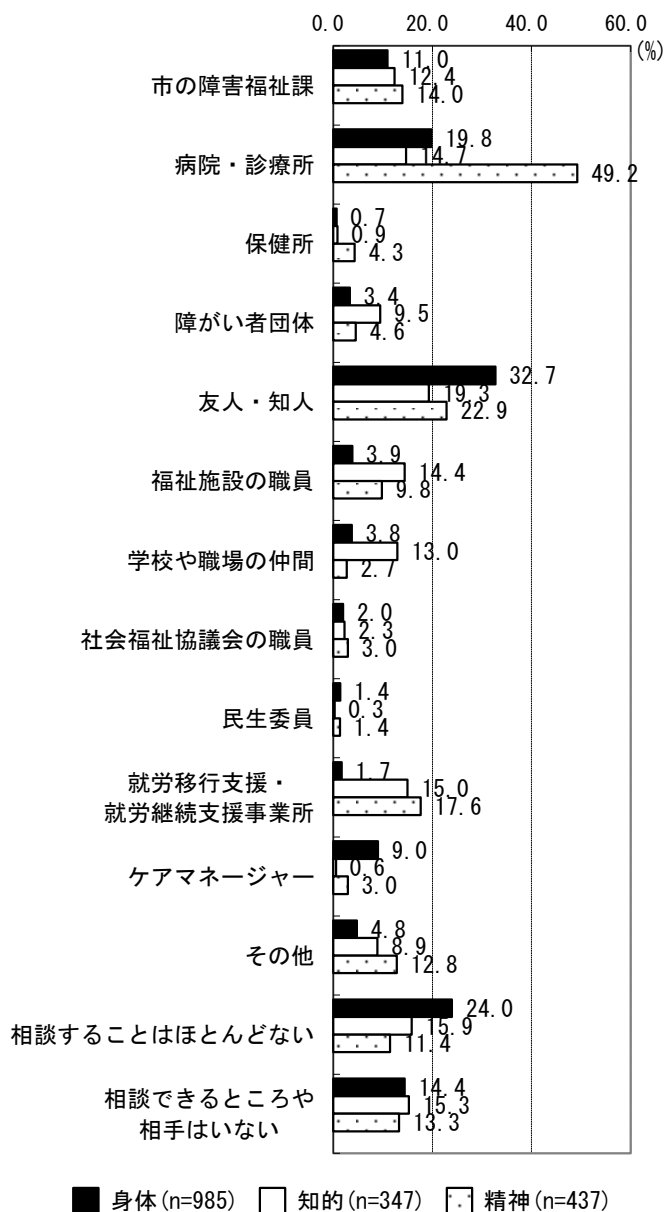
- ・全体では「市の広報紙」が 51.4%と最も多くなっている。次いで「テレビ」が 22.1%となっている。
- ・障害別で見ると、全ての障害で「市の広報紙」が4割以上と最も多く、「身体」では6割近くを占めている。
- ・「知的」では「学校」「障がい者団体」などが、他の障害と比べて割合が高くなっている。
- ・「精神」では「病院・診療所」が 33.6%と、他の障害に比べて割合が高くなっている。



問 41 あなたは、家族や親戚以外でご自身の悩みや不安を誰と相談しますか。(〇はいくつでも)

- ・全体では「友人・知人」が 27.8%と最も多く、次いで「病院・診療所」が 26.2%となっている。
- ・障害別でみると「身体」では「友人・知人」が 32.7%と最も多く、次いで「相談することはほとんどない」が 24.0%となっている。また、どちらも他の障害と比べて割合が高い。
- ・「学校や職場の仲間」「福祉施設の職員」「障がい者団体」については、「知的」が他の障害と比べて割合が高くなっている。
- ・「精神」では「病院・診療所」が 49.2%と最も多く、次いで「友人・知人」が 22.9%となっている。また、「病院・診療所」は他の障害と比べて割合が高くなっている。

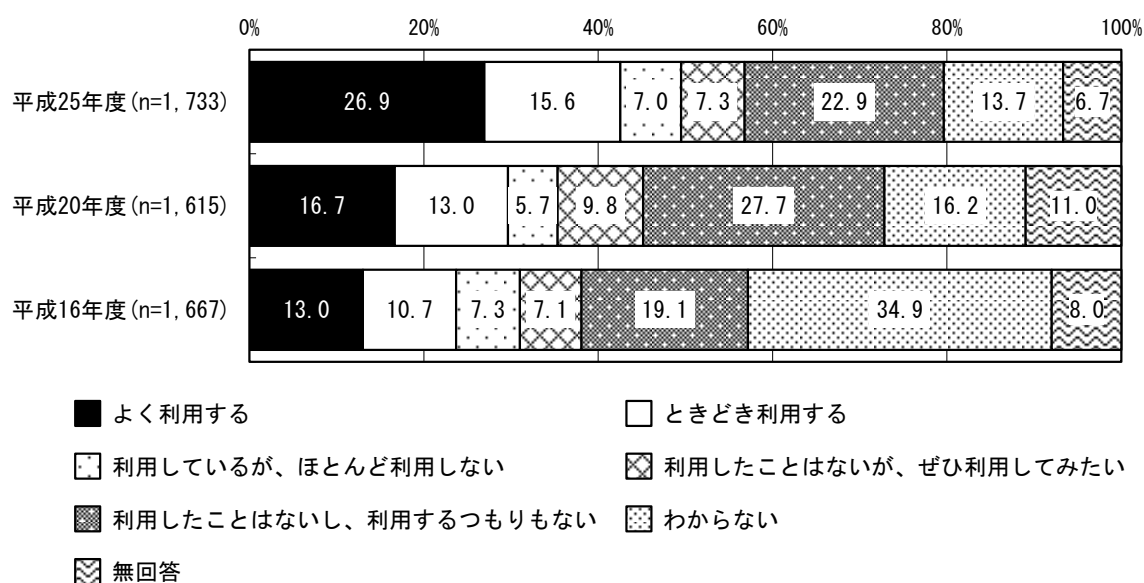
(平成 25 年度障害別)



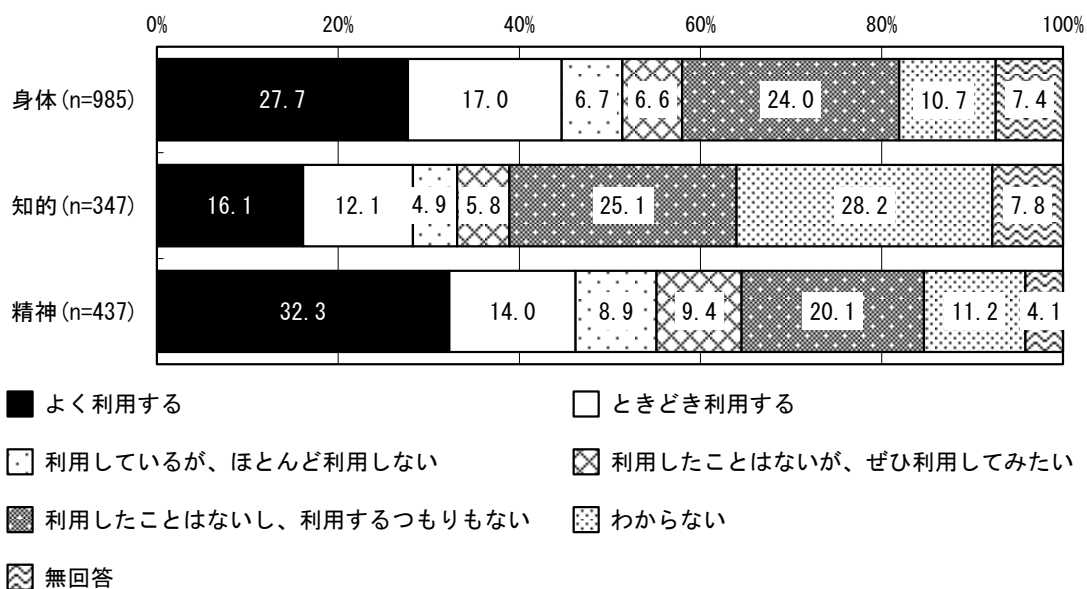
問 42 あなたはインターネットを利用していますか。(〇は1つ)

- 全体では「よく利用する」が 26.9%と最も多く、次いで「利用したことはないし、利用するつもりもない」が 22.9%となっている。
- 前回までと比較すると「よく利用する」「ときどき利用する」が、更に増加している。
- 障害別でみると「よく利用する」は「精神」が 32.3%で最も割合が高く、「時々利用する」と合計しても最も高い。また「利用したことはないが、ぜひ利用してみたい」についても「精神」が他の障害に比べて高くなっている。
- 「知的」では「わからない」が 28.2%と最も多く、次いで「利用したことはないし、利用するつもりもない」が 25.1%となっている。またどちらについても、他の障害と比べて割合が高くなっている。

(経年比較)

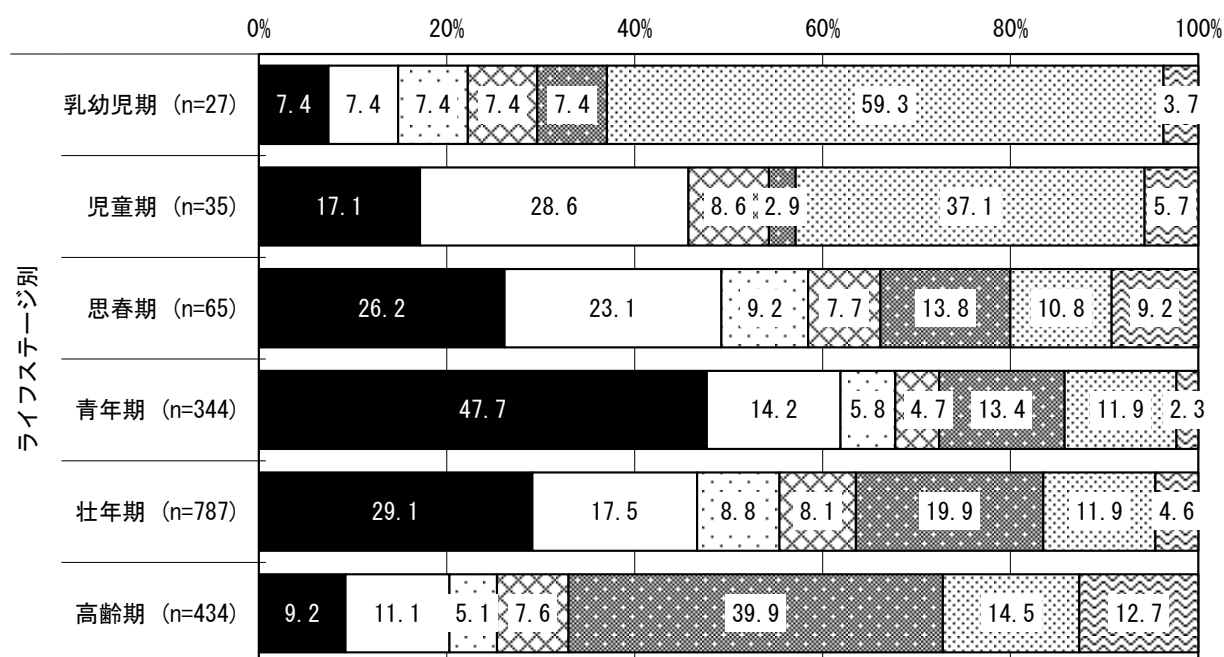


(平成 25 年度障害別)



- ・ライフステージ別でみると「よく利用する」は「青年期」において47.7%と最も高く、「壮年期」、「思春期」と続いている。
- ・「よく利用する」「ときどき利用する」の合計は、「青年期」において6割強と最も高く、「思春期」、「壮年期」と続いている。
- ・「高齢期」においては「利用したことはないし、利用するつもりもない」が39.9%と最も多い。また、他のライフステージに比べて割合が高くなっている。

(ライフステージ別)



- よく利用する
- ときどき利用する
- ◻ 利用しているが、ほとんど利用しない
- ▨ 利用したことはないが、ぜひ利用してみたい
- ▧ 利用したことはないし、利用するつもりもない
- ▩ わからない
- 無回答

※ライフステージ

区分	年齢
乳幼児期	6歳以下
児童期	7歳～12歳
思春期	13歳～19歳
青年期	20歳～39歳
壮年期	40歳～64歳
高齢期	65歳以上

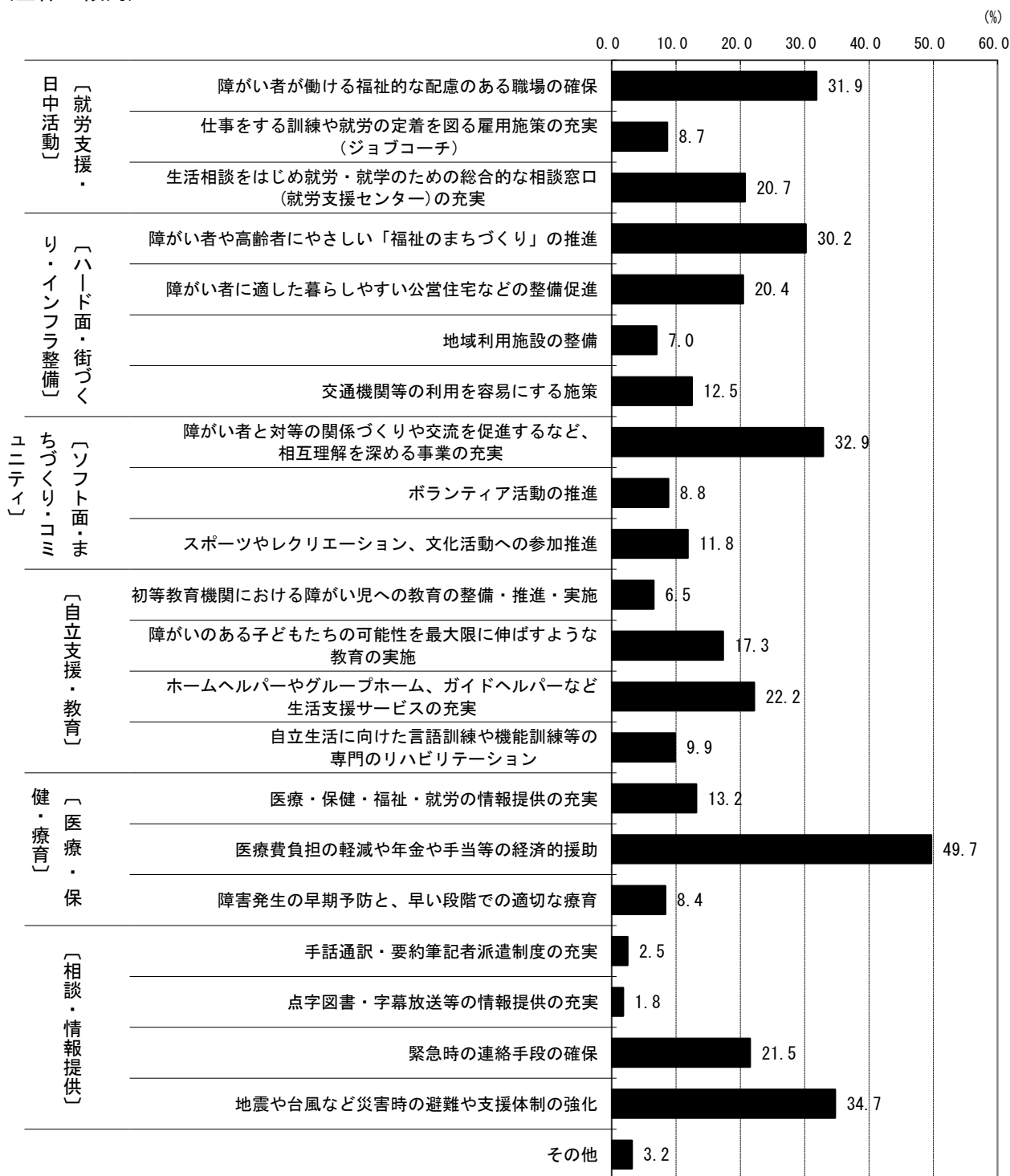
【10. 市に望む施策】

問 43 今後、多摩市の障がい者施策は、特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。

(各カテゴリーで○は1つもしくは無し)

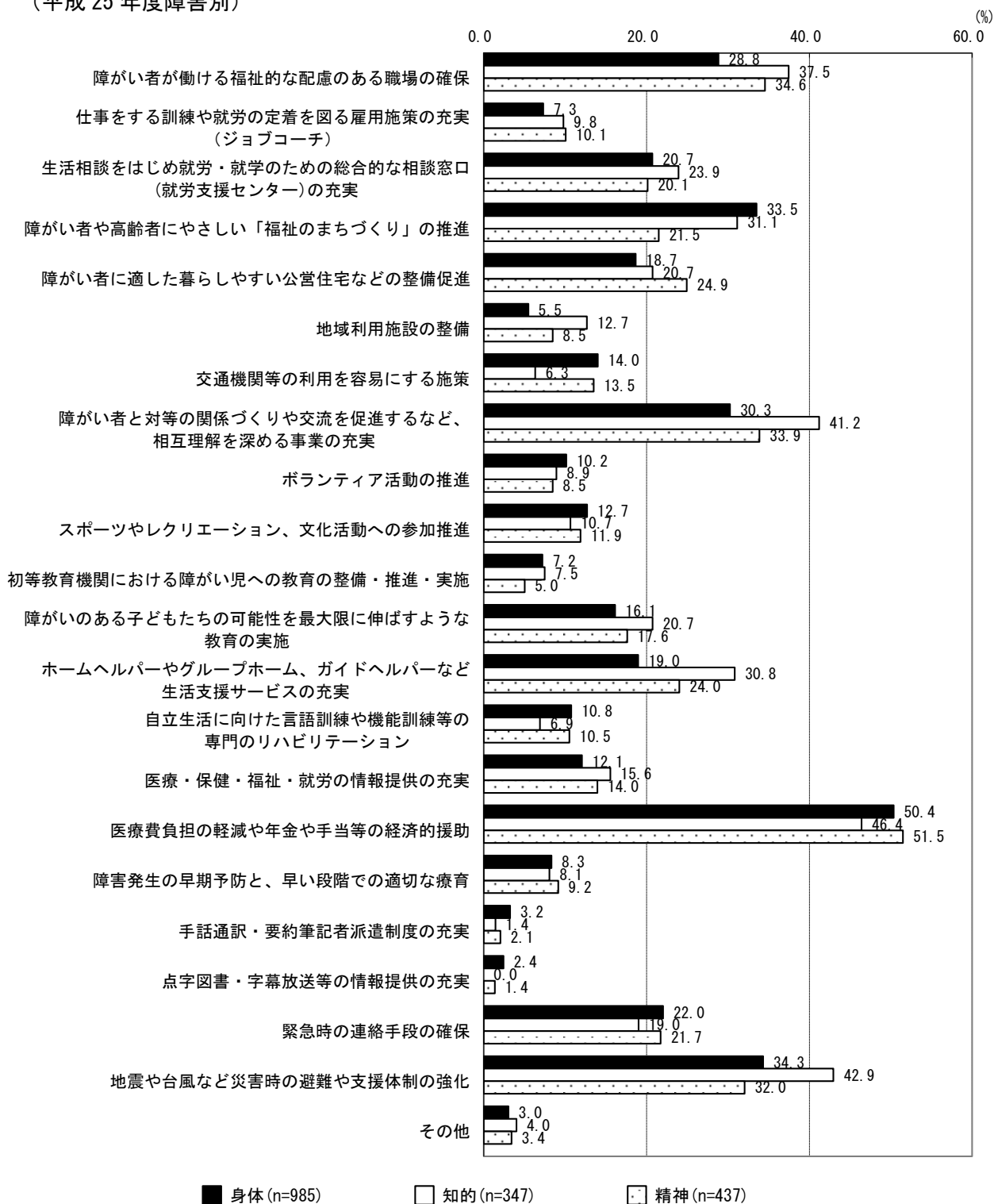
- ・全カテゴリー中では「医療費負担の軽減や年金や手当等の経済的援助」が 49.7%と最も多く、次いで「地震や台風など災害時の避難や支援体制の強化」が 34.7%となっている。

(全体の傾向)



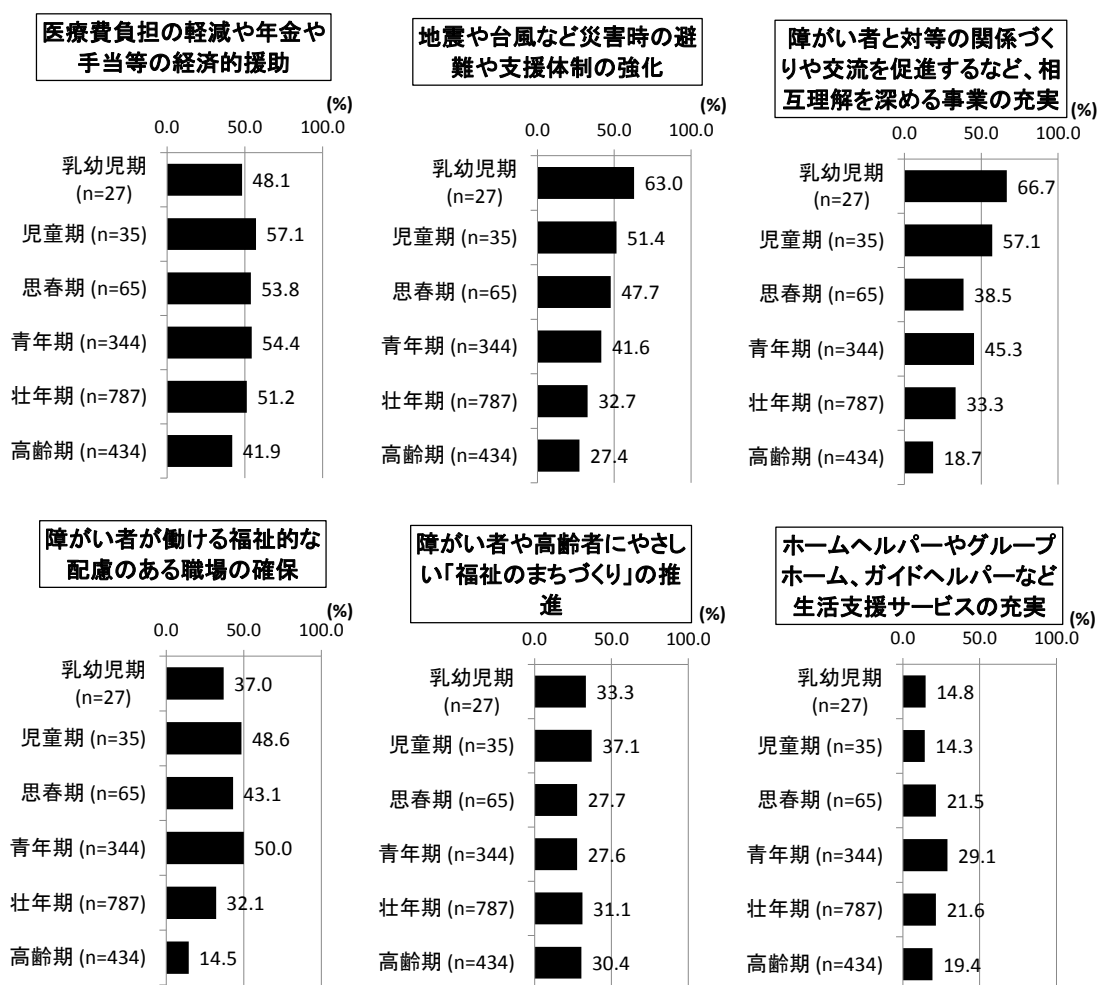
- ・障害別でみると、全ての障害で「医療費負担の軽減や年金や手当等の経済的援助」が最も多くなっている。
- ・「知的」では「障がい者と対等の関係づくりや交流を促進するなど、相互理解を深める事業の充実」「地震や台風など災害時の非難や支援体制の強化」「ホームヘルパーやグループホーム、ガイドヘルパーなど生活支援サービスの充実」が、他の障害と比べて高くなっている。

(平成 25 年度障害別)



- ・ライフステージ別でみると、全てのライフステージにおいて「医療費負担の軽減や年金や手当等の経済的援助」が4割以上を占め、多くなっている。
- ・「乳幼児期」においては「地震や台風など災害時の避難や支援体制の強化」「障がい者と対等の関係づくりや交流を促進するなど、相互理解を深める事業の充実」が6割を超えている。
- ・「児童期」においては「医療費負担の軽減や年金や手当等の経済的援助」「障がい者と対等の関係づくりや交流を促進するなど、相互理解を深める事業の充実」「地震や台風など災害時の避難や支援体制の強化」が5割を超えている。
- ・「地震や台風など災害時の避難や支援体制の強化」については、ライフステージが進むにつれ割合が低下しているものの、最も低い「高齢期」においても27.4%を占めている。

(ライフステージ別、上位6項目)



※ライフステージ

区分	年齢
乳幼児期	6歳以下
児童期	7歳～12歳
思春期	13歳～19歳
青年期	20歳～39歳
壮年期	40歳～64歳
高齢期	65歳以上

第4章 調査結果のまとめ

【1. 基本的事項】

○年齢の分布状況

年齢を障害別にみると、身体障がい者では高齢者の手帳所有者が非常に多いことから、今回調査では65歳以上の身体障害者手帳所持者のうち25%を調査対象者として抽出して調査したが、それでも50歳以上の方が7割以上を占めている。

また、知的障がい者では20歳未満の方が約3割を占めており、他の障害と比べて児童期人口の割合が高く、精神障がい者では30歳～64歳の方が7割以上を占めており、青年期～壮年期人口の割合が高くなっている。

項目	区分	1位	2位	3位
年齢	身体	50歳～64歳 (38.8%)	65歳～74歳 (17.1%)	75歳～84歳 (15.2%)
	知的	40歳～49歳 (20.2%)	20歳～29歳 (19.9%)	30歳～39歳 (19.3%)
	精神	40歳～49歳 (25.4%) 50歳～64歳 (25.4%)		30歳～39歳 (24.7%)

○同居している方について

同居している方についてみると、身体障がい者では、高齢者が多いこともあり、「配偶者」の割合が高くなっている。

知的障がい者では児童期の割合が高いこともあり、「母親」「父親」の占める割合が高くなっている。

精神障がい者についても、「母親」「父親」の割合が高くなっているが、「自分一人だけ」も比較的高くなっている状況が目立っている。

項目	区分	1位	2位	3位
一緒に暮らしている人	身体	配偶者 (51.7%)	子供（未婚） (24.3%)	自分一人だけ (19.1%)
	知的	母親 (79.0%)	父親 (63.7%)	兄弟姉妹 (38.9%)
	精神	母親 (35.0%)	自分一人だけ (31.4%)	父親 (25.2%)

【2. 住宅状況】

○住まいの状況

全体で見ると、持ち家が半数以上を占める。

身体障がい者、知的障がい者では「分譲マンション・アパート」の割合が最も高くなっており、精神障がい者では「公団公営の賃貸住宅・団地」の割合が高くなっている。

項目	区分	1位	2位	3位
住まいの状況	身体	分譲マンション・アパート (33.8%)	一戸建て (持ち家) (25.6%)	公団公営の賃貸住宅・団地 (24.3%)
	知的	分譲マンション・アパート (28.5%)	一戸建て (持ち家) (26.8%)	公団公営の賃貸住宅・団地 (24.8%)
	精神	公団公営の賃貸住宅・団地 (31.8%)	民間賃貸マンション・アパート (22.7%)	分譲マンション・アパート (19.9%)

○改善したい箇所について

全体、障害別ともに「特に問題はない」の割合が最も高くなっているが、改善を必要とする箇所としては「浴室の改良」、「トイレの改良」が高くなっており、身体障がい者では「手すりの取り付け」や「床の段差の解消」など、改善を必要とする箇所が他の障害に比べて多いことがうかがえる。

項目	区分	1位	2位	3位
住まいの状況	身体	浴室の改良 (26.7%)	トイレの改良 (14.9%)	手すりの取り付け (14.8%)
	知的	浴室の改良 (21.0%)	トイレの改良 (16.0%)	その他 (15.0%)
	精神	浴室の改良 (24.7%)	トイレの改良 (21.5%)	その他 (18.1%)

【3. 日常生活】

○日常生活の状況について

全体、障害別ともに「トイレ」「食事」では「自分でできる」の割合が高くなっている。

障害別でみると、知的障がい者では他の障害に比べて「自分でできる」の割合が低くなっている。

《「自分でできる」「時間はかかるが自分でできる」の合計値について》

項目	区分	1位	2位	3位
日常生活	身体	食事 (86.1%)	トイレ (85.7%)	会話、意志の伝達 (82.3%)
	知的	食事 (69.7%)	着替え (67.7%)	トイレ (66.3%)
	精神	トイレ (94.5%)	着替え (91.5%)	食事 (88.5%)

障害別でみると、身体障がい者では、「掃除」、知的障がい者では「金銭管理」、精神障がい者では「調理」において、「介助が必要」の割合が高くなっている。

知的障がい者では全体的に「介助が必要」の割合が他の障害に比べて高くなっている。

《「一部介助が必要」「全て介助が必要」の合計値について》

項目	区分	1位	2位	3位
日常生活	身体	掃除 (29.3%)	買い物 (27.6%)	調理 (25.9%)
	知的	金銭管理 (68.0%)	健康管理（服薬等） (63.1%)	調理 (62.5%)
	精神	調理 (34.8%)	掃除 (30.7%)	時間管理（規則正しい生活等） (30.0%)

【4. 医療の状況】

○治療について

全体、障害別ともに「特に困ったことはない」の割合が最も高くなっているが、知的障がい者では、他の障害に比べて低い割合となっている。

治療にあたって困っていることについてみると、知的障がい者では「障がい者を診療してくれる専門の医師が少ない」が最も高くなっている。精神障がい者では、他の障害と比べて「経済的な負担が重い」が高くなっており、医療費の負担が課題となっている。

項目	区分	1位	2位	3位
治療について	身体	特に困ったことはない (44.8%)	通院するための交通手段を確保しにくい (10.1%)	経済的な負担が重い (9.9%)
	知的	特に困ったことはない (26.8%)	障がい者を診療してくれる専門の医師が少ない (22.5%)	医者に病気の症状が正しく伝わらない (18.4%)
	精神	特に困ったことはない (35.7%)	経済的な負担が重い (23.6%)	医者に病気の症状が正しく伝わらない (20.1%)

○「障害者総合支援法」自立支援医療制度について

3つの自立支援医療制度の認知度が低くなっており、現在の利用者や今後利用したい人の数も少なくなっている。

「精神通院医療」については、精神障がい者の認知度、利用状況がともに高く、制度のニーズの高さがうかがえる。

項目	区分	名称も内容も知っている	名称のみ知っている	知らない
自立支援医療制度	精神通院医療	23.3% (2位)	14.5% (3位)	55.1% (1位)
	更生医療	5.2% (3位)	11.5% (2位)	68.3% (1位)
	育成医療	4.2% (3位)	9.7% (2位)	70.5% (1位)

【5. 外出の状況】

○外出頻度について

外出頻度をみると、全体では「ほぼ毎日」が半数以上を占めている。

ライフステージ別にみると、外出頻度は思春期で最も高くなっており、移動支援のニーズが高くなっている。

項目	区分	ほぼ毎日	週に2～3回	月に2～3回	外出したいが健康状態等により不定期	ほとんど外出していない
外出頻度	乳幼児期	81.5%(1位)	18.5%(2位)	0.0%	0.0%	0.0%
	児童期	80.0%(1位)	8.6%(2位)	2.9%(3位)	2.9%(3位)	2.9%(3位)
	思春期	83.1%(1位)	4.6%(3位)	3.1%	0.0%	6.2%(2位)
	青年期	64.2%(1位)	12.8%(2位)	3.8%	11.9%(3位)	5.2%
	壮年期	53.9%(1位)	22.2%(2位)	5.3%	10.0%(3位)	6.6%
	高齢期	33.9%(2位)	34.1%(1位)	8.1%	9.9%	11.3%(3位)

○外出時に困ることについて

全体では「初めて行くところなどは、どのように行けばよいかわからない」「交通費が高い」「バス・電車等が容易に利用できない」、「歩道に段差や階段・障害物等が多い」等が高くなっており、施設の整備や交通機関の利用のしやすさに向けた取り組みが求められている。

身体障がい者では「歩道に段差や階段・障害物等が多い」が他の障害に比べて高くなっており、段差や階段が外出の妨げになっていることがうかがえる。

知的障がい者では「初めて行くところなどは、どのように行けばよいかわからない」「相手の言うことがよく理解できない」が高くなっており、移動時のコミュニケーション支援の必要性が高くなっている。

精神障がい者では「周囲の人の視線が気にかかる」「交通費が高い」が高く、障害特性に関わる問題が外出の妨げとなっている。

項目	区分	1位	2位	3位
外出時に困ること	身体	歩道に段差や階段・障害物等が多い (26.8%)	交通費が高い (17.3%)	その他 (17.1%)
	知的	初めて行くところなどは、どのように行けばよいかわからない (44.7%)	相手の言うことがよく理解できない (29.7%)	まわりの人の障害に対する理解や認識が低い (26.8%)
	精神	まわりの視線が気にかかる (35.9%)	交通費が高い (35.0%)	初めて行くところなどは、どのように行けばよいかわからない (34.8%)

【6. 日中活動の状況】

○日常の暮らし方について

全体では「働いている」が最も高く、次いで「何もしないで家の中にいる」となっている。

身体障がい者、知的障がい者では「働いている」が高く、今後も雇用の場などの受け入れ態勢を充実させていくことが求められる。

精神障がい者では「何もしないで家の中にいる」が最も高くなっているが、今後の暮らし方で就労の意欲がみられることから、就労支援の充実を図ることが重要と思われる。

項目	区分	1位	2位	3位
日常の暮らし方	身体	働いている (27.5%)	何もしないで家の中にいる (23.0%)	家事・育児をしている (18.6%)
	知的	働いている (23.3%)	学級・学校で教育を受けている (21.0%)	就労移行支援・就労継続支援事業所に通っている (18.7%)
	精神	何もしないで家の中にいる (36.8%)	家事・育児をしている (19.9%)	病院や施設等で治療・生活訓練等を受けている (18.8%)
今後の暮らし方	身体	その他 (11.9%)	わからない (11.0%)	何もしないで自宅で過ごしたい (10.7%)
	知的	わからない (14.4%)	学校に通いたい (11.0%)	就労移行支援・就労継続支援事業所等で働きたい (10.7%)
	精神	わからない (14.9%)	常勤職員として一般企業で働きたい (12.1%)	何もしないで自宅で過ごしたい (10.1%)

○生活していく上で不安なこと

全体では「病気が再発したり悪化したりすること」、「経済的なこと」が高くなっている。

障害別にみても全体とほぼ同じ傾向にあり、健康管理に関する相談など医療機関での相談体制を充実させることが求められる。また、一人暮らしの不安も高く、安心して一人暮らしができるよう支援サービスなどの充実を図ることが求められている。

項目	区分	1位	2位	3位
生活していく上で不安なこと	身体	病気が再発したり悪化したりすること (62.4%)	経済的なこと (44.7%)	一人暮らしの不安(家事や掃除含めて) (15.7%)
	知的	経済的なこと (34.3%)	家族以外との人間関係 (33.4%)	病気が再発したり悪化したりすること (23.9%)
	精神	病気が再発したり悪化したりすること (60.9%)	経済的なこと (56.8%)	家族以外との人間関係 (26.8%)

【7. 就労状況】

○就労状況について

働いている人の雇用形態についてみると、一般就労の割合は身体障がい者、知的障がい者で半数以上を占めているのに対して、精神障がい者では2割にとどまっている。

また、就労意欲についてみると、働きたい人の割合は精神障がい者で最も高くなっており、雇用の場の確保が求められている。就労意欲のある人に対する就労支援の充実が求められている。

項目	区分	1位	2位	3位
働いている人の雇用形態	身体	一般就労(民間の会社で働いている) (54.2%)	パート・アルバイト (22.7%)	自営業 (11.2%)
	知的	一般就労(民間の会社で働いている) (57.3%)	パート・アルバイト (24.0%)	その他 (16.0%)
	精神	パート・アルバイト (59.7%)	一般就労(民間の会社で働いている) (22.4%)	その他 (9.0%)

項目	区分	働きたいので仕事を探している	働きたいが仕事がない、探し方がわからない	働きたいと思わない	どちらともいえない
働いていない、就労継続支援事業所等に通所している人の就労意欲	身体	6.1%	8.7%	35.4%(1位)	23.3%(2位)
	知的	7.0%	14.4%	15.2%(3位)	24.3%(1位)
	精神	11.6%	20.6%(3位)	21.2%(2位)	28.8%(1位)

○就労に必要な環境条件や整備について

全体では、「健康状態にあわせた働き方ができる」が最も高くなっている。「自宅近くに職場がある」の割合も高くなっており、地域での雇用促進に向けた取り組みが求められる。

障害別にみると、身体障がい者と精神障がい者では「健康状態にあわせた働き方ができる」が最も高くなっており、知的障がい者では「障がいのある人に適した仕事が開発されている」が最も高くなっている。

項目	区分	1位	2位	3位
就労に必要な環境条件や整備	身体	健康状態にあわせた働き方ができる (41.7%)	自宅近くに職場がある (32.6%)	障がいのある人に適した仕事が開発されている (23.6%)
	知的	障がいのある人に適した仕事が開発されている (39.5%)	自宅近くに職場がある (30.3%)	事業主や職場の人たちが障害者雇用を理解する (24.5%)
	精神	健康状態にあわせた働き方ができる (45.5%)	自宅近くに職場がある (29.1%)	障がいのある人に適した仕事が開発されている (26.1%)

【8. 福祉サービス】

○「障害者総合支援法」「児童福祉法」のサービス利用状況について

全体で見ると「相談支援」、「移動支援」のニーズが高く、「相談支援」については全ての障害でニーズが高くなっている。

身体障がい者では「日常生活用具給付」のニーズが最も高く、「居宅介護」、「移動支援」のニーズも高くなっている。

知的障がい者では他の障害と比べてニーズの高い項目の割合が高くなっており、特に「移動支援」や「相談支援」、「日中一時支援」などでのニーズが高くなっている。

精神障がい者では「就労移行支援」、「就労継続支援」のニーズが高くなっている。

項目	区分	1位	2位	3位
障害者総合支援法・児童福祉法 サービス利用状況	身体	日常生活用具給付 (30.3%)	居宅介護 (30.1%)	移動支援 (27.3%)
	知的	移動支援 (48.2%)	相談支援 (47.3%)	日中一時支援事業 (40.6%)
	精神	就労移行支援 (38.4%)	就労継続支援 (B型) (37.4%)	相談支援 (36.9%)

※「現在利用している（または申請中）」「現在利用していないが、1年以内に利用したい」「現在利用していないが、1年後から5年以内に利用したい」「当面は利用しないが、いずれ利用したい」の合計を記入

○その他の福祉サービスについて

現在多摩市で行われている事業の認知状況は、全体的に低い状況となっている。

特に「地域福祉権利擁護事業」「総合オンブズマン」「障害者虐待防止センター」では、「知らない」が6割以上を占めており、今後、広報活動を充実させることが課題となっている。

区分	名称も内容も知っている	名称のみ知っている	知らない
成年後見制度	29.0% (2位)	28.0% (3位)	31.4% (1位)
地域福祉権利擁護事業	5.1% (3位)	9.7% (2位)	73.8% (1位)
総合オンブズマン	8.4% (3位)	20.1% (2位)	64.5% (1位)
障害者虐待防止センター	8.5% (3位)	17.4% (2位)	66.5% (1位)

【9. 福祉情報・相談の状況】

○情報源について

全体、障害別ともに「市の広報紙」が最も高くなっており、広報紙での情報提供の充実が求められている。

知的障がい者では「障がい者団体」、精神障がい者では「病院・診療所」の割合も高くなっている。

項目	区分	1位	2位	3位
情報源	身体	市の広報紙 (58.7%)	テレビ (23.8%)	新聞 (20.6%)
	知的	市の広報紙 (45.2%)	障がい者団体 (18.7%)	就労移行支援・就労継続 支援事業所 (17.9%)
	精神	市の広報紙 (40.7%)	病院・診療所 (33.6%)	テレビ (22.2%)

○相談相手について

全体で見ると「友人・知人」が最も高く、身近な人への相談が多いことがうかがえる。

身体障がい者では、他の障害に比べて「相談することはほとんどない」の割合が高くなっている。

知的障がい者では、「相談することはほとんどない」が最も高くなっているが、「相談できるところや相手はいない」の割合も高く、施設等での相談体制の充実が求められている。

精神障がい者では「病院・診療所」が大半を占めており、医療機関での相談体制の重要性が高くなっている。

項目	区分	1位	2位	3位
相談相手	身体	友人・知人 (32.7%)	相談することはほとんどない (24.0%)	病院・診療所 (19.8%)
	知的	友人・知人 (19.3%)	相談することはほとんどない (15.9%)	相談できるところや相手はいない (15.3%)
	精神	病院・診療所 (49.2%)	友人・知人 (22.9%)	就労移行支援・就労継続 支援事業所 (17.6%)

【10. 市に望む施策】

○市に望む施策について

全体、障害別ともに「医療費負担の軽減や年金等の経済的援助」の割合が高くなっており、経済面での援助の充実を求める人が高くなっている。また、「地震や台風など災害時の避難や支援体制の強化」の割合も高く、震災などの自然災害時における障がい者への的確な支援のニーズが高まっている。

障害別にみると、精神障がい者では「障がい者が働ける福祉的な配慮のある職場」の割合が高くなっており、障がい者の働きやすい職場の確保や雇用促進の取り組みが課題となっている。

項目	区分	1位	2位	3位
市に望む 施策	身体	医療費負担の軽減や年金や手当等 の経済的援助 (50.4%)	地震や台風など災害時の避難や支援体制の強化 (34.3%)	障がい者や高齢者にやさしい「福祉のまちづくり」の推進 (33.5%)
	知的	医療費負担の軽減や年金や手当等 の経済的援助 (46.4%)	地震や台風など災害時の避難や支援体制の強化 (42.9%)	障がい者と対等の関係づくりや交流を促進するなど、相互理解を深める事業の充実 (41.2%)
	精神	医療費負担の軽減や年金や手当等 の経済的援助 (51.5%)	障がい者が働ける福祉的な配慮のある職場の確保 (34.6%)	障がい者と対等の関係づくりや交流を促進するなど、相互理解を深める事業の充実 (33.9%)

【資料編について】

今回の調査結果では、その他回答選択肢に記入された回答文や、自由意見記述欄等の回答内容は、データ処理や紙幅の都合上記載しておりません。

数値だけでは推し量れないニーズや意見を汲み取るための貴重な資料ですので、資料編としてまとめたうえで、市役所障害福祉課・行政資料室・ホームページ等で公開しております。あわせてご参照ください。

印刷物番号
25-53

平成25年度多摩市障がい者生活実態調査

平成26年3月発行

発行 多摩市
〒206-8666
東京都多摩市関戸六丁目12番地1
TEL042(375)8111(代表)

編集 健康福祉部障害福祉課

頒布価格 410円